教材の利用について：このPDFは、利用者本人の個人学習目的で保存・印刷して利用できます。法令上認められる場合を除き、PDFまたは印刷物の第三者への配布・販売、問題・選択肢・解説の転載・流用、塾・講座・研修等での無断利用はできません。詳細は利用規約をご確認ください。https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0001 ｜ 難易度：1

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：材料特性
B：鉄筋保護

ア．【材料特性】圧縮に強いコンクリートと引張に強い鉄筋を組み合わせて、互いの弱点を補う。 ／ 【鉄筋保護】鉄筋を火熱・腐食等から保護し、鉄筋とコンクリートの付着・耐久性を確保する。

イ．【材料特性】圧縮に強いコンクリートと引張に強い鉄筋を組み合わせて、互いの弱点を補う。 ／ 【鉄筋保護】建物を軽量化するため鉄筋を外側へ出す。

ウ．【材料特性】木材だけで柱・梁を構成する。 ／ 【鉄筋保護】鉄筋を火熱・腐食等から保護し、鉄筋とコンクリートの付着・耐久性を確保する。

エ．【材料特性】鉄骨だけで骨組みを構成しコンクリートを使用しない。 ／ 【鉄筋保護】コンクリートの乾燥を完全に止める。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。RC造の基本的な考え方である。 Bも適切。鉄筋をコンクリート内部に適切に包むことが耐久性等に重要である。

イ：Aは適切。RC造の基本的な考え方である。 一方Bは不適切。構造・耐久上不適切である。

ウ：Aは不適切。木造の説明である。 一方Bは適切。鉄筋をコンクリート内部に適切に包むことが耐久性等に重要である。

エ：Aは不適切。S造の説明に近い。 Bも不適切。乾燥を完全に止めるものではない。

総合解説：Aについて：RC造では鉄筋とコンクリートを一体化し、荷重に抵抗させる。 Bについて：かぶり不足や剥離により鉄筋が露出すると、腐食が進みやすくなる。

問題 0002 ｜ 難易度：2

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：鉄筋保護
B：腐食対策

ア．【鉄筋保護】鉄筋を火熱・腐食等から保護し、鉄筋とコンクリートの付着・耐久性を確保する。 ／ 【腐食対策】腐食部を確認せず塗料だけ厚く重ねれば必ず安全になる。

イ．【鉄筋保護】鉄筋を火熱・腐食等から保護し、鉄筋とコンクリートの付着・耐久性を確保する。 ／ 【腐食対策】塗膜の劣化や錆の発生を点検し、必要に応じて防錆処置や再塗装を行う。

ウ．【鉄筋保護】建物を軽量化するため鉄筋を外側へ出す。 ／ 【腐食対策】塗膜の劣化や錆の発生を点検し、必要に応じて防錆処置や再塗装を行う。

エ．【鉄筋保護】コンクリートの乾燥を完全に止める。 ／ 【腐食対策】錆が進行しても構造安全性に影響しないので放置する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。鉄筋をコンクリート内部に適切に包むことが耐久性等に重要である。 一方Bは不適切。原因・程度確認が必要である。

イ：Aは適切。鉄筋をコンクリート内部に適切に包むことが耐久性等に重要である。 Bも適切。鋼材は腐食により断面が減少し、性能低下につながる。

ウ：Aは不適切。構造・耐久上不適切である。 一方Bは適切。鋼材は腐食により断面が減少し、性能低下につながる。

エ：Aは不適切。乾燥を完全に止めるものではない。 Bも不適切。腐食は耐力低下要因となる。

総合解説：Aについて：かぶり不足や剥離により鉄筋が露出すると、腐食が進みやすくなる。 Bについて：鉄骨は接合部や雨掛かり部、結露部などを重点的に点検する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0003 ｜ 難易度：1

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：鉄骨造
B：腐朽

ア．【鉄骨造】鋼材を柱・梁などの主要な骨組みに用いる構造である。 ／ 【腐朽】コンクリートの中性化だけ

イ．【鉄骨造】木材だけで軸組を構成する。 ／ 【腐朽】継続的な湿気による木材の腐朽やシロアリ等の被害

ウ．【鉄骨造】鋼材を柱・梁などの主要な骨組みに用いる構造である。 ／ 【腐朽】継続的な湿気による木材の腐朽やシロアリ等の被害

エ．【鉄骨造】主要構造部を土だけで造る。 ／ 【腐朽】鉄筋の錆だけ

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。S造は鋼材による骨組みを中心とする。 一方Bは不適切。RC造で主に問題となる。

イ：Aは不適切。木造の説明である。 一方Bは適切。木材は湿気・腐朽・虫害への対策が重要である。

ウ：Aは適切。S造は鋼材による骨組みを中心とする。 Bも適切。木材は湿気・腐朽・虫害への対策が重要である。

エ：Aは不適切。一般的なS造ではない。 Bも不適切。RC造で主に問題となる。

総合解説：Aについて：鋼材は高い強度を持つ一方、腐食や火熱への対策が重要となる。 Bについて：床下・土台・水回り周辺など湿気が集まりやすい箇所を重点点検する。

問題 0004 ｜ 難易度：2

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：腐食対策
B：耐火被覆

ア．【腐食対策】塗膜の劣化や錆の発生を点検し、必要に応じて防錆処置や再塗装を行う。 ／ 【耐火被覆】鉄骨の重量を増やして地震力を大きくする。

イ．【腐食対策】錆が進行しても構造安全性に影響しないので放置する。 ／ 【耐火被覆】火災時の温度上昇を抑え、鋼材の強度低下を遅らせる。

ウ．【腐食対策】鉄骨は水分で腐食しないため防錆は不要である。 ／ 【耐火被覆】日常の雨漏りを完全に防止する。

エ．【腐食対策】塗膜の劣化や錆の発生を点検し、必要に応じて防錆処置や再塗装を行う。 ／ 【耐火被覆】火災時の温度上昇を抑え、鋼材の強度低下を遅らせる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。鋼材は腐食により断面が減少し、性能低下につながる。 一方Bは不適切。目的と逆である。

イ：Aは不適切。腐食は耐力低下要因となる。 一方Bは適切。鋼材は高温になると強度が低下するため耐火対策が必要となる。

ウ：Aは不適切。鉄は腐食する。 Bも不適切。防水とは別機能である。

エ：Aは適切。鋼材は腐食により断面が減少し、性能低下につながる。 Bも適切。鋼材は高温になると強度が低下するため耐火対策が必要となる。

総合解説：Aについて：鉄骨は接合部や雨掛かり部、結露部などを重点的に点検する。 Bについて：耐火被覆の欠損や剥離は火災時性能に影響するため点検対象となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0005 ｜ 難易度：2

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：耐火被覆
B：筋かい・耐力壁

ア．【耐火被覆】火災時の温度上昇を抑え、鋼材の強度低下を遅らせる。 ／ 【筋かい・耐力壁】適切に配置された耐力壁や筋かい等

イ．【耐火被覆】火災時の温度上昇を抑え、鋼材の強度低下を遅らせる。 ／ 【筋かい・耐力壁】畳だけ

ウ．【耐火被覆】鉄骨の重量を増やして地震力を大きくする。 ／ 【筋かい・耐力壁】適切に配置された耐力壁や筋かい等

エ．【耐火被覆】日常の雨漏りを完全に防止する。 ／ 【筋かい・耐力壁】給水管だけ

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。鋼材は高温になると強度が低下するため耐火対策が必要となる。 Bも適切。建築基準法施行令は木造の軸組について水平力に安全となる壁・筋かい等を求める。

イ：Aは適切。鋼材は高温になると強度が低下するため耐火対策が必要となる。 一方Bは不適切。構造耐力要素ではない。

ウ：Aは不適切。目的と逆である。 一方Bは適切。建築基準法施行令は木造の軸組について水平力に安全となる壁・筋かい等を求める。

エ：Aは不適切。防水とは別機能である。 Bも不適切。構造耐力要素ではない。

総合解説：Aについて：耐火被覆の欠損や剥離は火災時性能に影響するため点検対象となる。 Bについて：耐力壁の撤去や大きな開口変更は構造安全性に影響し得る。

問題 0006 ｜ 難易度：1

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：腐朽
B：構造比較

ア．【腐朽】継続的な湿気による木材の腐朽やシロアリ等の被害 ／ 【構造比較】RC造はシロアリだけ、S造は中性化だけ、木造は鉄筋腐食だけ確認する。

イ．【腐朽】継続的な湿気による木材の腐朽やシロアリ等の被害 ／ 【構造比較】RC造はひび割れ・中性化・鉄筋腐食、S造は鋼材腐食や耐火被覆、木造は腐朽・蟻害・接合部等を重点確認する。

ウ．【腐朽】鋼材の高温軟化だけ ／ 【構造比較】RC造はひび割れ・中性化・鉄筋腐食、S造は鋼材腐食や耐火被覆、木造は腐朽・蟻害・接合部等を重点確認する。

エ．【腐朽】コンクリートの中性化だけ ／ 【構造比較】どの構造も劣化要因は完全に同じである。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。木材は湿気・腐朽・虫害への対策が重要である。 一方Bは不適切。対象構造が逆である。

イ：Aは適切。木材は湿気・腐朽・虫害への対策が重要である。 Bも適切。構造材料ごとに代表的な劣化機構が異なる。

ウ：Aは不適切。鉄骨で問題となる。 一方Bは適切。構造材料ごとに代表的な劣化機構が異なる。

エ：Aは不適切。RC造で主に問題となる。 Bも不適切。材料特性により異なる。

総合解説：Aについて：床下・土台・水回り周辺など湿気が集まりやすい箇所を重点点検する。 Bについて：管理担当者は建物の構造種別を把握して点検計画を立てる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0007 ｜ 難易度：2

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：筋かい・耐力壁
B：荷重伝達

ア．【筋かい・耐力壁】適切に配置された耐力壁や筋かい等 ／ 【荷重伝達】設備配管があれば柱や梁は不要となる。

イ．【筋かい・耐力壁】給水管だけ ／ 【荷重伝達】自重、積載荷重、風圧、地震等の外力に対して安全に力を伝えられるよう構成する。

ウ．【筋かい・耐力壁】適切に配置された耐力壁や筋かい等 ／ 【荷重伝達】自重、積載荷重、風圧、地震等の外力に対して安全に力を伝えられるよう構成する。

エ．【筋かい・耐力壁】内装クロスだけ ／ 【荷重伝達】地震力は構造設計で考慮しない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。建築基準法施行令は木造の軸組について水平力に安全となる壁・筋かい等を求める。 一方Bは不適切。主要構造部は必要である。

イ：Aは不適切。構造耐力要素ではない。 一方Bは適切。建築基準法20条等の基本的な構造安全の考え方である。

ウ：Aは適切。建築基準法施行令は木造の軸組について水平力に安全となる壁・筋かい等を求める。 Bも適切。建築基準法20条等の基本的な構造安全の考え方である。

エ：Aは不適切。構造耐力要素ではない。 Bも不適切。地震等の震動を考慮する。

総合解説：Aについて：耐力壁の撤去や大きな開口変更は構造安全性に影響し得る。 Bについて：維持保全では構造部材の損傷や無断改変を見逃さないことが重要である。

問題 0008 ｜ 難易度：2

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：荷重伝達
B：接合部

ア．【荷重伝達】自重、積載荷重、風圧、地震等の外力に対して安全に力を伝えられるよう構成する。 ／ 【接合部】設備配管の水圧だけを受けるから

イ．【荷重伝達】設備配管があれば柱や梁は不要となる。 ／ 【接合部】部材間で力を伝達する重要箇所であり、緩み・腐食・破損等が構造性能に影響するため

ウ．【荷重伝達】地震力は構造設計で考慮しない。 ／ 【接合部】接合部は構造に力を伝えないため

エ．【荷重伝達】自重、積載荷重、風圧、地震等の外力に対して安全に力を伝えられるよう構成する。 ／ 【接合部】部材間で力を伝達する重要箇所であり、緩み・腐食・破損等が構造性能に影響するため

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。建築基準法20条等の基本的な構造安全の考え方である。 一方Bは不適切。水圧のための部位ではない。

イ：Aは不適切。主要構造部は必要である。 一方Bは適切。接合部は構造力の伝達に重要である。

ウ：Aは不適切。地震等の震動を考慮する。 Bも不適切。力を伝達する。

エ：Aは適切。建築基準法20条等の基本的な構造安全の考え方である。 Bも適切。接合部は構造力の伝達に重要である。

総合解説：Aについて：維持保全では構造部材の損傷や無断改変を見逃さないことが重要である。 Bについて：ボルト、溶接、金物、仕口等の状態は構造種別に応じて確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0009 ｜ 難易度：3

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：構造比較
B：総合

ア．【構造比較】RC造はひび割れ・中性化・鉄筋腐食、S造は鋼材腐食や耐火被覆、木造は腐朽・蟻害・接合部等を重点確認する。／【総合】構造種別、損傷位置・範囲、進行性、改変履歴等を確認し、必要に応じ専門家による診断を行う。

イ．【構造比較】RC造はひび割れ・中性化・鉄筋腐食、S造は鋼材腐食や耐火被覆、木造は腐朽・蟻害・接合部等を重点確認する。／【総合】外観写真だけで安全と断定する。

ウ．【構造比較】構造種別を確認せず同じ点検項目だけを適用する。／【総合】構造種別、損傷位置・範囲、進行性、改変履歴等を確認し、必要に応じ専門家による診断を行う。

エ．【構造比較】RC造はシロアリだけ、S造は中性化だけ、木造は鉄筋腐食だけ確認する。／【総合】構造種別を確認せず補修材だけ塗る。

答え・4肢解説　正答：ア

ア：Aは適切。構造材料ごとに代表的な劣化機構が異なる。 Bも適切。安全性判断には構造特性と損傷状況の把握が必要である。

イ：Aは適切。構造材料ごとに代表的な劣化機構が異なる。 一方Bは不適切。写真だけでは内部状態を判断できない。

ウ：Aは不適切。構造特性に応じた点検が必要である。 一方Bは適切。安全性判断には構造特性と損傷状況の把握が必要である。

エ：Aは不適切。対象構造が逆である。 Bも不適切。原因確認が必要である。

総合解説：Aについて：管理担当者は建物の構造種別を把握して点検計画を立てる。 Bについて：管理者は異常兆候を発見し、必要な専門診断につなぐ役割を担う。

問題 0010 ｜ 難易度：2

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：接合部
B：耐力壁撤去

ア．【接合部】部材間で力を伝達する重要箇所であり、緩み・腐食・破損等が構造性能に影響するため／【耐力壁撤去】入居者が希望すれば構造安全の確認は不要である。

イ．【接合部】部材間で力を伝達する重要箇所であり、緩み・腐食・破損等が構造性能に影響するため／【耐力壁撤去】構造図・設計者等を通じて構造上の役割を確認し、安全性を検討せず撤去を認めない。

ウ．【接合部】接合部は構造に力を伝えないため／【耐力壁撤去】構造図・設計者等を通じて構造上の役割を確認し、安全性を検討せず撤去を認めない。

エ．【接合部】見た目だけの装飾部だから／【耐力壁撤去】壁を撤去すると必ず耐震性が向上する。

答え・4肢解説　正答：イ

ア：Aは適切。接合部は構造力の伝達に重要である。 一方Bは不適切。安全確認が必要である。

イ：Aは適切。接合部は構造力の伝達に重要である。 Bも適切。耐力壁は水平力への抵抗に関わるため、安易な撤去は危険である。

ウ：Aは不適切。力を伝達する。 一方Bは適切。耐力壁は水平力への抵抗に関わるため、安易な撤去は危険である。

エ：Aは不適切。構造部である。 Bも不適切。一般に逆である。

総合解説：Aについて：ボルト、溶接、金物、仕口等の状態は構造種別に応じて確認する。 Bについて：改修時は仕上げ材ではなく、構造耐力上主要な部分かを確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0011 ｜ 難易度：3

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：耐力壁撤去
B：材料特性

ア．【耐力壁撤去】構造図・設計者等を通じて構造上の役割を確認し、安全性を検討せず撤去を認めない。／【材料特性】コンクリートは引張に極めて強いため鉄筋を入れないのが原則である。

イ．【耐力壁撤去】入居者が希望すれば構造安全の確認は不要である。／【材料特性】圧縮に強いコンクリートと引張に強い鉄筋を組み合わせて、互いの弱点を補う。

ウ．【耐力壁撤去】構造図・設計者等を通じて構造上の役割を確認し、安全性を検討せず撤去を認めない。／【材料特性】圧縮に強いコンクリートと引張に強い鉄筋を組み合わせて、互いの弱点を補う。

エ．【耐力壁撤去】壁を撤去すると必ず耐震性が向上する。／【材料特性】木材だけで柱・梁を構成する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。耐力壁は水平力への抵抗に関わるため、安易な撤去は危険である。 一方Bは不適切。コンクリートは引張に弱いため鉄筋で補強する。

イ：Aは不適切。安全確認が必要である。 一方Bは適切。RC造の基本的な考え方である。

ウ：Aは適切。耐力壁は水平力への抵抗に関わるため、安易な撤去は危険である。 Bも適切。RC造の基本的な考え方である。

エ：Aは不適切。一般に逆である。 Bも不適切。木造の説明である。

総合解説：Aについて：改修時は仕上げ材ではなく、構造耐力上主要な部分かを確認する。 Bについて：RC造では鉄筋とコンクリートを一体化し、荷重に抵抗させる。

問題 0012 ｜ 難易度：3

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：総合
B：鉄骨造

ア．【総合】構造種別、損傷位置・範囲、進行性、改変履歴等を確認し、必要に応じ専門家による診断を行う。／【鉄骨造】主要構造部を土だけで造る。

イ．【総合】入居者から苦情がなければ構造損傷を放置する。／【鉄骨造】鋼材を柱・梁などの主要な骨組みに用いる構造である。

ウ．【総合】外観写真だけで安全と断定する。／【鉄骨造】鉄筋を配置したコンクリートのみで骨組みを造る。

エ．【総合】構造種別、損傷位置・範囲、進行性、改変履歴等を確認し、必要に応じ専門家による診断を行う。／【鉄骨造】鋼材を柱・梁などの主要な骨組みに用いる構造である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。安全性判断には構造特性と損傷状況の把握が必要である。 一方Bは不適切。一般的なS造ではない。

イ：Aは不適切。安全上の問題は苦情の有無だけで判断しない。 一方Bは適切。S造は鋼材による骨組みを中心とする。

ウ：Aは不適切。写真だけでは内部状態を判断できない。 Bも不適切。RC造の説明である。

エ：Aは適切。安全性判断には構造特性と損傷状況の把握が必要である。 Bも適切。S造は鋼材による骨組みを中心とする。

総合解説：Aについて：管理者は異常兆候を発見し、必要な専門診断につなぐ役割を担う。 Bについて：鋼材は高い強度を持つ一方、腐食や火熱への対策が重要となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0013 ｜ 難易度：2

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：中性化
B：錆汁

ア．【中性化】鉄筋を保護していた高アルカリ環境が失われ、鉄筋腐食の危険が高まる。 ／ 【錆汁】鉄筋腐食の進行

イ．【中性化】鉄筋を保護していた高アルカリ環境が失われ、鉄筋腐食の危険が高まる。 ／ 【錆汁】排水トラップの封水切れ

ウ．【中性化】木材の含水率だけが上昇する。 ／ 【錆汁】鉄筋腐食の進行

エ．【中性化】鉄骨が自動的にステンレス化する。 ／ 【錆汁】電気回路の漏電

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。中性化は鉄筋の不動態皮膜を失わせ、腐食を生じやすくする。 Bも適切。鉄筋腐食に伴う膨張圧でひび割れ・錆汁が生じることがある。

イ：Aは適切。中性化は鉄筋の不動態皮膜を失わせ、腐食を生じやすくする。 一方Bは不適切。排水設備の症状である。

ウ：Aは不適切。木造の論点である。 一方Bは適切。鉄筋腐食に伴う膨張圧でひび割れ・錆汁が生じることがある。

エ：Aは不適切。そのような変化はない。 Bも不適切。電気設備の異常である。

総合解説：Aについて：中性化深さとかぶり厚さの関係はRC造の耐久性診断で重要となる。 Bについて：錆汁や鉄筋沿いのひび割れは、剥落リスクも含め早期調査が必要である。

問題 0014 ｜ 難易度：2

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：錆汁
B：エフロレッセンス

ア．【錆汁】鉄筋腐食の進行 ／ 【エフロレッセンス】電気設備の短絡を示す。

イ．【錆汁】鉄筋腐食の進行 ／ 【エフロレッセンス】水分移動に伴って内部の可溶性成分が表面へ運ばれ析出する現象で、漏水経路等の手掛かりになることがある。

ウ．【錆汁】排水トラップの封水切れ ／ 【エフロレッセンス】水分移動に伴って内部の可溶性成分が表面へ運ばれ析出する現象で、漏水経路等の手掛かりになることがある。

エ．【錆汁】電気回路の漏電 ／ 【エフロレッセンス】必ず鉄筋が完全破断したことを示す。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。鉄筋腐食に伴う膨張圧でひび割れ・錆汁が生じることがある。 一方Bは不適切。電気設備とは無関係である。

イ：Aは適切。鉄筋腐食に伴う膨張圧でひび割れ・錆汁が生じることがある。 Bも適切。水分の存在を示す劣化兆候の一つとなる。

ウ：Aは不適切。排水設備の症状である。 一方Bは適切。水分の存在を示す劣化兆候の一つとなる。

エ：Aは不適切。電気設備の異常である。 Bも不適切。直ちに鉄筋破断とは限らない。

総合解説：Aについて：錆汁や鉄筋沿いのひび割れは、剥落リスクも含め早期調査が必要である。 Bについて：白華を見つけた場合は表面清掃だけでなく、水分の侵入経路を確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0015 ｜ 難易度：1

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：剥落
B：打診

ア．【剥落】剥離・落下して人や物に被害を与えるおそれがある。 ／ 【打診】建物の所有者を特定する。

イ．【剥落】排水能力が改善する。 ／ 【打診】打撃音の違いなどから、外装材の浮き・剥離のおそれがある箇所を把握する。

ウ．【剥落】剥離・落下して人や物に被害を与えるおそれがある。 ／ 【打診】打撃音の違いなどから、外装材の浮き・剥離のおそれがある箇所を把握する。

エ．【剥落】必ず建物の耐震性能が向上する。 ／ 【打診】給水水質を測定する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。浮きは外装材の接着・付着が失われた状態で、剥落につながり得る。 一方Bは不適切。権利関係調査ではない。

イ：Aは不適切。無関係である。 一方Bは適切。外壁の浮き等を調べる代表的な調査方法である。

ウ：Aは適切。浮きは外装材の接着・付着が失われた状態で、剥落につながり得る。 Bも適切。外壁の浮き等を調べる代表的な調査方法である。

エ：Aは不適切。逆である。 Bも不適切。水質検査ではない。

総合解説：Aについて：歩行者動線や出入口上部の外壁異常は特に安全面から優先対応する。 Bについて：高所外壁の詳細調査は安全管理と有資格者・専門業者の活用が重要である。

問題 0016 ｜ 難易度：2

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：エフロレッセンス
B：定期点検

ア．【エフロレッセンス】水分移動に伴って内部の可溶性成分が表面へ運ばれ析出する現象で、漏水経路等の手掛かりになることがある。 ／ 【定期点検】内部配筋を必ず肉眼で確認する。

イ．【エフロレッセンス】必ず鉄筋が完全破断したことを示す。 ／ 【定期点検】ひび割れ、腐食、漏水跡、変形、剥離等の異常兆候を早期に発見する。

ウ．【エフロレッセンス】木材が燃焼した跡である。 ／ 【定期点検】点検記録を残さないようにする。

エ．【エフロレッセンス】水分移動に伴って内部の可溶性成分が表面へ運ばれ析出する現象で、漏水経路等の手掛かりになることがある。 ／ 【定期点検】ひび割れ、腐食、漏水跡、変形、剥離等の異常兆候を早期に発見する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。水分の存在を示す劣化兆候の一つとなる。 一方Bは不適切。非破壊では内部配筋は見えない。

イ：Aは不適切。直ちに鉄筋破断とは限らない。 一方Bは適切。定期報告制度でも損傷・腐食等の劣化状況確認を基本としている。

ウ：Aは不適切。木材燃焼ではない。 Bも不適切。記録が重要である。

エ：Aは適切。水分の存在を示す劣化兆候の一つとなる。 Bも適切。定期報告制度でも損傷・腐食等の劣化状況確認を基本としている。

総合解説：Aについて：白華を見つけた場合は表面清掃だけでなく、水分の侵入経路を確認する。 Bについて：目視は一次スクリーニングであり、異常があれば詳細調査へつなげる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0017 ｜ 難易度：1

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：定期点検
B：クラック記録

ア．【定期点検】ひび割れ、腐食、漏水跡、変形、剥離等の異常兆候を早期に発見する。 ／ 【クラック記録】位置、方向、幅、長さ、漏水・錆汁の有無、撮影日等を記録する。

イ．【定期点検】ひび割れ、腐食、漏水跡、変形、剥離等の異常兆候を早期に発見する。 ／ 【クラック記録】補修後に記録を全て削除する。

ウ．【定期点検】内部配筋を必ず肉眼で確認する。 ／ 【クラック記録】位置、方向、幅、長さ、漏水・錆汁の有無、撮影日等を記録する。

エ．【定期点検】点検記録を残さないようにする。 ／ 【クラック記録】『ひびあり』だけ書き場所を残さない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。定期報告制度でも損傷・腐食等の劣化状況確認を基本としている。 Bも適切。進行性や原因を判断するには定量的な履歴が有用である。

イ：Aは適切。定期報告制度でも損傷・腐食等の劣化状況確認を基本としている。 一方Bは不適切。維持保全履歴として残すべきである。

ウ：Aは不適切。非破壊では内部配筋は見えない。 一方Bは適切。進行性や原因を判断するには定量的な履歴が有用である。

エ：Aは不適切。記録が重要である。 Bも不適切。再確認できない。

総合解説：Aについて：目視は一次スクリーニングであり、異常があれば詳細調査へつなげる。 Bについて：同じ位置を継続観察することで、拡大・進行の有無を把握できる。

問題 0018 ｜ 難易度：2

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：打診
B：定期報告

ア．【打診】打撃音の違いなどから、外装材の浮き・剥離のおそれがある箇所を把握する。 ／ 【定期報告】全ての戸建住宅が毎月国へ報告する制度である。

イ．【打診】打撃音の違いなどから、外装材の浮き・剥離のおそれがある箇所を把握する。 ／ 【定期報告】対象となる建築物・建築設備等について、損傷・腐食等の状況を資格者が調査・検査し、結果を特定行政庁へ報告する制度である。

ウ．【打診】電気抵抗を測定する。 ／ 【定期報告】対象となる建築物・建築設備等について、損傷・腐食等の状況を資格者が調査・検査し、結果を特定行政庁へ報告する制度である。

エ．【打診】建物の所有者を特定する。 ／ 【定期報告】入居者自身だけが検査できる制度である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。外壁の浮き等を調べる代表的な調査方法である。 一方Bは不適切。対象・周期は法令等で定められる。

イ：Aは適切。外壁の浮き等を調べる代表的な調査方法である。 Bも適切。建築物の継続的な安全確保を目的とする制度である。

ウ：Aは不適切。電気設備検査ではない。 一方Bは適切。建築物の継続的な安全確保を目的とする制度である。

エ：Aは不適切。権利関係調査ではない。 Bも不適切。資格者による調査・検査がある。

総合解説：Aについて：高所外壁の詳細調査は安全管理と有資格者・専門業者の活用が重要である。 Bについて：管理者は自主管理点検と法定点検を区別し、対象・期限を管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0019 ｜ 難易度：2

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：クラック記録
B：漏水診断

ア．【クラック記録】位置、方向、幅、長さ、漏水・錆汁の有無、撮影日等を記録する。 ／ 【漏水診断】原因を調べず天井クロスだけ張り替える。

イ．【クラック記録】『ひびあり』だけ書き場所を残さない。 ／ 【漏水診断】雨天との関連、上階の給排水使用状況、配管経路、防水層等を確認し、原因を切り分ける。

ウ．【クラック記録】位置、方向、幅、長さ、漏水・錆汁の有無、撮影日等を記録する。 ／ 【漏水診断】雨天との関連、上階の給排水使用状況、配管経路、防水層等を確認し、原因を切り分ける。

エ．【クラック記録】写真だけ撮り日付を残さない。 ／ 【漏水診断】水染みが乾けば記録を残さず終了する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。進行性や原因を判断するには定量的な履歴が有用である。 一方Bは不適切。根本原因が残る。

イ：Aは不適切。再確認できない。 一方Bは適切。雨漏り・給排水漏水・結露等の原因を区別する必要がある。

ウ：Aは適切。進行性や原因を判断するには定量的な履歴が有用である。 Bも適切。雨漏り・給排水漏水・結露等の原因を区別する必要がある。

エ：Aは不適切。時系列比較が困難である。 Bも不適切。再発時の判断材料を失う。

総合解説：Aについて：同じ位置を継続観察することで、拡大・進行の有無を把握できる。 Bについて：漏水は発生条件と時間関係を記録すると診断精度が高まる。

問題 0020 ｜ 難易度：3

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：漏水診断
B：リスク評価

ア．【漏水診断】雨天との関連、上階の給排水使用状況、配管経路、防水層等を確認し、原因を切り分ける。 ／ 【リスク評価】危険度に関係なく発見順だけで処理する。

イ．【漏水診断】原因を調べず天井クロスだけ張り替える。 ／ 【リスク評価】人身安全や構造安全に直結する①・③を優先し、必要な応急措置と専門診断を行う。

ウ．【漏水診断】水染みが乾けば記録を残さず終了する。 ／ 【リスク評価】見た目が目立つ②だけを最優先する。

エ．【漏水診断】雨天との関連、上階の給排水使用状況、配管経路、防水層等を確認し、原因を切り分ける。 ／ 【リスク評価】人身安全や構造安全に直結する①・③を優先し、必要な応急措置と専門診断を行う。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。雨漏り・給排水漏水・結露等の原因を区別する必要がある。 一方Bは不適切。リスク評価が必要である。

イ：Aは不適切。根本原因が残る。 一方Bは適切。維持保全では危険性・影響度・緊急性で優先順位を付ける。

ウ：Aは不適切。再発時の判断材料を失う。 Bも不適切。美観より安全が優先される場面である。

エ：Aは適切。雨漏り・給排水漏水・結露等の原因を区別する必要がある。 Bも適切。維持保全では危険性・影響度・緊急性で優先順位を付ける。

総合解説：Aについて：漏水は発生条件と時間関係を記録すると診断精度が高まる。 Bについて：点検結果は『発見』で終わらず、是正期限と責任者を決めてフォローする。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0021 ｜ 難易度：3

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：定期報告
B：錆汁

ア．【定期報告】対象となる建築物・建築設備等について、損傷・腐食等の状況を資格者が調査・検査し、結果を特定行政庁へ報告する制度である。 ／ 【錆汁】鉄筋腐食の進行

イ．【定期報告】対象となる建築物・建築設備等について、損傷・腐食等の状況を資格者が調査・検査し、結果を特定行政庁へ報告する制度である。 ／ 【錆汁】木材のシロアリ被害

ウ．【定期報告】劣化状況は確認せず賃料だけ報告する制度である。 ／ 【錆汁】鉄筋腐食の進行

エ．【定期報告】全ての戸建住宅が毎月国へ報告する制度である。 ／ 【錆汁】排水トラップの封水切れ

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。建築物の継続的な安全確保を目的とする制度である。 Bも適切。鉄筋腐食に伴う膨張圧でひび割れ・錆汁が生じることがある。

イ：Aは適切。建築物の継続的な安全確保を目的とする制度である。 一方Bは不適切。木造の症状である。

ウ：Aは不適切。建物・設備の安全状況を扱う。 一方Bは適切。鉄筋腐食に伴う膨張圧でひび割れ・錆汁が生じることがある。

エ：Aは不適切。対象・周期は法令等で定められる。 Bも不適切。排水設備の症状である。

総合解説：Aについて：管理者は自主管理点検と法定点検を区別し、対象・期限を管理する。 Bについて：錆汁や鉄筋沿いのひび割れは、剥落リスクも含め早期調査が必要である。

問題 0022 ｜ 難易度：3

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：リスク評価
B：中性化

ア．【リスク評価】人身安全や構造安全に直結する①・③を優先し、必要な応急措置と専門診断を行う。 ／ 【中性化】鉄骨が自動的にステンレス化する。

イ．【リスク評価】人身安全や構造安全に直結する①・③を優先し、必要な応急措置と専門診断を行う。 ／ 【中性化】鉄筋を保護していた高アルカリ環境が失われ、鉄筋腐食の危険が高まる。

ウ．【リスク評価】見た目が目立つ②だけを最優先する。 ／ 【中性化】鉄筋を保護していた高アルカリ環境が失われ、鉄筋腐食の危険が高まる。

エ．【リスク評価】全て次回大規模修繕まで放置する。 ／ 【中性化】コンクリートの防水性が永久に向上する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。維持保全では危険性・影響度・緊急性で優先順位を付ける。 一方Bは不適切。そのような変化はない。

イ：Aは適切。維持保全では危険性・影響度・緊急性で優先順位を付ける。 Bも適切。中性化は鉄筋の不動態皮膜を失わせ、腐食を生じやすくする。

ウ：Aは不適切。美観より安全が優先される場面である。 一方Bは適切。中性化は鉄筋の不動態皮膜を失わせ、腐食を生じやすくする。

エ：Aは不適切。剥落・構造損傷は放置できない。 Bも不適切。劣化要因となる。

総合解説：Aについて：点検結果は『発見』で終わらず、是正期限と責任者を決めてフォローする。 Bについて：中性化深さとかぶり厚さの関係はRC造の耐久性診断で重要となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0023 ｜ 難易度：1

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：地震力
B：防水層

ア．【地震力】地震時の水平力等に対して建物全体が安全に抵抗できる構造とする。 ／ 【防水層】電気容量を増やす。

イ．【地震力】内装仕上げ材だけで地震に抵抗する。 ／ 【防水層】雨水が躯体内部へ浸入することを防ぐ。

ウ．【地震力】地震時の水平力等に対して建物全体が安全に抵抗できる構造とする。 ／ 【防水層】雨水が躯体内部へ浸入することを防ぐ。

エ．【地震力】給水管だけで建物の耐震性を確保する。 ／ 【防水層】地震力を全て吸収する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。建築基準法は地震等の外力に対する構造安全を求める。 一方Bは不適切。無関係である。

イ：Aは不適切。構造体が抵抗する。 一方Bは適切。防水層は雨水浸入防止のための仕上げ・保護層である。

ウ：Aは適切。建築基準法は地震等の外力に対する構造安全を求める。 Bも適切。防水層は雨水浸入防止のための仕上げ・保護層である。

エ：Aは不適切。配管だけでは構造安全を確保できない。 Bも不適切。構造耐震部材ではない。

総合解説：Aについて：耐震性能は柱・梁・壁・接合部等の構造全体で評価する。 Bについて：破断・膨れ・接合部剥離・排水口詰まり等を定期的に確認する。

問題 0024 ｜ 難易度：2

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：耐震改修
B：屋上ドレン

ア．【耐震改修】建築年代、構造図、既往診断、改修履歴等を確認し、必要に応じ耐震診断や改修を専門家へ依頼する。 ／ 【屋上ドレン】水たまりは防水性能を必ず高めるので放置する。

イ．【耐震改修】地震後も損傷が見えなければ点検不要である。 ／ 【屋上ドレン】排水口を清掃し、防水層やドレン周辺の劣化・漏水の有無を確認する。

ウ．【耐震改修】築年数だけで安全・危険を断定する。 ／ 【屋上ドレン】排水口を塞いで水を保持する。

エ．【耐震改修】建築年代、構造図、既往診断、改修履歴等を確認し、必要に応じ耐震診断や改修を専門家へ依頼する。 ／ 【屋上ドレン】排水口を清掃し、防水層やドレン周辺の劣化・漏水の有無を確認する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。耐震性は構造・設計・劣化・改修状況等を総合評価する。 一方Bは不適切。逆である。

イ：Aは不適切。隠れた損傷もあり得る。 一方Bは適切。滞水は防水層への負担や漏水リスクを高める。

ウ：Aは不適切。築年数だけでは決まらない。 Bも不適切。排水機能を失う。

エ：Aは適切。耐震性は構造・設計・劣化・改修状況等を総合評価する。 Bも適切。滞水は防水層への負担や漏水リスクを高める。

総合解説：Aについて：大地震後は柱・梁・壁・接合部等の異常を確認し、必要に応じ立入制限も行う。 Bについて：屋上防水の維持では防水材だけでなく排水経路の確保が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0025 ｜ 難易度：1

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：防水層
B：防水点検

ア．【防水層】雨水が躯体内部へ浸入することを防ぐ。 ／ 【防水点検】シートの破断や接合部の剥離
イ．【防水層】雨水が躯体内部へ浸入することを防ぐ。 ／ 【防水点検】ガスメーターの表示だけ
ウ．【防水層】地震力を全て吸収する。 ／ 【防水点検】シートの破断や接合部の剥離
エ．【防水層】給水圧を上げる。 ／ 【防水点検】分電盤の契約アンペアだけ

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。防水層は雨水浸入防止のための仕上げ・保護層である。 Bも適切。防水シートの連続性が失われると漏水につながる。

イ：Aは適切。防水層は雨水浸入防止のための仕上げ・保護層である。 一方Bは不適切。ガス設備である。

ウ：Aは不適切。構造耐震部材ではない。 一方Bは適切。防水シートの連続性が失われると漏水につながる。

エ：Aは不適切。無関係である。 Bも不適切。電気設備である。

総合解説：Aについて：破断・膨れ・接合部剥離・排水口詰まり等を定期的に確認する。 Bについて：防水層は立上り部、端部、ドレン周辺など納まりの変化する部分を重点確認する。

問題 0026 ｜ 難易度：2

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：防水点検
B：シーリング

ア．【防水点検】シートの破断や接合部の剥離 ／ 【シーリング】排水管の臭気を止める。
イ．【防水点検】シートの破断や接合部の剥離 ／ 【シーリング】目地の動きに追従しながら雨水浸入を抑える。
ウ．【防水点検】ガスメーターの表示だけ ／ 【シーリング】目地の動きに追従しながら雨水浸入を抑える。
エ．【防水点検】分電盤の契約アンペアだけ ／ 【シーリング】柱・梁の代わりに建物荷重を全て支える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。防水シートの連続性が失われると漏水につながる。 一方Bは不適切。排水トラップとは別である。

イ：Aは適切。防水シートの連続性が失われると漏水につながる。 Bも適切。シーリングは接合部・目地の防水性確保に用いられる。

ウ：Aは不適切。ガス設備である。 一方Bは適切。シーリングは接合部・目地の防水性確保に用いられる。

エ：Aは不適切。電気設備である。 Bも不適切。主要構造部ではない。

総合解説：Aについて：防水層は立上り部、端部、ドレン周辺など納まりの変化する部分を重点確認する。 Bについて：硬化、ひび割れ、破断、剥離等は漏水の原因となり得る。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0027 ｜ 難易度：2

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：屋上ドレン
B：総合

ア．【屋上ドレン】排水口を清掃し、防水層やドレン周辺の劣化・漏水の有無を確認する。 ／ 【総合】見た目を整える塗装だけ行い下地劣化を確認しない。

イ．【屋上ドレン】室内に漏れるまで対応しない。 ／ 【総合】外壁ひび割れ・浮き、鉄筋腐食兆候、シーリング、防水層、地震による損傷等を調査し、原因と危険度に応じて修繕計画を立てる。

ウ．【屋上ドレン】排水口を清掃し、防水層やドレン周辺の劣化・漏水の有無を確認する。 ／ 【総合】外壁ひび割れ・浮き、鉄筋腐食兆候、シーリング、防水層、地震による損傷等を調査し、原因と危険度に応じて修繕計画を立てる。

エ．【屋上ドレン】水たまりは防水性能を必ず高めるので放置する。 ／ 【総合】全て同じ周期で機械的に交換し調査しない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。滞水は防水層への負担や漏水リスクを高める。 一方Bは不適切。下地不良を残す可能性がある。

イ：Aは不適切。予防保全が重要である。 一方Bは適切。修繕は劣化診断を基礎に優先順位と工法を決める。

ウ：Aは適切。滞水は防水層への負担や漏水リスクを高める。 Bも適切。修繕は劣化診断を基礎に優先順位と工法を決める。

エ：Aは不適切。逆である。 Bも不適切。実際の劣化状況を反映しない。

総合解説：Aについて：屋上防水の維持では防水材だけでなく排水経路の確保が重要である。 Bについて：長期修繕計画は目安であり、現況調査を反映して更新することが重要である。

問題 0028 ｜ 難易度：2

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：シーリング
B：緊急措置

ア．【シーリング】目地の動きに追従しながら雨水浸入を抑える。 ／ 【緊急措置】入居者へ自己責任と伝えるだけにする。

イ．【シーリング】柱・梁の代わりに建物荷重を全て支える。 ／ 【緊急措置】落下危険区域への立入りを制限し、応急措置を行った上で専門業者による詳細調査・補修を進める。

ウ．【シーリング】室内の電圧を調整する。 ／ 【緊急措置】浮きの位置を記録せず塗装で隠す。

エ．【シーリング】目地の動きに追従しながら雨水浸入を抑える。 ／ 【緊急措置】落下危険区域への立入りを制限し、応急措置を行った上で専門業者による詳細調査・補修を進める。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。シーリングは接合部・目地の防水性確保に用いられる。 一方Bは不適切。管理上不十分である。

イ：Aは不適切。主要構造部ではない。 一方Bは適切。人身事故防止を最優先する必要がある。

ウ：Aは不適切。電気設備ではない。 Bも不適切。根本原因・危険を隠すことになる。

エ：Aは適切。シーリングは接合部・目地の防水性確保に用いられる。 Bも適切。人身事故防止を最優先する必要がある。

総合解説：Aについて：硬化、ひび割れ、破断、剥離等は漏水の原因となり得る。 Bについて：外壁剥落は第三者被害につながるため、発見時の安全確保が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0029 ｜ 難易度：3

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：緊急措置
B：地震力

ア．【緊急措置】落下危険区域への立入りを制限し、応急措置を行った上で専門業者による詳細調査・補修を進める。 ／ 【地震力】地震時の水平力等に対して建物全体が安全に抵抗できる構造とする。

イ．【緊急措置】落下危険区域への立入りを制限し、応急措置を行った上で専門業者による詳細調査・補修を進める。 ／ 【地震力】給水管だけで建物の耐震性を確保する。

ウ．【緊急措置】入居者へ自己責任と伝えるだけにする。 ／ 【地震力】地震時の水平力等に対して建物全体が安全に抵抗できる構造とする。

エ．【緊急措置】浮きの位置を記録せず塗装で隠す。 ／ 【地震力】地震力は建物に作用しないものとして設計する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。人身事故防止を最優先する必要がある。 Bも適切。建築基準法は地震等の外力に対する構造安全を求める。

イ：Aは適切。人身事故防止を最優先する必要がある。 一方Bは不適切。配管だけでは構造安全を確保できない。

ウ：Aは不適切。管理上不十分である。 一方Bは適切。建築基準法は地震等の外力に対する構造安全を求める。

エ：Aは不適切。根本原因・危険を隠すことになる。 Bも不適切。地震は主要な設計外力である。

総合解説：Aについて：外壁剥落は第三者被害につながるため、発見時の安全確保が重要である。 Bについて：耐震性能は柱・梁・壁・接合部等の構造全体で評価する。

問題 0030 ｜ 難易度：3

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：総合
B：防水層

ア．【総合】外壁ひび割れ・浮き、鉄筋腐食兆候、シーリング、防水層、地震による損傷等を調査し、原因と危険度に応じて修繕計画を立てる。 ／ 【防水層】地震力を全て吸収する。

イ．【総合】外壁ひび割れ・浮き、鉄筋腐食兆候、シーリング、防水層、地震による損傷等を調査し、原因と危険度に応じて修繕計画を立てる。 ／ 【防水層】雨水が躯体内部へ浸入することを防ぐ。

ウ．【総合】漏水や剥落危険があっても次回の大規模修繕まで必ず待つ。 ／ 【防水層】雨水が躯体内部へ浸入することを防ぐ。

エ．【総合】見た目を整える塗装だけ行い下地劣化を確認しない。 ／ 【防水層】給水圧を上げる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。修繕は劣化診断を基礎に優先順位と工法を決める。 一方Bは不適切。構造耐震部材ではない。

イ：Aは適切。修繕は劣化診断を基礎に優先順位と工法を決める。 Bも適切。防水層は雨水浸入防止のための仕上げ・保護層である。

ウ：Aは不適切。緊急性の高い不具合は先行対応する。 一方Bは適切。防水層は雨水浸入防止のための仕上げ・保護層である。

エ：Aは不適切。下地不良を残す可能性がある。 Bも不適切。無関係である。

総合解説：Aについて：長期修繕計画は目安であり、現況調査を反映して更新することが重要である。 Bについて：破断・膨れ・接合部剥離・排水口詰まり等を定期的に確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0031 ｜ 難易度：1

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：定義
B：直結方式

ア．【定義】水道事業者から供給された水を、配管・弁・給水用具等を通じて必要な場所へ衛生的に供給する設備である。 ／ 【直結方式】汚水槽を経由して給水する。

イ．【定義】汚水だけを屋外へ排出する設備である。 ／ 【直結方式】水道配水管の水圧を利用して、原則として貯水槽を介さず各給水栓へ供給する。

ウ．【定義】水道事業者から供給された水を、配管・弁・給水用具等を通じて必要な場所へ衛生的に供給する設備である。 ／ 【直結方式】水道配水管の水圧を利用して、原則として貯水槽を介さず各給水栓へ供給する。

エ．【定義】室内空気だけを入れ替える設備である。 ／ 【直結方式】給水管と排水管を直接接続する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。給水設備は飲用等に使用する水を安全に供給する設備である。 一方Bは不適切。衛生上不適切である。

イ：Aは不適切。排水設備の説明である。 一方Bは適切。直結給水は貯水槽を介さない方式である。

ウ：Aは適切。給水設備は飲用等に使用する水を安全に供給する設備である。 Bも適切。直結給水は貯水槽を介さない方式である。

エ：Aは不適切。換気設備の説明である。 Bも不適切。クロスコネクションとなり危険である。

総合解説：Aについて：給水では水質、圧力、漏水、逆流防止、維持管理が主要な管理項目となる。 Bについて：直結直圧・直結増圧などがあり、地域の水道事業者基準に従う。

問題 0032 ｜ 難易度：2

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：直結方式
B：逆流

ア．【直結方式】水道配水管の水圧を利用して、原則として貯水槽を介さず各給水栓へ供給する。 ／ 【逆流】電気使用量を減らすため

イ．【直結方式】汚水槽を経由して給水する。 ／ 【逆流】汚染された水等が給水管へ逆流し、水道水を汚染することを防ぐため

ウ．【直結方式】給水管と排水管を直接接続する。 ／ 【逆流】給水圧を必ずゼロにするため

エ．【直結方式】水道配水管の水圧を利用して、原則として貯水槽を介さず各給水栓へ供給する。 ／ 【逆流】汚染された水等が給水管へ逆流し、水道水を汚染することを防ぐため

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。直結給水は貯水槽を介さない方式である。 一方Bは不適切。電気設備とは無関係である。

イ：Aは不適切。衛生上不適切である。 一方Bは適切。逆流は給水系統の水質汚染につながる。

ウ：Aは不適切。クロスコネクションとなり危険である。 Bも不適切。目的が違う。

エ：Aは適切。直結給水は貯水槽を介さない方式である。 Bも適切。逆流は給水系統の水質汚染につながる。

総合解説：Aについて：直結直圧・直結増圧などがあり、地域の水道事業者基準に従う。 Bについて：吐水口空間や逆止弁など、用途に応じた逆流防止措置が必要となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0033 ｜ 難易度：2

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：貯水槽
B：水撃

ア．【貯水槽】槽内の衛生状態、ふた・防虫網、漏水、ポンプ等を適切に点検・管理する。 ／ 【水撃】ウォーターハンマー（水撃作用）

イ．【貯水槽】槽内の衛生状態、ふた・防虫網、漏水、ポンプ等を適切に点検・管理する。 ／ 【水撃】サイホン作用

ウ．【貯水槽】排水設備と常時直接接続しておく。 ／ 【水撃】ウォーターハンマー（水撃作用）

エ．【貯水槽】水槽内へ誰でも自由に出入りできるようにする。 ／ 【水撃】毛細管現象

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。貯水槽の維持管理不良は水質悪化の原因となる。 Bも適切。流速の急変によって圧力変動が生じる水撃現象である。

イ：Aは適切。貯水槽の維持管理不良は水質悪化の原因となる。 一方Bは不適切。排水トラップ等で問題となる現象である。

ウ：Aは不適切。逆流・汚染の危険がある。 一方Bは適切。流速の急変によって圧力変動が生じる水撃現象である。

エ：Aは不適切。汚染リスクが高い。 Bも不適切。給水管の衝撃現象ではない。

総合解説：Aについて：貯水槽方式では水道水が建物内設備を経由するため、所有者側の維持管理が重要となる。 Bについて：水撃が繰り返されると配管・継手・弁に負担がかかるため原因確認が必要である。

問題 0034 ｜ 難易度：1

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：逆流
B：誤接続

ア．【逆流】汚染された水等が給水管へ逆流し、水道水を汚染することを防ぐため ／ 【誤接続】水圧が上がるので必ず行う。

イ．【逆流】汚染された水等が給水管へ逆流し、水道水を汚染することを防ぐため ／ 【誤接続】水質汚染を招くクロスコネクションとなるおそれがあり、避けなければならない。

ウ．【逆流】給水圧を必ずゼロにするため ／ 【誤接続】水質汚染を招くクロスコネクションとなるおそれがあり、避けなければならない。

エ．【逆流】排水管の流速を上げるため ／ 【誤接続】排水臭気を防ぐため必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。逆流は給水系統の水質汚染につながる。 一方Bは不適切。目的が異なる。

イ：Aは適切。逆流は給水系統の水質汚染につながる。 Bも適切。異なる水系統の直接接続は逆流による汚染リスクを生む。

ウ：Aは不適切。目的が違う。 一方Bは適切。異なる水系統の直接接続は逆流による汚染リスクを生む。

エ：Aは不適切。排水設備の論点である。 Bも不適切。排水臭気とは無関係である。

総合解説：Aについて：吐水口空間や逆止弁など、用途に応じた逆流防止措置が必要となる。 Bについて：改修工事では配管識別を確実にし、誤接続を防止する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0035 ｜ 難易度：3

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：誤接続
B：水圧

ア．【誤接続】水質汚染を招くクロスコネクションとなるおそれがあり、避けなければならない。 ／ 【水圧】外壁塗装だけを行う。

イ．【誤接続】水圧が上がるので必ず行う。 ／ 【水圧】元圧、増圧・揚水ポンプ、減圧弁、ストレーナ、漏水、弁の開閉状態等を確認する。

ウ．【誤接続】水質汚染を招くクロスコネクションとなるおそれがあり、避けなければならない。 ／ 【水圧】元圧、増圧・揚水ポンプ、減圧弁、ストレーナ、漏水、弁の開閉状態等を確認する。

エ．【誤接続】排水臭気を防ぐため必要である。 ／ 【水圧】排水トラップだけを交換する。

答え・4肢解説 正答：ウ

ア：Aは適切。異なる水系統の直接接続は逆流による汚染リスクを生む。 一方Bは不適切。無関係である。

イ：Aは不適切。目的が異なる。 一方Bは適切。給水圧低下には複数の給水設備要因がある。

ウ：Aは適切。異なる水系統の直接接続は逆流による汚染リスクを生む。 Bも適切。給水圧低下には複数の給水設備要因がある。

エ：Aは不適切。排水臭気とは無関係である。 Bも不適切。排水臭気対策である。

総合解説：Aについて：改修工事では配管識別を確実にし、誤接続を防止する。 Bについて：複数住戸か単独住戸かを確認すると、共用設備か住戸内設備かの切り分けに役立つ。

問題 0036 ｜ 難易度：2

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：水撃
B：凍結

ア．【水撃】ウォーターハンマー（水撃作用） ／ 【凍結】配管の保温材を全て取り外す。

イ．【水撃】結露だけ ／ 【凍結】露出配管の保温、凍結防止ヒーター等を適切に使用し、地域条件に応じた対策を行う。

ウ．【水撃】サイホン作用 ／ 【凍結】凍結した管へ急に高温の熱湯をかけることを標準手順とする。

エ．【水撃】ウォーターハンマー（水撃作用） ／ 【凍結】露出配管の保温、凍結防止ヒーター等を適切に使用し、地域条件に応じた対策を行う。

答え・4肢解説 正答：エ

ア：Aは適切。流速の急変によって圧力変動が生じる水撃現象である。 一方Bは不適切。凍結しやすくなる。

イ：Aは不適切。水撃とは異なる。 一方Bは適切。低温環境では保温等により凍結リスクを低減する。

ウ：Aは不適切。排水トラップ等で問題となる現象である。 Bも不適切。急激な加熱は管破損等のおそれがある。

エ：Aは適切。流速の急変によって圧力変動が生じる水撃現象である。 Bも適切。低温環境では保温等により凍結リスクを低減する。

総合解説：Aについて：水撃が繰り返されると配管・継手・弁に負担がかかるため原因確認が必要である。 Bについて：凍結破損は解凍後に漏水が顕在化することがあるため確認が必要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0037 ｜ 難易度：2

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：水圧
B：水道メーター

ア．【水圧】元圧、増圧・揚水ポンプ、減圧弁、ストレーナ、漏水、弁の開閉状態等を確認する。／【水道メーター】住戸内給水系統の漏水

イ．【水圧】元圧、増圧・揚水ポンプ、減圧弁、ストレーナ、漏水、弁の開閉状態等を確認する。／【水道メーター】地震保険の不足

ウ．【水圧】排水トラップだけを交換する。／【水道メーター】住戸内給水系統の漏水

エ．【水圧】分電盤のブレーカー容量だけを確認する。／【水道メーター】排気ダクトの詰まり

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。給水圧低下には複数の給水設備要因がある。 Bも適切。使用していないのに水が流れていれば漏水の可能性がある。

イ：Aは適切。給水圧低下には複数の給水設備要因がある。 一方Bは不適切。保険契約の問題である。

ウ：Aは不適切。排水臭気対策である。 一方Bは適切。使用していないのに水が流れていれば漏水の可能性がある。

エ：Aは不適切。電気設備だけでは原因を特定できない。 Bも不適切。換気設備の問題である。

総合解説：Aについて：複数住戸か単独住戸かを確認すると、共用設備か住戸内設備かの切り分けに役立つ。 Bについて：トイレの止水不良など目立たない漏水もあるため、器具・配管を順に確認する。

問題 0038 ｜ 難易度：2

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：水道メーター
B：止水

ア．【水道メーター】住戸内給水系統の漏水／【止水】電気容量を増やす。

イ．【水道メーター】住戸内給水系統の漏水／【止水】給水を止めて被害の拡大を抑える。

ウ．【水道メーター】地震保険の不足／【止水】給水を止めて被害の拡大を抑える。

エ．【水道メーター】排気ダクトの詰まり／【止水】排水管の臭気を止める。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。使用していないのに水が流れていれば漏水の可能性がある。 一方Bは不適切。電気設備とは無関係である。

イ：Aは適切。使用していないのに水が流れていれば漏水の可能性がある。 Bも適切。漏水時にはまず給水を遮断することが重要である。

ウ：Aは不適切。保険契約の問題である。 一方Bは適切。漏水時にはまず給水を遮断することが重要である。

エ：Aは不適切。換気設備の問題である。 Bも不適切。排水トラップの役割である。

総合解説：Aについて：トイレの止水不良など目立たない漏水もあるため、器具・配管を順に確認する。 Bについて：管理者は共用・住戸内の主要な止水位置を把握しておくと緊急対応が速い。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0039 ｜ 難易度：2

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：凍結
B：総合

ア．【凍結】露出配管の保温、凍結防止ヒーター等を適切に使用し、地域条件に応じた対策を行う。 ／ 【総合】各住戸の水栓を個別に交換することだけを行う。

イ．【凍結】給水管を常時開放して漏水させる。 ／ 【総合】断水情報、受水槽水位、ポンプ・電源、主要弁、配管破損等を順に確認し、影響範囲を把握する。

ウ．【凍結】露出配管の保温、凍結防止ヒーター等を適切に使用し、地域条件に応じた対策を行う。 ／ 【総合】断水情報、受水槽水位、ポンプ・電源、主要弁、配管破損等を順に確認し、影響範囲を把握する。

エ．【凍結】配管の保温材を全て取り外す。 ／ 【総合】原因を確認せず入居者全員へ長期断水と断定する。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。低温環境では保温等により凍結リスクを低減する。 一方Bは不適切。共通原因を見落とす。

イ：Aは不適切。水資源の浪費と漏水につながる。 一方Bは適切。複数住戸同時発生では共用給水系統の異常が疑われる。

ウ：Aは適切。低温環境では保温等により凍結リスクを低減する。 Bも適切。複数住戸同時発生では共用給水系統の異常が疑われる。

エ：Aは不適切。凍結しやすくなる。 Bも不適切。事実確認が必要である。

総合解説：Aについて：凍結破損は解凍後に漏水が顕在化することがあるため確認が必要である。 Bについて：停電による給水ポンプ停止など、他設備との連鎖も確認する。

問題 0040 ｜ 難易度：1

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：止水
B：水質異常

ア．【止水】給水を止めて被害の拡大を抑える。 ／ 【水質異常】排水管を交換すれば必ず解決すると判断する。

イ．【止水】排水管の臭気を止める。 ／ 【水質異常】配管内の錆等の可能性を考え、一定の放水後も改善しない場合は配管・水質を調査する。

ウ．【止水】建物の地震力を減らす。 ／ 【水質異常】水質異常は記録せず入居者に使用継続を指示する。

エ．【止水】給水を止めて被害の拡大を抑える。 ／ 【水質異常】配管内の錆等の可能性を考え、一定の放水後も改善しない場合は配管・水質を調査する。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。漏水時にはまず給水を遮断することが重要である。 一方Bは不適切。給水側の問題が考えられる。

イ：Aは不適切。排水トラップの役割である。 一方Bは適切。赤水は配管腐食等によることがある。

ウ：Aは不適切。構造とは無関係である。 Bも不適切。衛生上不適切である。

エ：Aは適切。漏水時にはまず給水を遮断することが重要である。 Bも適切。赤水は配管腐食等によることがある。

総合解説：Aについて：管理者は共用・住戸内の主要な止水位置を把握しておくと緊急対応が速い。 Bについて：水の色・臭い・濁り等の異常は、発生範囲と時間を確認して給水系統を切り分ける。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0041 ｜ 難易度：3

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：水質異常
B：定義

ア．【水質異常】配管内の錆等の可能性を考え、一定の放水後も改善しない場合は配管・水質を調査する。／【定義】水道事業者から供給された水を、配管・弁・給水用具等を通じて必要な場所へ衛生的に供給する設備である。

イ．【水質異常】配管内の錆等の可能性を考え、一定の放水後も改善しない場合は配管・水質を調査する。／【定義】電力を各住戸へ分配する設備である。

ウ．【水質異常】排水管を交換すれば必ず解決すると判断する。／【定義】水道事業者から供給された水を、配管・弁・給水用具等を通じて必要な場所へ衛生的に供給する設備である。

エ．【水質異常】水質異常は記録せず入居者に使用継続を指示する。／【定義】汚水だけを屋外へ排出する設備である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。赤水は配管腐食等によることがある。 Bも適切。給水設備は飲用等に使用する水を安全に供給する設備である。

イ：Aは適切。赤水は配管腐食等によることがある。 一方Bは不適切。電気設備の説明である。

ウ：Aは不適切。給水側の問題が考えられる。 一方Bは適切。給水設備は飲用等に使用する水を安全に供給する設備である。

エ：Aは不適切。衛生上不適切である。 Bも不適切。排水設備の説明である。

総合解説：Aについて：水の色・臭い・濁り等の異常は、発生範囲と時間を確認して給水系統を切り分ける。 Bについて：給水では水質、圧力、漏水、逆流防止、維持管理が主要な管理項目となる。

問題 0042 ｜ 難易度：3

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：総合
B：貯水槽

ア．【総合】断水情報、受水槽水位、ポンプ・電源、主要弁、配管破損等を順に確認し、影響範囲を把握する。／【貯水槽】水槽内へ誰でも自由に出入りできるようにする。

イ．【総合】断水情報、受水槽水位、ポンプ・電源、主要弁、配管破損等を順に確認し、影響範囲を把握する。／【貯水槽】槽内の衛生状態、ふた・防虫網、漏水、ポンプ等を適切に点検・管理する。

ウ．【総合】排水設備だけを点検する。／【貯水槽】槽内の衛生状態、ふた・防虫網、漏水、ポンプ等を適切に点検・管理する。

エ．【総合】各住戸の水栓を個別に交換することだけを行う。／【貯水槽】清掃や点検は不要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。複数住戸同時発生では共用給水系統の異常が疑われる。 一方Bは不適切。汚染リスクが高い。

イ：Aは適切。複数住戸同時発生では共用給水系統の異常が疑われる。 Bも適切。貯水槽の維持管理不良は水質悪化の原因となる。

ウ：Aは不適切。給水停止の原因確認にならない。 一方Bは適切。貯水槽の維持管理不良は水質悪化の原因となる。

エ：Aは不適切。共通原因を見落とす。 Bも不適切。衛生管理が必要である。

総合解説：Aについて：停電による給水ポンプ停止など、他設備との連鎖も確認する。 Bについて：貯水槽方式では水道水が建物内設備を経由するため、所有者側の維持管理が重要となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0043 ｜ 難易度：1

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：封水
B：破封

ア．【封水】封水によって下水側の臭気や害虫等が室内へ侵入するのを防ぐ。 ／ 【破封】屋上防水を全面撤去する。

イ．【封水】給水圧を上げる。 ／ 【破封】排水トラップの封水が蒸発・減少していないか確認する。

ウ．【封水】封水によって下水側の臭気や害虫等が室内へ侵入するのを防ぐ。 ／ 【破封】排水トラップの封水が蒸発・減少していないか確認する。

エ．【封水】電気の漏電を防ぐ。 ／ 【破封】給水ポンプの圧力を上げる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。排水トラップは水封により排水管内と室内を遮断する。 一方Bは不適切。臭気原因として優先度が低い。

イ：Aは不適切。給水設備の機能ではない。 一方Bは適切。長期未使用では封水蒸発による臭気侵入が起こり得る。

ウ：Aは適切。排水トラップは水封により排水管内と室内を遮断する。 Bも適切。長期未使用では封水蒸発による臭気侵入が起こり得る。

エ：Aは不適切。電気設備ではない。 Bも不適切。排水トラップとは無関係である。

総合解説：Aについて：長期空室では封水が蒸発して臭気が上がることがある。 Bについて：まず水を流して封水を回復させ、再発する場合は配管・通気等を調査する。

問題 0044 ｜ 難易度：2

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：破封
B：勾配

ア．【破封】排水トラップの封水が蒸発・減少していないか確認する。 ／ 【勾配】鉄筋腐食を防ぐため

イ．【破封】屋上防水を全面撤去する。 ／ 【勾配】汚水・雑排水を停滞させず、固形物とともに円滑に流すため

ウ．【破封】給水ポンプの圧力を上げる。 ／ 【勾配】給水圧を高めるため

エ．【破封】排水トラップの封水が蒸発・減少していないか確認する。 ／ 【勾配】汚水・雑排水を停滞させず、固形物とともに円滑に流すため

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。長期未使用では封水蒸発による臭気侵入が起こり得る。 一方Bは不適切。RC劣化対策ではない。

イ：Aは不適切。臭気原因として優先度が低い。 一方Bは適切。排水は重力で流れるため適切な勾配が必要である。

ウ：Aは不適切。排水トラップとは無関係である。 Bも不適切。給水設備の話である。

エ：Aは適切。長期未使用では封水蒸発による臭気侵入が起こり得る。 Bも適切。排水は重力で流れるため適切な勾配が必要である。

総合解説：Aについて：まず水を流して封水を回復させ、再発する場合は配管・通気等を調査する。 Bについて：勾配不足は滞留・詰まり、過大な条件では固形物との流れのバランスが問題となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0045 ｜ 難易度：2

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：通気
B：排水逆流

ア．【通気】排水管内の圧力変動を緩和し、トラップ封水を保護して円滑な排水を助ける。 ／ 【排水逆流】使用を一時制限し、下流側配管・公共下水・逆流防止設備等を確認し、衛生上の安全措置をとる。

イ．【通気】排水管内の圧力変動を緩和し、トラップ封水を保護して円滑な排水を助ける。 ／ 【排水逆流】汚水が室内へ広がるまで様子を見る。

ウ．【通気】外壁タイルを固定する。 ／ 【排水逆流】使用を一時制限し、下流側配管・公共下水・逆流防止設備等を確認し、衛生上の安全措置をとる。

エ．【通気】水道水の残留塩素を増やす。 ／ 【排水逆流】給水量を増やして押し流す。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。通気設備は排水時の正圧・負圧を調整する。 Bも適切。汚水逆流は衛生・漏電等の二次被害を伴うため緊急対応が必要である。

イ：Aは適切。通気設備は排水時の正圧・負圧を調整する。 一方Bは不適切。被害が拡大する。

ウ：Aは不適切。建築仕上げとは無関係である。 一方Bは適切。汚水逆流は衛生・漏電等の二次被害を伴うため緊急対応が必要である。

エ：Aは不適切。給水水質の機能ではない。 Bも不適切。状況悪化のおそれがある。

総合解説：Aについて：ゴボゴボ音や封水の吸出しがある場合は通気不良も疑う。 Bについて：排水逆流では下水本管側の影響も含め、建物側だけで断定しない。

問題 0046 ｜ 難易度：2

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：勾配
B：排水詰まり

ア．【勾配】汚水・雑排水を停滞させず、固形物とともに円滑に流すため ／ 【排水詰まり】受水槽の水位だけを確認する。

イ．【勾配】汚水・雑排水を停滞させず、固形物とともに円滑に流すため ／ 【排水詰まり】台所の排水口、トラップ、住戸内枝管の詰まりを優先して確認する。

ウ．【勾配】給水圧を高めるため ／ 【排水詰まり】台所の排水口、トラップ、住戸内枝管の詰まりを優先して確認する。

エ．【勾配】室内換気量を増やすため ／ 【排水詰まり】全館停電を疑う。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。排水は重力で流れるため適切な勾配が必要である。 一方Bは不適切。給水設備の問題である。

イ：Aは適切。排水は重力で流れるため適切な勾配が必要である。 Bも適切。局所的な症状では局所配管の異常が考えやすい。

ウ：Aは不適切。給水設備の話である。 一方Bは適切。局所的な症状では局所配管の異常が考えやすい。

エ：Aは不適切。換気設備とは無関係である。 Bも不適切。排水遅延の直接原因とは考えにくい。

総合解説：Aについて：勾配不足は滞留・詰まり、過大な条件では固形物との流れのバランスが問題となる。 Bについて：発生範囲を確認することで枝管・立て管・屋外配管を切り分ける。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0047 ｜ 難易度：2

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：排水詰まり
B：排水漏れ

ア．【排水詰まり】台所の排水口、トラップ、住戸内枝管の詰まりを優先して確認する。 ／ 【排水漏れ】共用分電盤の電圧

イ．【排水詰まり】受水槽の水位だけを確認する。 ／ 【排水漏れ】上階の排水管・接続部・器具周辺等の漏水

ウ．【排水詰まり】台所の排水口、トラップ、住戸内枝管の詰まりを優先して確認する。 ／ 【排水漏れ】上階の排水管・接続部・器具周辺等の漏水

エ．【排水詰まり】全館停電を疑う。 ／ 【排水漏れ】地震保険の契約内容

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。局所的な症状では局所配管の異常が考えやすい。 一方Bは不適切。電気設備の問題である。

イ：Aは不適切。給水設備の問題である。 一方Bは適切。使用時だけ発生するなら給排水系統との関連が強い。

ウ：Aは適切。局所的な症状では局所配管の異常が考えやすい。 Bも適切。使用時だけ発生するなら給排水系統との関連が強い。

エ：Aは不適切。排水遅延の直接原因とは考えにくい。 Bも不適切。事故原因ではない。

総合解説：Aについて：発生範囲を確認することで枝管・立て管・屋外配管を切り分ける。 Bについて：給水管漏れか排水管漏れかは、止水時・使用時の発生条件で切り分ける。

問題 0048 ｜ 難易度：3

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：排水逆流
B：技術基準

ア．【排水逆流】使用を一時制限し、下流側配管・公共下水・逆流防止設備等を確認し、衛生上の安全措置をとる。 ／ 【技術基準】排水設備には技術基準が一切ない。

イ．【排水逆流】電気コンセント付近へ汚水を誘導する。 ／ 【技術基準】設置・構造は、建築基準法等の適用がある場合はそれらに加え、政令で定める技術上の基準に適合させる必要がある。

ウ．【排水逆流】汚水が室内へ広がるまで様子を見る。 ／ 【技術基準】建物所有者が自由な方法で公共下水道へ直結すればよい。

エ．【排水逆流】使用を一時制限し、下流側配管・公共下水・逆流防止設備等を確認し、衛生上の安全措置をとる。 ／ 【技術基準】設置・構造は、建築基準法等の適用がある場合はそれらに加え、政令で定める技術上の基準に適合させる必要がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。汚水逆流は衛生・漏電等の二次被害を伴うため緊急対応が必要である。 一方Bは不適切。法定基準がある。

イ：Aは不適切。感電危険が増す。 一方Bは適切。下水道法10条3項の考え方である。

ウ：Aは不適切。被害が拡大する。 Bも不適切。適正な設備が必要である。

エ：Aは適切。汚水逆流は衛生・漏電等の二次被害を伴うため緊急対応が必要である。 Bも適切。下水道法10条3項の考え方である。

総合解説：Aについて：排水逆流では下水本管側の影響も含め、建物側だけで断定しない。 Bについて：改修時は自治体の排水設備基準・指定工事店制度等も確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0049 ｜ 難易度：2

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：排水漏れ
B：清掃

ア．【排水漏れ】上階の排水管・接続部・器具周辺等の漏水 ／ 【清掃】使用状況や詰まりリスクに応じて、排水口・トラップ・配管等を定期的に清掃・点検する。

イ．【排水漏れ】上階の排水管・接続部・器具周辺等の漏水 ／ 【清掃】油脂や固形物を積極的に流す。

ウ．【排水漏れ】地震保険の契約内容 ／ 【清掃】使用状況や詰まりリスクに応じて、排水口・トラップ・配管等を定期的に清掃・点検する。

エ．【排水漏れ】外壁の耐火被覆 ／ 【清掃】清掃時に配管を破損しても記録しない。

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。使用時だけ発生するなら給排水系統との関連が強い。 Bも適切。予防的な清掃で詰まり・悪臭・漏水リスクを低減できる。

イ：Aは適切。使用時だけ発生するなら給排水系統との関連が強い。 一方Bは不適切。詰まり原因になる。

ウ：Aは不適切。事故原因ではない。 一方Bは適切。予防的な清掃で詰まり・悪臭・漏水リスクを低減できる。

エ：Aは不適切。構造・防火の論点である。 Bも不適切。記録が必要である。

総合解説：Aについて：給水管漏れか排水管漏れかは、止水時・使用時の発生条件で切り分ける。 Bについて：集合住宅では共用立て管の計画清掃も検討する。

問題 0050 ｜ 難易度：1

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：清掃
B：総合

ア．【清掃】使用状況や詰まりリスクに応じて、排水口・トラップ・配管等を定期的に清掃・点検する。 ／ 【総合】臭気がなければ排水設備に異常はないと判断する。

イ．【清掃】使用状況や詰まりリスクに応じて、排水口・トラップ・配管等を定期的に清掃・点検する。 ／ 【総合】共用排水立て管や横主管、通気系統の閉塞・不良を疑い、影響範囲を確認して専門業者に調査させる。

ウ．【清掃】油脂や固形物を積極的に流す。 ／ 【総合】共用排水立て管や横主管、通気系統の閉塞・不良を疑い、影響範囲を確認して専門業者に調査させる。

エ．【清掃】清掃時に配管を破損しても記録しない。 ／ 【総合】各住戸の蛇口だけを交換する。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。予防的な清掃で詰まり・悪臭・漏水リスクを低減できる。 一方Bは不適切。排水不良自体が異常である。

イ：Aは適切。予防的な清掃で詰まり・悪臭・漏水リスクを低減できる。 Bも適切。複数階同時なら共用排水・通気系統の異常が疑われる。

ウ：Aは不適切。詰まり原因になる。 一方Bは適切。複数階同時なら共用排水・通気系統の異常が疑われる。

エ：Aは不適切。記録が必要である。 Bも不適切。給水器具交換では改善しない。

総合解説：Aについて：集合住宅では共用立て管の計画清掃も検討する。 Bについて：排水事故は逆流・漏水へ進展する可能性があるため、早めに使用制限を含む対応を検討する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0051 ｜ 難易度：3

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：技術基準
B：破封

ア．【技術基準】設置・構造は、建築基準法等の適用がある場合はそれらに加え、政令で定める技術上の基準に適合させる必要がある。 ／ 【破封】分電盤のブレーカーを交換する。

イ．【技術基準】排水設備は給水装置と同じ法律だけで規制される。 ／ 【破封】排水トラップの封水が蒸発・減少していないか確認する。

ウ．【技術基準】設置・構造は、建築基準法等の適用がある場合はそれらに加え、政令で定める技術上の基準に適合させる必要がある。 ／ 【破封】排水トラップの封水が蒸発・減少していないか確認する。

エ．【技術基準】排水設備には技術基準が一切ない。 ／ 【破封】屋上防水を全面撤去する。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。下水道法10条3項の考え方である。 一方Bは不適切。電気設備の問題ではない。

イ：Aは不適切。下水道法等が適用される。 一方Bは適切。長期未使用では封水蒸発による臭気侵入が起こり得る。

ウ：Aは適切。下水道法10条3項の考え方である。 Bも適切。長期未使用では封水蒸発による臭気侵入が起こり得る。

エ：Aは不適切。法定基準がある。 Bも不適切。臭気原因として優先度が低い。

総合解説：Aについて：改修時は自治体の排水設備基準・指定工事店制度等も確認する。 Bについて：まず水を流して封水を回復させ、再発する場合は配管・通気等を調査する。

問題 0052 ｜ 難易度：3

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：総合
B：封水

ア．【総合】共用排水立て管や横主管、通気系統の閉塞・不良を疑い、影響範囲を確認して専門業者に調査させる。 ／ 【封水】電気の漏電を防ぐ。

イ．【総合】各住戸の蛇口だけを交換する。 ／ 【封水】封水によって下水側の臭気や害虫等が室内へ侵入するのを防ぐ。

ウ．【総合】全て給水圧不足と断定する。 ／ 【封水】外壁の雨漏りを防ぐ。

エ．【総合】共用排水立て管や横主管、通気系統の閉塞・不良を疑い、影響範囲を確認して専門業者に調査させる。 ／ 【封水】封水によって下水側の臭気や害虫等が室内へ侵入するのを防ぐ。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。複数階同時なら共用排水・通気系統の異常が疑われる。 一方Bは不適切。電気設備ではない。

イ：Aは不適切。給水器具交換では改善しない。 一方Bは適切。排水トラップは水封により排水管内と室内を遮断する。

ウ：Aは不適切。症状と合わない。 Bも不適切。防水層の役割である。

エ：Aは適切。複数階同時なら共用排水・通気系統の異常が疑われる。 Bも適切。排水トラップは水封により排水管内と室内を遮断する。

総合解説：Aについて：排水事故は逆流・漏水へ進展する可能性があるため、早めに使用制限を含む対応を検討する。 Bについて：長期空室では封水が蒸発して臭気が上がることがある。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0053 ｜ 難易度：1

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：給湯
B：燃焼排気

ア．【給湯】水を加熱し、浴室・台所・洗面等へ必要な温度の湯を供給する。 ／ 【燃焼排気】給気・排気経路を確保し、不完全燃焼や排気逆流を防ぐ。

イ．【給湯】水を加熱し、浴室・台所・洗面等へ必要な温度の湯を供給する。 ／ 【燃焼排気】換気不足でも使用を継続する。

ウ．【給湯】地震力に抵抗する。 ／ 【燃焼排気】給気・排気経路を確保し、不完全燃焼や排気逆流を防ぐ。

エ．【給湯】室内照明へ電力を供給する。 ／ 【燃焼排気】排気口を物で塞いで熱を室内に戻す。

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。給湯設備は加熱した水を衛生器具等へ供給する設備である。 Bも適切。燃焼には十分な空気と安全な排気が必要である。

イ：Aは適切。給湯設備は加熱した水を衛生器具等へ供給する設備である。 一方Bは不適切。危険である。

ウ：Aは不適切。構造の役割である。 一方Bは適切。燃焼には十分な空気と安全な排気が必要である。

エ：Aは不適切。電気設備の役割である。 Bも不適切。一酸化炭素中毒等の危険がある。

総合解説：Aについて：熱源にはガス・電気等があり、設備方式ごとに安全点検項目が異なる。 Bについて：ガス式等の給湯器では機器周辺の囲い込みや排気口閉塞を避ける。

問題 0054 ｜ 難易度：2

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：やけど
B：器具固定

ア．【やけど】使用を注意喚起し、温度設定・混合水栓・給湯機の制御異常等を点検する。 ／ 【器具固定】ぐらつきは使用上問題ないので放置する。

イ．【やけど】使用を注意喚起し、温度設定・混合水栓・給湯機の制御異常等を点検する。 ／ 【器具固定】固定部、接続配管、シール部等を点検し、漏水・破損が生じる前に補修する。

ウ．【やけど】電気容量を増やせば必ず改善する。 ／ 【器具固定】固定部、接続配管、シール部等を点検し、漏水・破損が生じる前に補修する。

エ．【やけど】やけどの危険はないので放置する。 ／ 【器具固定】器具をさらに揺らして確認するだけでよい。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。高温湯はやけど事故につながるため安全確認が必要である。 一方Bは不適切。安全上問題となる。

イ：Aは適切。高温湯はやけど事故につながるため安全確認が必要である。 Bも適切。器具の緩みは接続部漏水や転倒・破損につながる。

ウ：Aは不適切。原因によっては改善しない。 一方Bは適切。器具の緩みは接続部漏水や転倒・破損につながる。

エ：Aは不適切。危険である。 Bも不適切。破損を広げる可能性がある。

総合解説：Aについて：特に乳幼児・高齢者がいる住戸では温度異常の安全リスクが高い。 Bについて：衛生器具は本体だけでなく給排水接続部を一体で点検する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0055 ｜ 難易度：2

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：燃焼排気
B：便器漏水

ア．【燃焼排気】給気・排気経路を確保し、不完全燃焼や排気逆流を防ぐ。 ／ 【便器漏水】屋上防水を補修する。

イ．【燃焼排気】排気口を物で塞いで熱を室内に戻す。 ／ 【便器漏水】タンク内部の弁・フロート等の不具合を確認し、必要な修理を行う。

ウ．【燃焼排気】給気・排気経路を確保し、不完全燃焼や排気逆流を防ぐ。 ／ 【便器漏水】タンク内部の弁・フロート等の不具合を確認し、必要な修理を行う。

エ．【燃焼排気】屋外給湯器を囲って密閉する。 ／ 【便器漏水】外壁タイルを交換する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。燃焼には十分な空気と安全な排気が必要である。 一方Bは不適切。原因とは関係しない。

イ：Aは不適切。一酸化炭素中毒等の危険がある。 一方Bは適切。止水不良は継続漏水と水道料金増加につながる。

ウ：Aは適切。燃焼には十分な空気と安全な排気が必要である。 Bも適切。止水不良は継続漏水と水道料金増加につながる。

エ：Aは不適切。不完全燃焼の原因になる。 Bも不適切。無関係である。

総合解説：Aについて：ガス式等の給湯器では機器周辺の囲い込みや排気口閉塞を避ける。 Bについて：微量漏水は気づきにくいため、メーターや便器内の流れも点検する。

問題 0056 ｜ 難易度：2

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：便器漏水
B：温水漏れ

ア．【便器漏水】タンク内部の弁・フロート等の不具合を確認し、必要な修理を行う。 ／ 【温水漏れ】排水トラップの封水蒸発だけ

イ．【便器漏水】屋上防水を補修する。 ／ 【温水漏れ】給湯配管または給湯器周辺の漏水

ウ．【便器漏水】外壁タイルを交換する。 ／ 【温水漏れ】冷水給水本管の常時漏水だけ

エ．【便器漏水】タンク内部の弁・フロート等の不具合を確認し、必要な修理を行う。 ／ 【温水漏れ】給湯配管または給湯器周辺の漏水

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。止水不良は継続漏水と水道料金増加につながる。 一方Bは不適切。臭気の原因であり漏水条件と合わない。

イ：Aは不適切。原因とは関係しない。 一方Bは適切。温水使用時だけなら給湯系統との関連が強い。

ウ：Aは不適切。無関係である。 Bも不適切。常時漏水なら冷水使用に関係なく出る可能性が高い。

エ：Aは適切。止水不良は継続漏水と水道料金増加につながる。 Bも適切。温水使用時だけなら給湯系統との関連が強い。

総合解説：Aについて：微量漏水は気づきにくいため、メーターや便器内の流れも点検する。 Bについて：温度変化による配管伸縮や継手劣化も含めて点検する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0057 ｜ 難易度：2

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：器具固定
B：総合

ア．【器具固定】固定部、接続配管、シール部等を点検し、漏水・破損が生じる前に補修する。 ／ 【総合】給湯系統、排水系統、防水・シール部を分けて確認し、それぞれの原因を特定する。

イ．【器具固定】固定部、接続配管、シール部等を点検し、漏水・破損が生じる前に補修する。 ／ 【総合】全て一つの給湯器故障と断定する。

ウ．【器具固定】排水管を切断して使用を続ける。 ／ 【総合】給湯系統、排水系統、防水・シール部を分けて確認し、それぞれの原因を特定する。

エ．【器具固定】ぐらつきは使用上問題ないので放置する。 ／ 【総合】水染みだけ塗装して他の症状を無視する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。器具の緩みは接続部漏水や転倒・破損につながる。 Bも適切。複数の設備・建築要因が同時に存在する可能性がある。

イ：Aは適切。器具の緩みは接続部漏水や転倒・破損につながる。 一方Bは不適切。排水・防水異常は別原因の可能性がある。

ウ：Aは不適切。使用不能となる。 一方Bは適切。複数の設備・建築要因が同時に存在する可能性がある。

エ：Aは不適切。安全上問題となる。 Bも不適切。原因を残す。

総合解説：Aについて：衛生器具は本体だけでなく給排水接続部を一体で点検する。 Bについて：水回りでは給水・給湯・排水・防水を系統分けして診断することが重要である。

問題 0058 ｜ 難易度：3

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：温水漏れ
B：更新計画

ア．【温水漏れ】給湯配管または給湯器周辺の漏水 ／ 【更新計画】安全装置を無効化して延命する。

イ．【温水漏れ】給湯配管または給湯器周辺の漏水 ／ 【更新計画】安全性・修理費・故障頻度・部品供給・使用年数等を踏まえ、更新を検討する。

ウ．【温水漏れ】冷水給水本管の常時漏水だけ ／ 【更新計画】安全性・修理費・故障頻度・部品供給・使用年数等を踏まえ、更新を検討する。

エ．【温水漏れ】外壁の中性化だけ ／ 【更新計画】故障履歴を削除して更新判断をしない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。温水使用時だけなら給湯系統との関連が強い。 一方Bは不適切。危険である。

イ：Aは適切。温水使用時だけなら給湯系統との関連が強い。 Bも適切。設備更新は単純な年数だけでなく状態と保守性を総合判断する。

ウ：Aは不適切。常時漏水なら冷水使用に関係なく出る可能性が高い。 一方Bは適切。設備更新は単純な年数だけでなく状態と保守性を総合判断する。

エ：Aは不適切。構造劣化の論点である。 Bも不適切。履歴が重要である。

総合解説：Aについて：温度変化による配管伸縮や継手劣化も含めて点検する。 Bについて：故障履歴を設備台帳に蓄積すると計画更新の根拠になる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0059 ｜ 難易度：2

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：更新計画
B：給湯

ア．【更新計画】安全性・修理費・故障頻度・部品供給・使用年数等を踏まえ、更新を検討する。／【給湯】室内照明へ電力を供給する。

イ．【更新計画】安全装置を無効化して延命する。／【給湯】水を加熱し、浴室・台所・洗面等へ必要な温度の湯を供給する。

ウ．【更新計画】安全性・修理費・故障頻度・部品供給・使用年数等を踏まえ、更新を検討する。／【給湯】水を加熱し、浴室・台所・洗面等へ必要な温度の湯を供給する。

エ．【更新計画】故障履歴を削除して更新判断をしない。／【給湯】汚水を公共下水道へ排出する。

答え・4肢解説 正答：ウ

ア：Aは適切。設備更新は単純な年数だけでなく状態と保守性を総合判断する。 一方Bは不適切。電気設備の役割である。

イ：Aは不適切。危険である。 一方Bは適切。給湯設備は加熱した水を衛生器具等へ供給する設備である。

ウ：Aは適切。設備更新は単純な年数だけでなく状態と保守性を総合判断する。 Bも適切。給湯設備は加熱した水を衛生器具等へ供給する設備である。

エ：Aは不適切。履歴が重要である。 Bも不適切。排水設備の役割である。

総合解説：Aについて：故障履歴を設備台帳に蓄積すると計画更新の根拠になる。 Bについて：熱源にはガス・電気等があり、設備方式ごとに安全点検項目が異なる。

問題 0060 ｜ 難易度：3

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：総合
B：燃焼排気

ア．【総合】給湯系統、排水系統、防水・シール部を分けて確認し、それぞれの原因を特定する。／【燃焼排気】排気口を物で塞いで熱を室内に戻す。

イ．【総合】症状が複数ある場合は点検できないとする。／【燃焼排気】給気・排気経路を確保し、不完全燃焼や排気逆流を防ぐ。

ウ．【総合】全て一つの給湯器故障と断定する。／【燃焼排気】屋外給湯器を囲って密閉する。

エ．【総合】給湯系統、排水系統、防水・シール部を分けて確認し、それぞれの原因を特定する。／【燃焼排気】給気・排気経路を確保し、不完全燃焼や排気逆流を防ぐ。

答え・4肢解説 正答：エ

ア：Aは適切。複数の設備・建築要因が同時に存在する可能性がある。 一方Bは不適切。一酸化炭素中毒等の危険がある。

イ：Aは不適切。系統別に診断できる。 一方Bは適切。燃焼には十分な空気と安全な排気が必要である。

ウ：Aは不適切。排水・防水異常は別原因の可能性がある。 Bも不適切。不完全燃焼の原因になる。

エ：Aは適切。複数の設備・建築要因が同時に存在する可能性がある。 Bも適切。燃焼には十分な空気と安全な排気が必要である。

総合解説：Aについて：水回りでは給水・給湯・排水・防水を系統分けして診断することが重要である。 Bについて：ガス式等の給湯器では機器周辺の囲い込みや排気口閉塞を避ける。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0061 ｜ 難易度：1

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：分電盤
B：過電流

ア．【分電盤】受電した電気を各回路へ分配し、遮断器によって過電流や漏電等から電路を保護する。 ／ 【過電流】短絡や過負荷等による過電流から電線・設備を保護する。

イ．【分電盤】受電した電気を各回路へ分配し、遮断器によって過電流や漏電等から電路を保護する。 ／ 【過電流】排水管の詰まりを除去する。

ウ．【分電盤】給水圧を各住戸へ分配する。 ／ 【過電流】短絡や過負荷等による過電流から電線・設備を保護する。

エ．【分電盤】排水臭気を止める。 ／ 【過電流】給湯温度を一定にする。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。分電盤には主幹・分岐の遮断器等が設けられる。 Bも適切。電線の許容電流を超える過電流から保護する設備である。

イ：Aは適切。分電盤には主幹・分岐の遮断器等が設けられる。 一方Bは不適切。排水設備の問題である。

ウ：Aは不適切。給水設備の機能である。 一方Bは適切。電線の許容電流を超える過電流から保護する設備である。

エ：Aは不適切。排水トラップの機能である。 Bも不適切。給湯設備の機能である。

総合解説：Aについて：異常時にどの回路で遮断したかを確認できるよう、回路表示を整理しておく。 Bについて：遮断器が頻繁に動作する場合は、負荷の集中や短絡等の原因調査が必要である。

問題 0062 ｜ 難易度：2

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：過電流
B：接地

ア．【過電流】短絡や過負荷等による過電流から電線・設備を保護する。 ／ 【接地】建物の重量を減らすため

イ．【過電流】短絡や過負荷等による過電流から電線・設備を保護する。 ／ 【接地】絶縁故障時の感電危険を低減し、保護装置を適切に動作させるため

ウ．【過電流】排水管の詰まりを除去する。 ／ 【接地】絶縁故障時の感電危険を低減し、保護装置を適切に動作させるため

エ．【過電流】給湯温度を一定にする。 ／ 【接地】電気料金を必ず半額にするため

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。電線の許容電流を超える過電流から保護する設備である。 一方Bは不適切。構造重量とは関係しない。

イ：Aは適切。電線の許容電流を超える過電流から保護する設備である。 Bも適切。接地は漏電時の安全確保に重要な保護手段である。

ウ：Aは不適切。排水設備の問題である。 一方Bは適切。接地は漏電時の安全確保に重要な保護手段である。

エ：Aは不適切。給湯設備の機能である。 Bも不適切。料金とは直接関係しない。

総合解説：Aについて：遮断器が頻繁に動作する場合は、負荷の集中や短絡等の原因調査が必要である。 Bについて：接地線を勝手に取り外すことは安全上不適切である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0063 ｜ 難易度：1

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：地絡
B：停電

ア．【地絡】地絡・漏電を検知して電路を遮断し、感電や火災等の危険を低減する。 ／ 【停電】何度も強制的に再投入する。

イ．【地絡】排水の通気を確保する。 ／ 【停電】その回路に漏電等の異常が疑われるため、当該回路を切り離し電気工事店等に点検を依頼する。

ウ．【地絡】地絡・漏電を検知して電路を遮断し、感電や火災等の危険を低減する。 ／ 【停電】その回路に漏電等の異常が疑われるため、当該回路を切り離し電気工事店等に点検を依頼する。

エ．【地絡】水道水の逆流を止める。 ／ 【停電】遮断器をテープで固定して動作しないようにする。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。地絡時の自動遮断は電気安全上重要である。 一方Bは不適切。火災・感電リスクが高まる。

イ：Aは不適切。排水設備の機能である。 一方Bは適切。資源エネルギー庁も再動作する場合は漏電のおそれがあるとして専門業者への連絡を案内している。

ウ：Aは適切。地絡時の自動遮断は電気安全上重要である。 Bも適切。資源エネルギー庁も再動作する場合は漏電のおそれがあるとして専門業者への連絡を案内している。

エ：Aは不適切。給水設備の機能である。 Bも不適切。保護機能を無効化して危険である。

総合解説：Aについて：漏電遮断器が再投入してもすぐ動作する場合は、無理に繰り返さず専門業者へ連絡する。 Bについて：停電時は建物全体・住戸全体・特定回路のどこで異常があるかを切り分ける。

問題 0064 ｜ 難易度：2

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：接地
B：接触不良

ア．【接地】絶縁故障時の感電危険を低減し、保護装置を適切に動作させるため ／ 【接触不良】水をかけて冷やしながら使用する。

イ．【接地】電気料金を必ず半額にするため ／ 【接触不良】使用を中止し、電源を安全に遮断した上で、接触不良・過負荷・配線劣化等を専門業者に点検させる。

ウ．【接地】給水圧を上げるため ／ 【接触不良】焦げ跡を塗装で隠す。

エ．【接地】絶縁故障時の感電危険を低減し、保護装置を適切に動作させるため ／ 【接触不良】使用を中止し、電源を安全に遮断した上で、接触不良・過負荷・配線劣化等を専門業者に点検させる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。接地は漏電時の安全確保に重要な保護手段である。 一方Bは不適切。感電・短絡の危険がある。

イ：Aは不適切。料金とは直接関係しない。 一方Bは適切。過熱は火災につながる危険な兆候である。

ウ：Aは不適切。給水設備ではない。 Bも不適切。原因を残す。

エ：Aは適切。接地は漏電時の安全確保に重要な保護手段である。 Bも適切。過熱は火災につながる危険な兆候である。

総合解説：Aについて：接地線を勝手に取り外すことは安全上不適切である。 Bについて：変色・焦げ・異臭・異常発熱は電気設備の緊急点検サインとなる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0065 ｜ 難易度：2

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：接触不良
B：タコ足配線

ア．【接触不良】使用を中止し、電源を安全に遮断した上で、接触不良・過負荷・配線劣化等を専門業者に点検させる。 ／ 【タコ足配線】定格を超える過負荷によりコードや接続部が過熱し、火災の原因となるおそれがある。

イ．【接触不良】使用を中止し、電源を安全に遮断した上で、接触不良・過負荷・配線劣化等を専門業者に点検させる。 ／ 【タコ足配線】過負荷は水道管だけに起こる現象である。

ウ．【接触不良】水をかけて冷やしながら使用する。 ／ 【タコ足配線】定格を超える過負荷によりコードや接続部が過熱し、火災の原因となるおそれがある。

エ．【接触不良】焦げ跡を塗装で隠す。 ／ 【タコ足配線】接続機器が多いほど電線の安全性は高まる。

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。過熱は火災につながる危険な兆候である。 Bも適切。電線・配線器具には許容電流・定格がある。

イ：Aは適切。過熱は火災につながる危険な兆候である。 一方Bは不適切。電気設備の問題である。

ウ：Aは不適切。感電・短絡の危険がある。 一方Bは適切。電線・配線器具には許容電流・定格がある。

エ：Aは不適切。原因を残す。 Bも不適切。逆である。

総合解説：Aについて：変色・焦げ・異臭・異常発熱は電気設備の緊急点検サインとなる。 Bについて：賃貸管理では共用部の仮設配線も恒常使用になっていないか確認する。

問題 0066 ｜ 難易度：2

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：停電
B：専門工事

ア．【停電】その回路に漏電等の異常が疑われるため、当該回路を切り離し電気工事店等に点検を依頼する。 ／ 【専門工事】入居者が希望すれば無資格で自由に配線変更してよい。

イ．【停電】その回路に漏電等の異常が疑われるため、当該回路を切り離し電気工事店等に点検を依頼する。 ／ 【専門工事】法令上必要な資格・技術を有する電気工事業者へ依頼する。

ウ．【停電】給水弁を閉めれば必ず直る。 ／ 【専門工事】法令上必要な資格・技術を有する電気工事業者へ依頼する。

エ．【停電】何度も強制的に再投入する。 ／ 【専門工事】管理担当者が知識なしで活線作業を行う。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。資源エネルギー庁も再動作する場合は漏電のおそれがあるとして専門業者への連絡を案内している。 一方Bは不適切。事故・法令違反の危険がある。

イ：Aは適切。資源エネルギー庁も再動作する場合は漏電のおそれがあるとして専門業者への連絡を案内している。 Bも適切。電気工事には法令上の資格・安全管理が必要な範囲がある。

ウ：Aは不適切。電気故障とは無関係である。 一方Bは適切。電気工事には法令上の資格・安全管理が必要な範囲がある。

エ：Aは不適切。火災・感電リスクが高まる。 Bも不適切。危険である。

総合解説：Aについて：停電時は建物全体・住戸全体・特定回路のどこで異常があるかを切り分ける。 Bについて：管理者は設備異常の発見と安全確保を行い、専門工事は適切な業者へつなぐ。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0067 ｜ 難易度：2

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：タコ足配線
B：共用電源

ア．【タコ足配線】定格を超える過負荷によりコードや接続部が過熱し、火災の原因となるおそれがある。／【共用電源】全入居者の給湯器を停止する。

イ．【タコ足配線】接続機器が多いほど電線の安全性は高まる。／【共用電源】共用分電盤・共用電源系統・電力会社側の状況を確認し、安全確保と必要な復旧手配を行う。

ウ．【タコ足配線】定格を超える過負荷によりコードや接続部が過熱し、火災の原因となるおそれがある。／【共用電源】共用分電盤・共用電源系統・電力会社側の状況を確認し、安全確保と必要な復旧手配を行う。

エ．【タコ足配線】延長コードには定格電流という考え方がない。／【共用電源】外壁防水だけを点検する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。電線・配線器具には許容電流・定格がある。 一方Bは不適切。給湯設備とは直接関係しない。

イ：Aは不適切。逆である。 一方Bは適切。共用部だけの停電なら共用電源系統を優先確認する。

ウ：Aは適切。電線・配線器具には許容電流・定格がある。 Bも適切。共用部だけの停電なら共用電源系統を優先確認する。

エ：Aは不適切。定格内で使用する必要がある。 Bも不適切。停電原因ではない。

総合解説：Aについて：賃貸管理では共用部の仮設配線も恒常使用になっていないか確認する。 Bについて：夜間の共用部停電は転倒・防犯リスクもあるため仮設照明等の安全措置も検討する。

問題 0068 ｜ 難易度：3

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：共用電源
B：総合

ア．【共用電源】共用分電盤・共用電源系統・電力会社側の状況を確認し、安全確保と必要な復旧手配を行う。／【総合】定格の大きい遮断器へ無条件で交換する。

イ．【共用電源】全入居者の給湯器を停止する。／【総合】負荷を停止して安全を確保し、過負荷・端子緩み・絶縁劣化等を専門業者に点検させる。

ウ．【共用電源】外壁防水だけを点検する。／【総合】遮断器が落ちないよう固定する。

エ．【共用電源】共用分電盤・共用電源系統・電力会社側の状況を確認し、安全確保と必要な復旧手配を行う。／【総合】負荷を停止して安全を確保し、過負荷・端子緩み・絶縁劣化等を専門業者に点検させる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。共用部だけの停電なら共用電源系統を優先確認する。 一方Bは不適切。配線容量との整合確認なしの容量増加は危険である。

イ：Aは不適切。給湯設備とは直接関係しない。 一方Bは適切。過熱・頻繁な遮断は重大な電気異常の可能性がある。

ウ：Aは不適切。停電原因ではない。 Bも不適切。保護機能を無効化する。

エ：Aは適切。共用部だけの停電なら共用電源系統を優先確認する。 Bも適切。過熱・頻繁な遮断は重大な電気異常の可能性がある。

総合解説：Aについて：夜間の共用部停電は転倒・防犯リスクもあるため仮設照明等の安全措置も検討する。 Bについて：電気保護装置の動作は原因を知らせるサインであり、機械的な再投入だけで済ませない。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0069 ｜ 難易度：3

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：専門工事
B：過電流

ア．【専門工事】法令上必要な資格・技術を有する電気工事業者へ依頼する。 ／ 【過電流】短絡や過負荷等による過電流から電線・設備を保護する。

イ．【専門工事】法令上必要な資格・技術を有する電気工事業者へ依頼する。 ／ 【過電流】ガス漏れを検知する。

ウ．【専門工事】感電の危険がある作業でも電源を切らずに行う。 ／ 【過電流】短絡や過負荷等による過電流から電線・設備を保護する。

エ．【専門工事】入居者が希望すれば無資格で自由に配線変更してよい。 ／ 【過電流】排水管の詰まりを除去する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。電気工事には法令上の資格・安全管理が必要な範囲がある。 Bも適切。電線の許容電流を超える過電流から保護する設備である。

イ：Aは適切。電気工事には法令上の資格・安全管理が必要な範囲がある。 一方Bは不適切。ガス警報器の役割である。

ウ：Aは不適切。安全手順に反する。 一方Bは適切。電線の許容電流を超える過電流から保護する設備である。

エ：Aは不適切。事故・法令違反の危険がある。 Bも不適切。排水設備の問題である。

総合解説：Aについて：管理者は設備異常の発見と安全確保を行い、専門工事は適切な業者へつなぐ。 Bについて：遮断器が頻繁に動作する場合は、負荷の集中や短絡等の原因調査が必要である。

問題 0070 ｜ 難易度：1

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：総合
B：分電盤

ア．【総合】負荷を停止して安全を確保し、過負荷・端子緩み・絶縁劣化等を専門業者に点検させる。 ／ 【分電盤】排水臭気を止める。

イ．【総合】負荷を停止して安全を確保し、過負荷・端子緩み・絶縁劣化等を専門業者に点検させる。 ／ 【分電盤】受電した電気を各回路へ分配し、遮断器によって過電流や漏電等から電路を保護する。

ウ．【総合】遮断器が落ちないよう固定する。 ／ 【分電盤】受電した電気を各回路へ分配し、遮断器によって過電流や漏電等から電路を保護する。

エ．【総合】臭いが消えれば原因調査をしない。 ／ 【分電盤】外壁の雨水浸入を防ぐ。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。過熱・頻繁な遮断は重大な電気異常の可能性がある。 一方Bは不適切。排水トラップの機能である。

イ：Aは適切。過熱・頻繁な遮断は重大な電気異常の可能性がある。 Bも適切。分電盤には主幹・分岐の遮断器等が設けられる。

ウ：Aは不適切。保護機能を無効化する。 一方Bは適切。分電盤には主幹・分岐の遮断器等が設けられる。

エ：Aは不適切。再発・火災リスクが残る。 Bも不適切。防水の機能である。

総合解説：Aについて：電気保護装置の動作は原因を知らせるサインであり、機械的な再投入だけで済ませない。 Bについて：異常時にどの回路で遮断したかを確認できるよう、回路表示を整理しておく。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0071 ｜ 難易度：1

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：ガス種
B：換気

ア．【ガス種】機器に表示された適合ガス種と、供給されるガスの種類が一致していることを確認する。 ／ 【換気】不完全燃焼の兆候があっても使用を続ける。

イ．【ガス種】適合しないガスでも火が付けば安全である。 ／ 【換気】機器の種類に応じて必要な給気・換気を確保する。

ウ．【ガス種】機器に表示された適合ガス種と、供給されるガスの種類が一致していることを確認する。 ／ 【換気】機器の種類に応じて必要な給気・換気を確保する。

エ．【ガス種】ガス種表示は取り外して使用する。 ／ 【換気】寒い日は換気口を完全に塞ぐ。

答え・4肢解説 正答：ウ

ア：Aは適切。ガス種不適合は異常燃焼・一酸化炭素中毒等の原因となる。 一方Bは不適切。使用中止と点検が必要である。

イ：Aは不適切。非常に危険である。 一方Bは適切。燃焼には新鮮な空気が必要であり、換気不足はCO中毒の原因となる。

ウ：Aは適切。ガス種不適合は異常燃焼・一酸化炭素中毒等の原因となる。 Bも適切。燃焼には新鮮な空気が必要であり、換気不足はCO中毒の原因となる。

エ：Aは不適切。表示確認が必要である。 Bも不適切。危険である。

総合解説：Aについて：入居時や機器交換時にはガス種適合を必ず確認する。 Bについて：室内ガス機器では使用者への換気周知も事故防止に重要である。

問題 0072 ｜ 難易度：1

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：一酸化炭素
B：警報器

ア．【一酸化炭素】一酸化炭素（CO）の発生 ／ 【警報器】一度設置すれば永久に交換不要である。

イ．【一酸化炭素】排水管の勾配増加 ／ 【警報器】機器の有効期間・交換期限を確認し、期限が近づいたら適切に交換する。

ウ．【一酸化炭素】酸素が無限に増えること ／ 【警報器】警報器が鳴ると危険なので電池を外して使用する。

エ．【一酸化炭素】一酸化炭素（CO）の発生 ／ 【警報器】機器の有効期間・交換期限を確認し、期限が近づいたら適切に交換する。

答え・4肢解説 正答：エ

ア：Aは適切。換気不足等による不完全燃焼はCO中毒につながる。 一方Bは不適切。機器には寿命がある。

イ：Aは不適切。無関係である。 一方Bは適切。経済産業省はガス警報器に交換期限があることを案内している。

ウ：Aは不適切。逆であり酸素不足が問題となる。 Bも不適切。安全装置を無効化して危険である。

エ：Aは適切。換気不足等による不完全燃焼はCO中毒につながる。 Bも適切。経済産業省はガス警報器に交換期限があることを案内している。

総合解説：Aについて：COは無色・無臭で気づきにくいため、換気と機器の適切な維持が重要である。 Bについて：設備台帳に設置日・交換期限を記録すると更新漏れを防げる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0073 ｜ 難易度：2

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：換気
B：ガス漏れ

ア．【換気】機器の種類に応じて必要な給気・換気を確保する。 ／ 【ガス漏れ】火気を使わず、安全な場所へ避難し、電灯や換気扇等のスイッチに触れずガス事業者へ連絡する。

イ．【換気】機器の種類に応じて必要な給気・換気を確保する。 ／ 【ガス漏れ】ライターで漏れ箇所を探す。

ウ．【換気】寒い日は換気口を完全に塞ぐ。 ／ 【ガス漏れ】火気を使わず、安全な場所へ避難し、電灯や換気扇等のスイッチに触れずガス事業者へ連絡する。

エ．【換気】換気扇や窓は安全のため常に閉じる。 ／ 【ガス漏れ】換気扇を強運転にしてから火を使う。

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。燃焼には新鮮な空気が必要であり、換気不足はCO中毒の原因となる。 Bも適切。電気スイッチの火花等が着火源となるおそれがある。

イ：Aは適切。燃焼には新鮮な空気が必要であり、換気不足はCO中毒の原因となる。 一方Bは不適切。極めて危険である。

ウ：Aは不適切。危険である。 一方Bは適切。電気スイッチの火花等が着火源となるおそれがある。

エ：Aは不適切。換気が必要である。 Bも不適切。スイッチ操作自体を避ける。

総合解説：Aについて：室内ガス機器では使用者への換気周知も事故防止に重要である。 Bについて：安全な範囲で窓等を開けられる場合でも、電気機器の操作は避ける。

問題 0074 ｜ 難易度：2

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：ガス漏れ
B：給排気

ア．【ガス漏れ】火気を使わず、安全な場所へ避難し、電灯や換気扇等のスイッチに触れずガス事業者へ連絡する。 ／ 【給排気】排気経路はガス機器の安全と無関係である。

イ．【ガス漏れ】火気を使わず、安全な場所へ避難し、電灯や換気扇等のスイッチに触れずガス事業者へ連絡する。 ／ 【給排気】給排気が妨げられ不完全燃焼・CO中毒等の危険があるため行ってはならない。

ウ．【ガス漏れ】ライターで漏れ箇所を探す。 ／ 【給排気】給排気が妨げられ不完全燃焼・CO中毒等の危険があるため行ってはならない。

エ．【ガス漏れ】換気扇を強運転にしてから火を使う。 ／ 【給排気】風雨を避けられるので必ず安全性が高まる。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。電気スイッチの火花等が着火源となるおそれがある。 一方Bは不適切。非常に重要である。

イ：Aは適切。電気スイッチの火花等が着火源となるおそれがある。 Bも適切。経済産業省は屋外機器の囲い込みを危険として注意喚起している。

ウ：Aは不適切。極めて危険である。 一方Bは適切。経済産業省は屋外機器の囲い込みを危険として注意喚起している。

エ：Aは不適切。スイッチ操作自体を避ける。 Bも不適切。給排気阻害の危険がある。

総合解説：Aについて：安全な範囲で窓等を開けられる場合でも、電気機器の操作は避ける。 Bについて：増改築時には既存ガス機器の設置環境が変わらないか確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0075 ｜ 難易度：2

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：警報器
B：異常燃焼

ア．【警報器】機器の有効期間・交換期限を確認し、期限が近づいたら適切に交換する。 ／ 【異常燃焼】異常があっても使い切るまで継続使用する。

イ．【警報器】設置位置はガス種や機器に関係なくどこでも同じでよい。 ／ 【異常燃焼】使用を中止し、換気・安全確保の上でガス事業者やメーカー等に点検を依頼する。

ウ．【警報器】機器の有効期間・交換期限を確認し、期限が近づいたら適切に交換する。 ／ 【異常燃焼】使用を中止し、換気・安全確保の上でガス事業者やメーカー等に点検を依頼する。

エ．【警報器】一度設置すれば永久に交換不要である。 ／ 【異常燃焼】安全装置を解除して動かす。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。経済産業省はガス警報器に交換期限があることを案内している。 一方Bは不適切。危険である。

イ：Aは不適切。ガス種等に応じ適切な設置が必要である。 一方Bは適切。燃焼異常はCO発生等につながる可能性がある。

ウ：Aは適切。経済産業省はガス警報器に交換期限があることを案内している。 Bも適切。燃焼異常はCO発生等につながる可能性がある。

エ：Aは不適切。機器には寿命がある。 Bも不適切。保護機能を無効化して危険である。

総合解説：Aについて：設備台帳に設置日・交換期限を記録すると更新漏れを防げる。 Bについて：異常燃焼は使用者の感覚情報も重要なので、発生条件を記録する。

問題 0076 ｜ 難易度：2

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：給排気
B：消費機器調査

ア．【給排気】給排気が妨げられ不完全燃焼・CO中毒等の危険があるため行ってはならない。 ／ 【消費機器調査】ガス機器は使用者だけが点検し事業者は関与しない。

イ．【給排気】風雨を避けられるので必ず安全性が高まる。 ／ 【消費機器調査】ガス使用上の危険防止事項を周知し、対象となる消費機器が技術基準に適合するか調査する。

ウ．【給排気】屋外機器は完全密閉して使うのが原則である。 ／ 【消費機器調査】不適合を確認しても所有者等へ何も知らせない。

エ．【給排気】給排気が妨げられ不完全燃焼・CO中毒等の危険があるため行ってはならない。 ／ 【消費機器調査】ガス使用上の危険防止事項を周知し、対象となる消費機器が技術基準に適合するか調査する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。経済産業省は屋外機器の囲い込みを危険として注意喚起している。 一方Bは不適切。事業者による調査制度がある。

イ：Aは不適切。給排気阻害の危険がある。 一方Bは適切。ガス事業法159条は周知・調査等を定める。

ウ：Aは不適切。屋外開放を前提とする機器がある。 Bも不適切。不適合時の通知が求められる。

エ：Aは適切。経済産業省は屋外機器の囲い込みを危険として注意喚起している。 Bも適切。ガス事業法159条は周知・調査等を定める。

総合解説：Aについて：増改築時には既存ガス機器の設置環境が変わらないか確認する。 Bについて：管理者は法定調査の訪問に必要な入居者調整等を適切に行う。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0077 ｜ 難易度：1

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：消費機器調査
B：腐食

ア．【消費機器調査】ガス使用上の危険防止事項を周知し、対象となる消費機器が技術基準に適合するか調査する。 ／ 【腐食】腐食や損傷によるガス漏れの可能性を考え、状態に応じて点検・更新を検討する。

イ．【消費機器調査】ガス使用上の危険防止事項を周知し、対象となる消費機器が技術基準に適合するか調査する。 ／ 【腐食】ガス管周辺の工事では配管位置を確認しなくてよい。

ウ．【消費機器調査】ガス機器は使用者だけが点検し事業者は関与しない。 ／ 【腐食】腐食や損傷によるガス漏れの可能性を考え、状態に応じて点検・更新を検討する。

エ．【消費機器調査】不適合を確認しても所有者等へ何も知らせない。 ／ 【腐食】金属製ガス管は経年劣化しない。

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。ガス事業法159条は周知・調査等を定める。 Bも適切。腐食はガス漏れ事故の原因となり得る。

イ：Aは適切。ガス事業法159条は周知・調査等を定める。 一方Bは不適切。掘削・改修時の損傷防止が必要である。

ウ：Aは不適切。事業者による調査制度がある。 一方Bは適切。腐食はガス漏れ事故の原因となり得る。

エ：Aは不適切。不適合時の通知が求められる。 Bも不適切。経年劣化する。

総合解説：Aについて：管理者は法定調査の訪問に必要な入居者調整等を適切に行う。 Bについて：改修工事前には隠ぺいされたガス管の位置確認も重要である。

問題 0078 ｜ 難易度：2

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：異常燃焼
B：ガス種

ア．【異常燃焼】使用を中止し、換気・安全確保の上でガス事業者やメーカー等に点検を依頼する。 ／ 【ガス種】ガス種は地域や機器に関係なく全て同じである。

イ．【異常燃焼】使用を中止し、換気・安全確保の上でガス事業者やメーカー等に点検を依頼する。 ／ 【ガス種】機器に表示された適合ガス種と、供給されるガスの種類が一致していることを確認する。

ウ．【異常燃焼】排気口を塞いで臭いを室内に出さないようにする。 ／ 【ガス種】機器に表示された適合ガス種と、供給されるガスの種類が一致していることを確認する。

エ．【異常燃焼】異常があっても使い切るまで継続使用する。 ／ 【ガス種】適合しないガスでも火が付けば安全である。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。燃焼異常はCO発生等につながる可能性がある。 一方Bは不適切。種類が異なる場合がある。

イ：Aは適切。燃焼異常はCO発生等につながる可能性がある。 Bも適切。ガス種不適合は異常燃焼・一酸化炭素中毒等の原因となる。

ウ：Aは不適切。さらに危険になる。 一方Bは適切。ガス種不適合は異常燃焼・一酸化炭素中毒等の原因となる。

エ：Aは不適切。危険である。 Bも不適切。非常に危険である。

総合解説：Aについて：異常燃焼は使用者の感覚情報も重要なので、発生条件を記録する。 Bについて：入居時や機器交換時にはガス種適合を必ず確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0079 ｜ 難易度：2

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：腐食
B：総合

ア．【腐食】腐食や損傷によるガス漏れの可能性を考え、状態に応じて点検・更新を検討する。 ／ 【総合】症状が軽ければ燃焼機器を強運転する。

イ．【腐食】金属製ガス管は経年劣化しない。 ／ 【総合】ガス・CO等の危険を想定し、直ちに使用を中止して避難・換気等の安全確保を行い、ガス事業者や必要に応じ救急へ連絡する。

ウ．【腐食】腐食や損傷によるガス漏れの可能性を考え、状態に応じて点検・更新を検討する。 ／ 【総合】ガス・CO等の危険を想定し、直ちに使用を中止して避難・換気等の安全確保を行い、ガス事業者や必要に応じ救急へ連絡する。

エ．【腐食】錆があっても漏れと無関係なので塗装だけで十分と断定する。 ／ 【総合】原因確認まで室内にとどまるよう指示する。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。腐食はガス漏れ事故の原因となり得る。 一方Bは不適切。悪化させる。

イ：Aは不適切。経年劣化する。 一方Bは適切。CO中毒等は生命に関わるため安全確保を最優先する。

ウ：Aは適切。腐食はガス漏れ事故の原因となり得る。 Bも適切。CO中毒等は生命に関わるため安全確保を最優先する。

エ：Aは不適切。腐食の程度確認が必要である。 Bも不適切。避難が必要である。

総合解説：Aについて：改修工事前には隠ぺいされたガス管の位置確認も重要である。 Bについて：ガス事故対応では設備復旧より人命安全を先にする。

問題 0080 ｜ 難易度：1

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：総合
B：一酸化炭素

ア．【総合】ガス・CO等の危険を想定し、直ちに使用を中止して避難・換気等の安全確保を行い、ガス事業者や必要に応じ救急へ連絡する。 ／ 【一酸化炭素】排水管の勾配増加

イ．【総合】症状が軽ければ燃焼機器を強運転する。 ／ 【一酸化炭素】一酸化炭素（CO）の発生

ウ．【総合】原因確認まで室内にとどまるよう指示する。 ／ 【一酸化炭素】酸素が無限に増えること

エ．【総合】ガス・CO等の危険を想定し、直ちに使用を中止して避難・換気等の安全確保を行い、ガス事業者や必要に応じ救急へ連絡する。 ／ 【一酸化炭素】一酸化炭素（CO）の発生

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。CO中毒等は生命に関わるため安全確保を最優先する。 一方Bは不適切。無関係である。

イ：Aは不適切。悪化させる。 一方Bは適切。換気不足等による不完全燃焼はCO中毒につながる。

ウ：Aは不適切。避難が必要である。 Bも不適切。逆であり酸素不足が問題となる。

エ：Aは適切。CO中毒等は生命に関わるため安全確保を最優先する。 Bも適切。換気不足等による不完全燃焼はCO中毒につながる。

総合解説：Aについて：ガス事故対応では設備復旧より人命安全を先にする。 Bについて：COは無色・無臭で気づきにくいため、換気と機器の適切な維持が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0081 ｜ 難易度：1

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：換気
B：給気不足

ア．【換気】室内の汚染物質・臭気・湿気等を排出し、必要な外気を取り入れて室内空気環境を保つ。 ／ 【給気不足】必要な外気が入りにくくなり、換気量低下や室内負圧の増大等につながる。

イ．【換気】室内の汚染物質・臭気・湿気等を排出し、必要な外気を取り入れて室内空気環境を保つ。 ／ 【給気不足】換気性能が必ず2倍になる。

ウ．【換気】排水管の固形物を除去する。 ／ 【給気不足】必要な外気が入りにくくなり、換気量低下や室内負圧の増大等につながる。

エ．【換気】建物の構造耐力を直接増加させる。 ／ 【給気不足】排水能力が向上する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。換気は室内空気質・湿度管理に重要である。 Bも適切。排気だけでなく給気経路の確保が必要である。

イ：Aは適切。換気は室内空気質・湿度管理に重要である。 一方Bは不適切。逆である。

ウ：Aは不適切。排水清掃の機能ではない。 一方Bは適切。排気だけでなく給気経路の確保が必要である。

エ：Aは不適切。構造補強ではない。 Bも不適切。排水とは無関係である。

総合解説：Aについて：窓開けだけでなく機械換気設備の維持管理も重要である。 Bについて：結露・臭気等の苦情時には換気扇だけでなく給気口の閉塞も確認する。

問題 0082 ｜ 難易度：2

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：シックハウス
B：換気回数

ア．【シックハウス】ホルムアルデヒド対策として、居室を有する建築物には原則として機械換気設備の設置が求められる。 ／ 【換気回数】1時間当たり100回が一律義務である。

イ．【シックハウス】ホルムアルデヒド対策として、居室を有する建築物には原則として機械換気設備の設置が求められる。 ／ 【換気回数】1時間当たり0.5回以上を基本とする。

ウ．【シックハウス】住宅では機械換気設備の設置は禁止されている。 ／ 【換気回数】1時間当たり0.5回以上を基本とする。

エ．【シックハウス】F☆☆☆☆建材を使えば換気設備は絶対に不要である。 ／ 【換気回数】1日当たり0.5回だけでよい。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。家具等からもホルムアルデヒドが発散するため原則義務付けられている。 一方Bは不適切。過大で一律の基準ではない。

イ：Aは適切。家具等からもホルムアルデヒドが発散するため原則義務付けられている。 Bも適切。住宅では0.5回/hの24時間換気が基本として示されている。

ウ：Aは不適切。逆である。 一方Bは適切。住宅では0.5回/hの24時間換気が基本として示されている。

エ：Aは不適切。建材だけで換気義務が消えるとは限らない。 Bも不適切。単位が異なる。

総合解説：Aについて：入居者が給気口を塞いだり24時間換気を停止したりすると本来の換気性能を損なう。 Bについて：換気回数0.5回/hは、概念上1時間に室容積の半分相当の空気を入れ替える量である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0083 ｜ 難易度：1

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：換気回数
B：フィルター

ア．【換気回数】1時間当たり0.5回以上を基本とする。 ／ 【フィルター】給湯温度が自動的に安定する。

イ．【換気回数】1時間当たり100回が一律義務である。 ／ 【フィルター】風量が低下し、換気性能低下や機器負荷増大の原因となる。

ウ．【換気回数】1時間当たり0.5回以上を基本とする。 ／ 【フィルター】風量が低下し、換気性能低下や機器負荷増大の原因となる。

エ．【換気回数】1日当たり0.5回だけでよい。 ／ 【フィルター】換気量が必ず増える。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。住宅では0.5回/hの24時間換気が基本として示されている。 一方Bは不適切。給湯設備とは別である。

イ：Aは不適切。過大で一律の基準ではない。 一方Bは適切。空気流路の抵抗増加により風量が低下する。

ウ：Aは適切。住宅では0.5回/hの24時間換気が基本として示されている。 Bも適切。空気流路の抵抗増加により風量が低下する。

エ：Aは不適切。単位が異なる。 Bも不適切。逆である。

総合解説：Aについて：換気回数0.5回/hは、概念上1時間に室容積の半分相当の空気を入れ替える量である。 Bについて：定期的な清掃・フィルター交換は換気・空調設備の基本的維持管理である。

問題 0084 ｜ 難易度：2

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：給気不足
B：空調保守

ア．【給気不足】必要な外気が入りにくくなり、換気量低下や室内負圧の増大等につながる。 ／ 【空調保守】冷暖房能力が必ず向上する。

イ．【給気不足】給水圧が上がる。 ／ 【空調保守】風量・冷暖房効率の低下や消費電力増加につながる。

ウ．【給気不足】換気性能が必ず2倍になる。 ／ 【空調保守】排水管の勾配が改善する。

エ．【給気不足】必要な外気が入りにくくなり、換気量低下や室内負圧の増大等につながる。 ／ 【空調保守】風量・冷暖房効率の低下や消費電力増加につながる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。排気だけでなく給気経路の確保が必要である。 一方Bは不適切。逆である。

イ：Aは不適切。給水とは無関係である。 一方Bは適切。空気抵抗が増え熱交換効率が低下する。

ウ：Aは不適切。逆である。 Bも不適切。排水設備とは無関係である。

エ：Aは適切。排気だけでなく給気経路の確保が必要である。 Bも適切。空気抵抗が増え熱交換効率が低下する。

総合解説：Aについて：結露・臭気等の苦情時には換気扇だけでなく給気口の閉塞も確認する。 Bについて：入居者に定期清掃を案内し、内部汚れや異常時は専門清掃・点検を検討する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0085 ｜ 難易度：2

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：フィルター
B：湿度

ア．【フィルター】風量が低下し、換気性能低下や機器負荷増大の原因となる。 ／ 【湿度】室内湿度が高く、表面温度が露点温度以下になること。

イ．【フィルター】風量が低下し、換気性能低下や機器負荷増大の原因となる。 ／ 【湿度】給水管の水圧が高いことだけ

ウ．【フィルター】換気量が必ず増える。 ／ 【湿度】室内湿度が高く、表面温度が露点温度以下になること。

エ．【フィルター】建物の耐震性が上がる。 ／ 【湿度】分電盤容量が大きいことだけ

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。空気流路の抵抗増加により風量が低下する。 Bも適切。湿った空気が冷たい表面で露点以下になると結露する。

イ：Aは適切。空気流路の抵抗増加により風量が低下する。 一方Bは不適切。直接原因ではない。

ウ：Aは不適切。逆である。 一方Bは適切。湿った空気が冷たい表面で露点以下になると結露する。

エ：Aは不適切。構造とは無関係である。 Bも不適切。無関係である。

総合解説：Aについて：定期的な清掃・フィルター交換は換気・空調設備の基本的維持管理である。 Bについて：換気・除湿・断熱状況・家具配置等を総合的に確認する。

問題 0086 ｜ 難易度：1

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：湿度
B：エアコン漏水

ア．【湿度】室内湿度が高く、表面温度が露点温度以下になること。 ／ 【エアコン漏水】水道メーターの契約番号だけ

イ．【湿度】室内湿度が高く、表面温度が露点温度以下になること。 ／ 【エアコン漏水】ドレンホース・ドレンパンの詰まりや勾配不良、結露水排出経路

ウ．【湿度】給水管の水圧が高いことだけ ／ 【エアコン漏水】ドレンホース・ドレンパンの詰まりや勾配不良、結露水排出経路

エ．【湿度】分電盤容量が大きいことだけ ／ 【エアコン漏水】給湯器の燃焼状態だけ

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。湿った空気が冷たい表面で露点以下になると結露する。 一方Bは不適切。無関係である。

イ：Aは適切。湿った空気が冷たい表面で露点以下になると結露する。 Bも適切。冷房時には空気中の水分が凝縮し、ドレンとして排出される。

ウ：Aは不適切。直接原因ではない。 一方Bは適切。冷房時には空気中の水分が凝縮し、ドレンとして排出される。

エ：Aは不適切。無関係である。 Bも不適切。直接関係しない。

総合解説：Aについて：換気・除湿・断熱状況・家具配置等を総合的に確認する。 Bについて：ドレン詰まりは室内漏水やカビの原因となるため、排水経路を清掃・点検する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0087 ｜ 難易度：1

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：空調保守
B：総合

ア．【空調保守】風量・冷暖房効率の低下や消費電力増加につながる。 ／ 【総合】結露は全て給水管漏れと断定する。

イ．【空調保守】建物の耐震性能が向上する。 ／ 【総合】24時間換気の運転、給気口・換気扇・ダクトの閉塞、フィルター、浴室換気、室内湿度等を確認する。

ウ．【空調保守】風量・冷暖房効率の低下や消費電力増加につながる。 ／ 【総合】24時間換気の運転、給気口・換気扇・ダクトの閉塞、フィルター、浴室換気、室内湿度等を確認する。

エ．【空調保守】冷暖房能力が必ず向上する。 ／ 【総合】24時間換気を停止するよう案内する。

答え・4肢解説 正答：ウ

ア：Aは適切。空気抵抗が増え熱交換効率が低下する。 一方Bは不適切。漏水以外の原因もある。

イ：Aは不適切。構造とは無関係である。 一方Bは適切。複数症状が換気不足・高湿度と関係している可能性がある。

ウ：Aは適切。空気抵抗が増え熱交換効率が低下する。 Bも適切。複数症状が換気不足・高湿度と関係している可能性がある。

エ：Aは不適切。逆である。 Bも不適切。悪化する可能性がある。

総合解説：Aについて：入居者に定期清掃を案内し、内部汚れや異常時は専門清掃・点検を検討する。 Bについて：換気不良は結露・カビ・臭気・空気質悪化へ波及するため、給気から排気まで系統で確認する。

問題 0088 ｜ 難易度：1

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：エアコン漏水
B：冷房不良

ア．【エアコン漏水】ドレンホース・ドレンパンの詰まりや勾配不良、結露水排出経路 ／ 【冷房不良】排水トラップの封水だけ補充する。

イ．【エアコン漏水】給湯器の燃焼状態だけ ／ 【冷房不良】設定温度、フィルター、室外機周辺の通風、吸排気、熱交換器、冷媒系統等を順に確認する。

ウ．【エアコン漏水】外壁耐震壁の配筋だけ ／ 【冷房不良】外壁タイルを全面撤去する。

エ．【エアコン漏水】ドレンホース・ドレンパンの詰まりや勾配不良、結露水排出経路 ／ 【冷房不良】設定温度、フィルター、室外機周辺の通風、吸排気、熱交換器、冷媒系統等を順に確認する。

答え・4肢解説 正答：エ

ア：Aは適切。冷房時には空気中の水分が凝縮し、ドレンとして排出される。 一方Bは不適切。臭気対策である。

イ：Aは不適切。直接関係しない。 一方Bは適切。冷房不良には運転条件・空気流・冷媒系統等の複数原因がある。

ウ：Aは不適切。構造の問題である。 Bも不適切。原因とは通常無関係である。

エ：Aは適切。冷房時には空気中の水分が凝縮し、ドレンとして排出される。 Bも適切。冷房不良には運転条件・空気流・冷媒系統等の複数原因がある。

総合解説：Aについて：ドレン詰まりは室内漏水やカビの原因となるため、排水経路を清掃・点検する。 Bについて：室外機周辺の物品による通風阻害も性能低下の原因となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0089 ｜ 難易度：1

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：冷房不良
B：換気

ア．【冷房不良】設定温度、フィルター、室外機周辺の通風、吸排気、熱交換器、冷媒系統等を順に確認する。 ／ 【換気】室内の汚染物質・臭気・湿気等を排出し、必要な外気を取り入れて室内空気環境を保つ。

イ．【冷房不良】設定温度、フィルター、室外機周辺の通風、吸排気、熱交換器、冷媒系統等を順に確認する。 ／ 【換気】排水管の固形物を除去する。

ウ．【冷房不良】排水トラップの封水だけ補充する。 ／ 【換気】室内の汚染物質・臭気・湿気等を排出し、必要な外気を取り入れて室内空気環境を保つ。

エ．【冷房不良】外壁タイルを全面撤去する。 ／ 【換気】建物の構造耐力を直接増加させる。

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。冷房不良には運転条件・空気流・冷媒系統等の複数原因がある。 Bも適切。換気は室内空気質・湿度管理に重要である。

イ：Aは適切。冷房不良には運転条件・空気流・冷媒系統等の複数原因がある。 一方Bは不適切。排水清掃の機能ではない。

ウ：Aは不適切。臭気対策である。 一方Bは適切。換気は室内空気質・湿度管理に重要である。

エ：Aは不適切。原因とは通常無関係である。 Bも不適切。構造補強ではない。

総合解説：Aについて：室外機周辺の物品による通風阻害も性能低下の原因となる。 Bについて：窓開けだけでなく機械換気設備の維持管理も重要である。

問題 0090 ｜ 難易度：1

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：総合
B：換気回数

ア．【総合】24時間換気の運転、給気口・換気扇・ダクトの閉塞、フィルター、浴室換気、室内湿度等を確認する。 ／ 【換気回数】1時間当たり0回でよい。

イ．【総合】24時間換気の運転、給気口・換気扇・ダクトの閉塞、フィルター、浴室換気、室内湿度等を確認する。 ／ 【換気回数】1時間当たり0.5回以上を基本とする。

ウ．【総合】換気口をさらに塞いで外気を遮断する。 ／ 【換気回数】1時間当たり0.5回以上を基本とする。

エ．【総合】結露は全て給水管漏れと断定する。 ／ 【換気回数】1時間当たり100回が一律義務である。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。複数症状が換気不足・高湿度と関係している可能性がある。 一方Bは不適切。換気設備の目的を満たさない。

イ：Aは適切。複数症状が換気不足・高湿度と関係している可能性がある。 Bも適切。住宅では0.5回/hの24時間換気が基本として示されている。

ウ：Aは不適切。換気量を低下させる。 一方Bは適切。住宅では0.5回/hの24時間換気が基本として示されている。

エ：Aは不適切。漏水以外の原因もある。 Bも不適切。過大で一律の基準ではない。

総合解説：Aについて：換気不良は結露・カビ・臭気・空気質悪化へ波及するため、給気から排気まで系統で確認する。 Bについて：換気回数0.5回/hは、概念上1時間に室容積の半分相当の空気を入れ替える量である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0091 ｜ 難易度：1

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：点検周期
B：報告

ア．【点検周期】機器点検は6か月ごと、総合点検は1年ごと ／ 【報告】異常があっても報告書には正常と記載する。

イ．【点検周期】機器点検は5年ごと、総合点検は10年ごと ／ 【報告】点検結果を所定の様式で記録し、対象となる防火対象物では法令に従って消防長又は消防署長等へ報告する。

ウ．【点検周期】機器点検は6か月ごと、総合点検は1年ごと ／ 【報告】点検結果を所定の様式で記録し、対象となる防火対象物では法令に従って消防長又は消防署長等へ報告する。

エ．【点検周期】機器点検・総合点検とも毎月必須 ／ 【報告】点検結果は管理会社内だけで永久に非公開とする。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。消防庁告示では、多くの消防用設備等について機器点検6月、総合点検1年を基本としている。 一方Bは不適切。事実と異なる報告は不適切である。

イ：Aは不適切。法定周期とかけ離れている。 一方Bは適切。消防法に基づき点検結果の記録・報告が求められる。

ウ：Aは適切。消防庁告示では、多くの消防用設備等について機器点検6月、総合点検1年を基本としている。 Bも適切。消防法に基づき点検結果の記録・報告が求められる。

エ：Aは不適切。すべて毎月ではない。 Bも不適切。対象建物では行政への報告が必要である。

総合解説：Aについて：消防用設備の『点検周期』と『消防署等への報告周期』は別の概念なので区別する。 Bについて：点検結果に不備があれば、報告だけで終わらせず是正計画まで管理する。

問題 0092 ｜ 難易度：2

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：報告
B：感知器

ア．【報告】点検結果を所定の様式で記録し、対象となる防火対象物では法令に従って消防長又は消防署長等へ報告する。 ／ 【感知器】地震後に建物を自動補強する。

イ．【報告】異常があっても報告書には正常と記載する。 ／ 【感知器】感知器等で火災を早期に検知し、受信機や音響装置を通じて建物内へ警報する。

ウ．【報告】点検結果は管理会社内だけで永久に非公開とする。 ／ 【感知器】給水圧を監視する。

エ．【報告】点検結果を所定の様式で記録し、対象となる防火対象物では法令に従って消防長又は消防署長等へ報告する。 ／ 【感知器】感知器等で火災を早期に検知し、受信機や音響装置を通じて建物内へ警報する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。消防法に基づき点検結果の記録・報告が求められる。 一方Bは不適切。構造補強設備ではない。

イ：Aは不適切。事実と異なる報告は不適切である。 一方Bは適切。火災の早期発見・警報を目的とする消防用設備である。

ウ：Aは不適切。対象建物では行政への報告が必要である。 Bも不適切。給水設備の機能である。

エ：Aは適切。消防法に基づき点検結果の記録・報告が求められる。 Bも適切。火災の早期発見・警報を目的とする消防用設備である。

総合解説：Aについて：点検結果に不備があれば、報告だけで終わらせず是正計画まで管理する。 Bについて：感知器を塗装で覆ったり、受信機の警報を無断停止したりすると機能を損なう。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0093 ｜ 難易度：2

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：消火器
B：防火設備

ア．【消火器】設置位置を分かりやすくし、腐食・変形・安全栓・表示等を点検し、容易に使用できる状態を保つ。／【防火設備】火災時に所定の方法で閉鎖できるよう、閉鎖障害物や作動不良がないことを確認する。

イ．【消火器】設置位置を分かりやすくし、腐食・変形・安全栓・表示等を点検し、容易に使用できる状態を保つ。／【防火設備】常時ストッパーで固定して閉じないようにする。

ウ．【消火器】避難通路を塞ぐ位置に固定する。／【防火設備】火災時に所定の方法で閉鎖できるよう、閉鎖障害物や作動不良がないことを確認する。

エ．【消火器】収納庫の奥へ隠して所在を分からなくする。／【防火設備】前に家具を置いて動かないようにする。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。消火器は火災初期に速やかに使用できる状態で維持する必要がある。 Bも適切。防火戸は火煙の拡大を抑えるため閉鎖機能を確保する必要がある。

イ：Aは適切。消火器は火災初期に速やかに使用できる状態で維持する必要がある。 一方Bは不適切。防火区画機能を失う。

ウ：Aは不適切。避難障害となる。 一方Bは適切。防火戸は火煙の拡大を抑えるため閉鎖機能を確保する必要がある。

エ：Aは不適切。発見・使用が遅れる。 Bも不適切。閉鎖障害となる。

総合解説：Aについて：点検では設置本数だけでなく、外観・標識・アクセス性も確認する。 Bについて：防火設備は建築基準法上の定期検査対象となる場合もある。

問題 0094 ｜ 難易度：1

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：感知器
B：避難

ア．【感知器】感知器等で火災を早期に検知し、受信機や音響装置を通じて建物内へ警報する。／【避難】避難器具の前を施錠して誰も使えないようにする。

イ．【感知器】感知器等で火災を早期に検知し、受信機や音響装置を通じて建物内へ警報する。／【避難】避難の妨げとなる物品を置かず、避難器具を必要時に使用できる状態に保つ。

ウ．【感知器】給水圧を監視する。／【避難】避難の妨げとなる物品を置かず、避難器具を必要時に使用できる状態に保つ。

エ．【感知器】排水管の詰まりを除去する。／【避難】避難経路の幅は荷物で狭くなっても問題ない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。火災の早期発見・警報を目的とする消防用設備である。 一方Bは不適切。緊急時に使用できない。

イ：Aは適切。火災の早期発見・警報を目的とする消防用設備である。 Bも適切。避難経路と避難器具の機能確保は火災時の人命安全に直結する。

ウ：Aは不適切。給水設備の機能である。 一方Bは適切。避難経路と避難器具の機能確保は火災時の人命安全に直結する。

エ：Aは不適切。排水設備の機能である。 Bも不適切。避難安全を損なう。

総合解説：Aについて：感知器を塗装で覆ったり、受信機の警報を無断停止したりすると機能を損なう。 Bについて：日常巡回でも共用部の物品放置・避難口閉塞を確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0095 ｜ 難易度：2

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：避難
B：誘導灯

ア．【避難】避難の妨げとなる物品を置かず、避難器具を必要時に使用できる状態に保つ。 ／ 【誘導灯】避難方向と逆を指しても問題ない。

イ．【避難】避難器具の前を施錠して誰も使えないようにする。 ／ 【誘導灯】表示面の視認性、点灯状態、非常電源等を点検し、避難方向を明確に示せる状態を保つ。

ウ．【避難】避難の妨げとなる物品を置かず、避難器具を必要時に使用できる状態に保つ。 ／ 【誘導灯】表示面の視認性、点灯状態、非常電源等を点検し、避難方向を明確に示せる状態を保つ。

エ．【避難】避難経路の幅は荷物で狭くなっても問題ない。 ／ 【誘導灯】家具で完全に隠してよい。

答え・4肢解説 正答：ウ

ア：Aは適切。避難経路と避難器具の機能確保は火災時の人命安全に直結する。 一方Bは不適切。誤避難につながる。

イ：Aは不適切。緊急時に使用できない。 一方Bは適切。誘導灯は停電を含む火災時に避難を案内する設備である。

ウ：Aは適切。避難経路と避難器具の機能確保は火災時の人命安全に直結する。 Bも適切。誘導灯は停電を含む火災時に避難を案内する設備である。

エ：Aは不適切。避難安全を損なう。 Bも不適切。視認できなくなる。

総合解説：Aについて：日常巡回でも共用部の物品放置・避難口閉塞を確認する。 Bについて：改装や什器配置変更後は誘導灯が見えにくくなっていないか確認する。

問題 0096 ｜ 難易度：2

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：防火設備
B：是正

ア．【防火設備】火災時に所定の方法で閉鎖できるよう、閉鎖障害物や作動不良がないことを確認する。 ／ 【是正】点検報告書だけ提出し修理しない。

イ．【防火設備】閉鎖機能は火災安全と無関係である。 ／ 【是正】不良箇所を記録し、必要な安全措置を講じた上で速やかに修理し、是正結果を管理する。

ウ．【防火設備】常時ストッパーで固定して閉じないようにする。 ／ 【是正】感知器を撤去して設備数を減らす。

エ．【防火設備】火災時に所定の方法で閉鎖できるよう、閉鎖障害物や作動不良がないことを確認する。 ／ 【是正】不良箇所を記録し、必要な安全措置を講じた上で速やかに修理し、是正結果を管理する。

答え・4肢解説 正答：エ

ア：Aは適切。防火戸は火煙の拡大を抑えるため閉鎖機能を確保する必要がある。 一方Bは不適切。不具合が残る。

イ：Aは不適切。火災拡大防止に重要である。 一方Bは適切。点検の目的は不具合の発見と適切な是正にある。

ウ：Aは不適切。防火区画機能を失う。 Bも不適切。法令上必要な設備を勝手に減らせない。

エ：Aは適切。防火戸は火煙の拡大を抑えるため閉鎖機能を確保する必要がある。 Bも適切。点検の目的は不具合の発見と適切な是正にある。

総合解説：Aについて：防火設備は建築基準法上の定期検査対象となる場合もある。 Bについて：重大不良は通常の修繕スケジュールより優先して是正する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0097 ｜ 難易度：2

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：誘導灯
B：非常電源

ア．【誘導灯】表示面の視認性、点灯状態、非常電源等を点検し、避難方向を明確に示せる状態を保つ。 ／ 【非常電源】停電時でも必要な消防用設備を一定時間作動させるため

イ．【誘導灯】表示面の視認性、点灯状態、非常電源等を点検し、避難方向を明確に示せる状態を保つ。 ／ 【非常電源】排水管の臭気を止めるため

ウ．【誘導灯】家具で完全に隠してよい。 ／ 【非常電源】停電時でも必要な消防用設備を一定時間作動させるため

エ．【誘導灯】点灯しなくても昼間なら永久に放置してよい。 ／ 【非常電源】外壁のひび割れを補修するため

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。誘導灯は停電を含む火災時に避難を案内する設備である。 Bも適切。火災時には停電を伴う可能性があるため非常電源が重要となる。

イ：Aは適切。誘導灯は停電を含む火災時に避難を案内する設備である。 一方Bは不適切。排水設備の問題である。

ウ：Aは不適切。視認できなくなる。 一方Bは適切。火災時には停電を伴う可能性があるため非常電源が重要となる。

エ：Aは不適切。非常時に機能しない。 Bも不適切。建築仕上げの問題である。

総合解説：Aについて：改装や什器配置変更後は誘導灯が見えにくくなっていないか確認する。 Bについて：蓄電池等は経年劣化するため、外観・容量・作動状態の確認が必要である。

問題 0098 ｜ 難易度：2

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：非常電源
B：制度比較

ア．【非常電源】停電時でも必要な消防用設備を一定時間作動させるため ／ 【制度比較】防火戸は消防用設備の一種としてのみ扱われる。

イ．【非常電源】停電時でも必要な消防用設備を一定時間作動させるため ／ 【制度比較】前者は主に消防法上の消防用設備等点検、後者は対象に応じて建築基準法上の防火設備定期検査として扱われる。

ウ．【非常電源】排水管の臭気を止めるため ／ 【制度比較】前者は主に消防法上の消防用設備等点検、後者は対象に応じて建築基準法上の防火設備定期検査として扱われる。

エ．【非常電源】外壁のひび割れを補修するため ／ 【制度比較】両方とも水道法だけで規制される。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。火災時には停電を伴う可能性があるため非常電源が重要となる。 一方Bは不適切。防火設備定期検査という制度がある。

イ：Aは適切。火災時には停電を伴う可能性があるため非常電源が重要となる。 Bも適切。消防法と建築基準法には別々の安全点検制度がある。

ウ：Aは不適切。排水設備の問題である。 一方Bは適切。消防法と建築基準法には別々の安全点検制度がある。

エ：Aは不適切。建築仕上げの問題である。 Bも不適切。法律が異なる。

総合解説：Aについて：蓄電池等は経年劣化するため、外観・容量・作動状態の確認が必要である。 Bについて：同じ『防火』分野でも根拠法・資格者・報告先を区別する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0099 ｜ 難易度：3

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：是正
B：総合

ア．【是正】不良箇所を記録し、必要な安全措置を講じた上で速やかに修理し、是正結果を管理する。／【総合】消防設備と防火設備を一括して根拠法を確認しない。

イ．【是正】入居者へ知らせず警報機能を停止する。／【総合】設備台帳で種類・設置位置・点検時期・不良履歴を管理し、消防法と建築基準法の対象を区分して点検・是正する。

ウ．【是正】不良箇所を記録し、必要な安全措置を講じた上で速やかに修理し、是正結果を管理する。／【総合】設備台帳で種類・設置位置・点検時期・不良履歴を管理し、消防法と建築基準法の対象を区分して点検・是正する。

エ．【是正】点検報告書だけ提出し修理しない。／【総合】点検時期を担当者の記憶だけで管理する。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。点検の目的は不具合の発見と適切な是正にある。 一方Bは不適切。法定義務を誤る可能性がある。

イ：Aは不適切。安全性を低下させる。 一方Bは適切。複数制度をまたぐため設備台帳と期限管理が重要である。

ウ：Aは適切。点検の目的は不具合の発見と適切な是正にある。 Bも適切。複数制度をまたぐため設備台帳と期限管理が重要である。

エ：Aは不適切。不具合が残る。 Bも不適切。点検漏れが起きやすい。

総合解説：Aについて：重大不良は通常の修繕スケジュールより優先して是正する。 Bについて：設備ごとの法定点検、自主点検、修繕履歴を一元管理すると維持保全の精度が高まる。

問題 0100 ｜ 難易度：3

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：制度比較
B：火災対応

ア．【制度比較】前者は主に消防法上の消防用設備等点検、後者は対象に応じて建築基準法上の防火設備定期検査として扱われる。／【火災対応】火災が小さく見えれば消防への通報を遅らせる。

イ．【制度比較】両方とも水道法だけで規制される。／【火災対応】人命安全と119番通報・避難誘導を最優先し、安全が確保できる範囲で初期消火等を行う。

ウ．【制度比較】両方とも法定点検制度はない。／【火災対応】煙が充満していても単独で室内へ進入する。

エ．【制度比較】前者は主に消防法上の消防用設備等点検、後者は対象に応じて建築基準法上の防火設備定期検査として扱われる。／【火災対応】人命安全と119番通報・避難誘導を最優先し、安全が確保できる範囲で初期消火等を行う。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。消防法と建築基準法には別々の安全点検制度がある。 一方Bは不適切。火災拡大のおそれがある。

イ：Aは不適切。法律が異なる。 一方Bは適切。火災時は人命安全が最優先である。

ウ：Aは不適切。法定制度がある。 Bも不適切。二次災害の危険がある。

エ：Aは適切。消防法と建築基準法には別々の安全点検制度がある。 Bも適切。火災時は人命安全が最優先である。

総合解説：Aについて：同じ『防火』分野でも根拠法・資格者・報告先を区別する。 Bについて：管理マニュアルでは通報・避難・初期消火・消防隊への情報提供を整理しておく。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0101 ｜ 難易度：3

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：火災対応
B：点検周期

ア．【火災対応】人命安全と119番通報・避難誘導を最優先し、安全が確保できる範囲で初期消火等を行う。 ／ 【点検周期】機器点検は6か月ごと、総合点検は1年ごと

イ．【火災対応】人命安全と119番通報・避難誘導を最優先し、安全が確保できる範囲で初期消火等を行う。 ／ 【点検周期】消防用設備には定期点検制度がない

ウ．【火災対応】火災が小さく見えれば消防への通報を遅らせる。 ／ 【点検周期】機器点検は6か月ごと、総合点検は1年ごと

エ．【火災対応】煙が充満していても単独で室内へ進入する。 ／ 【点検周期】機器点検は5年ごと、総合点検は10年ごと

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。火災時は人命安全が最優先である。 Bも適切。消防庁告示では、多くの消防用設備等について機器点検6月、総合点検1年を基本としている。

イ：Aは適切。火災時は人命安全が最優先である。 一方Bは不適切。消防法に基づく点検制度がある。

ウ：Aは不適切。火災拡大のおそれがある。 一方Bは適切。消防庁告示では、多くの消防用設備等について機器点検6月、総合点検1年を基本としている。

エ：Aは不適切。二次災害の危険がある。 Bも不適切。法定周期とかけ離れている。

総合解説：Aについて：管理マニュアルでは通報・避難・初期消火・消防隊への情報提供を整理しておく。 Bについて：消防用設備の『点検周期』と『消防署等への報告周期』は別の概念なので区別する。

問題 0102 ｜ 難易度：3

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：総合
B：消火器

ア．【総合】設備台帳で種類・設置位置・点検時期・不良履歴を管理し、消防法と建築基準法の対象を区分して点検・是正する。 ／ 【消火器】収納庫の奥へ隠して所在を分からなくする。

イ．【総合】設備台帳で種類・設置位置・点検時期・不良履歴を管理し、消防法と建築基準法の対象を区分して点検・是正する。 ／ 【消火器】設置位置を分かりやすくし、腐食・変形・安全栓・表示等を点検し、容易に使用できる状態を保つ。

ウ．【総合】不良履歴は修理のたびに削除する。 ／ 【消火器】設置位置を分かりやすくし、腐食・変形・安全栓・表示等を点検し、容易に使用できる状態を保つ。

エ．【総合】消防設備と防火設備を一括して根拠法を確認しない。 ／ 【消火器】本体に著しい腐食があっても放置する。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。複数制度をまたぐため設備台帳と期限管理が重要である。 一方Bは不適切。発見・使用が遅れる。

イ：Aは適切。複数制度をまたぐため設備台帳と期限管理が重要である。 Bも適切。消火器は火災初期に速やかに使用できる状態で維持する必要がある。

ウ：Aは不適切。再発分析ができない。 一方Bは適切。消火器は火災初期に速やかに使用できる状態で維持する必要がある。

エ：Aは不適切。法定義務を誤る可能性がある。 Bも不適切。破裂等の危険もある。

総合解説：Aについて：設備ごとの法定点検、自主点検、修繕履歴を一元管理すると維持保全の精度が高まる。 Bについて：点検では設置本数だけでなく、外観・標識・アクセス性も確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0103 ｜ 難易度：1

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：保守
B：建築基準法12条

ア．【保守】常時安全な状態を保つため、適切な保守点検と法定の定期検査を実施する。 ／ 【建築基準法12条】検査結果は国税庁へ報告する。

イ．【保守】故障するまで一切点検しない。 ／ 【建築基準法12条】対象となる昇降機は、資格者による定期検査を受け、その結果を特定行政庁へ報告する。

ウ．【保守】常時安全な状態を保つため、適切な保守点検と法定の定期検査を実施する。 ／ 【建築基準法12条】対象となる昇降機は、資格者による定期検査を受け、その結果を特定行政庁へ報告する。

エ．【保守】保守会社へ委託すれば所有者・管理者は状態を確認しなくてよい。 ／ 【建築基準法12条】エレベーターは定期報告制度の対象外である。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。国土交通省は昇降機の安全確保に適切な維持管理を求めている。 一方Bは不適切。報告先が異なる。

イ：Aは不適切。予防保全が必要である。 一方Bは適切。エレベーター等は国が一律に定期報告対象とする昇降機に含まれる。

ウ：Aは適切。国土交通省は昇降機の安全確保に適切な維持管理を求めている。 Bも適切。エレベーター等は国が一律に定期報告対象とする昇降機に含まれる。

エ：Aは不適切。委託後も管理責任は残る。 Bも不適切。対象である。

総合解説：Aについて：保守契約内容、点検結果、不具合是正を管理側でも確認する。 Bについて：保守点検と法定定期検査は目的・位置付けが異なるので両方を管理する。

問題 0104 ｜ 難易度：2

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：建築基準法12条
B：閉じ込め

ア．【建築基準法12条】対象となる昇降機は、資格者による定期検査を受け、その結果を特定行政庁へ報告する。 ／ 【閉じ込め】復旧するまで連絡を取らず放置する。

イ．【建築基準法12条】検査結果は国税庁へ報告する。 ／ 【閉じ込め】インターホン等で利用者の安全を確認し、保守会社・救助機関へ連絡し、訓練を受けていない者が無理に救出しない。

ウ．【建築基準法12条】エレベーターは定期報告制度の対象外である。 ／ 【閉じ込め】管理担当者が工具で扉をこじ開けて救出する。

エ．【建築基準法12条】対象となる昇降機は、資格者による定期検査を受け、その結果を特定行政庁へ報告する。 ／ 【閉じ込め】インターホン等で利用者の安全を確認し、保守会社・救助機関へ連絡し、訓練を受けていない者が無理に救出しない。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。エレベーター等は国が一律に定期報告対象とする昇降機に含まれる。 一方Bは不適切。不安・健康悪化につながる。

イ：Aは不適切。報告先が異なる。 一方Bは適切。不適切な救出は転落等の重大事故につながる。

ウ：Aは不適切。対象である。 Bも不適切。専門知識なしの開扉は危険である。

エ：Aは適切。エレベーター等は国が一律に定期報告対象とする昇降機に含まれる。 Bも適切。不適切な救出は転落等の重大事故につながる。

総合解説：Aについて：保守点検と法定定期検査は目的・位置付けが異なるので両方を管理する。 Bについて：閉じ込め対応では連絡手段・保守会社の緊急連絡先を常に最新に保つ。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0105 ｜ 難易度：2

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：日常監視
B：扉安全

ア．【日常監視】異常音・振動、着床段差、扉の開閉異常、操作ボタンやインターホンの不具合 ／ 【扉安全】かごと乗場の位置がずれた状態で扉が開き、人が挟まれたり転落したりする危険があるため

イ．【日常監視】異常音・振動、着床段差、扉の開閉異常、操作ボタンやインターホンの不具合 ／ 【扉安全】給水圧が低下するため

ウ．【日常監視】給水栓の水圧だけ ／ 【扉安全】かごと乗場の位置がずれた状態で扉が開き、人が挟まれたり転落したりする危険があるため

エ．【日常監視】壁紙の色あせだけ ／ 【扉安全】排水管が詰まるため

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。利用時の異常は故障・事故の前兆となることがある。 Bも適切。戸開走行は挟まれ・転落につながる重大事故要因である。

イ：Aは適切。利用時の異常は故障・事故の前兆となることがある。 一方Bは不適切。給水設備とは無関係である。

ウ：Aは不適切。給水設備の問題である。 一方Bは適切。戸開走行は挟まれ・転落につながる重大事故要因である。

エ：Aは不適切。昇降機性能とは直接関係しない。 Bも不適切。排水設備とは無関係である。

総合解説：Aについて：入居者からの違和感情報も保守会社へ正確に伝える。 Bについて：扉や制御系の異常は直ちに使用停止を含めた安全措置を検討する。

問題 0106 ｜ 難易度：3

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：閉じ込め
B：地震

ア．【閉じ込め】インターホン等で利用者の安全を確認し、保守会社・救助機関へ連絡し、訓練を受けていない者が無理に救出しない。 ／ 【地震】異常音があっても利用者を乗せて試運転する。

イ．【閉じ込め】インターホン等で利用者の安全を確認し、保守会社・救助機関へ連絡し、訓練を受けていない者が無理に救出しない。 ／ 【地震】安全確認・保守点検が必要な場合は無理に再稼働させず、保守会社の確認を受ける。

ウ．【閉じ込め】管理担当者が工具で扉をこじ開けて救出する。 ／ 【地震】安全確認・保守点検が必要な場合は無理に再稼働させず、保守会社の確認を受ける。

エ．【閉じ込め】利用者に自力で天井から脱出するよう指示する。 ／ 【地震】地震後は点検不要と決めつける。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。不適切な救出は転落等の重大事故につながる。 一方Bは不適切。危険である。

イ：Aは適切。不適切な救出は転落等の重大事故につながる。 Bも適切。地震時管制運転等で停止している可能性があり、再稼働は安全確認が必要である。

ウ：Aは不適切。専門知識なしの開扉は危険である。 一方Bは適切。地震時管制運転等で停止している可能性があり、再稼働は安全確認が必要である。

エ：Aは不適切。危険である。 Bも不適切。損傷がある可能性がある。

総合解説：Aについて：閉じ込め対応では連絡手段・保守会社の緊急連絡先を常に最新に保つ。 Bについて：地震後は閉じ込めの有無と建物側の停電・損傷も併せて確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0107 ｜ 難易度：2

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：地震
B：POG・FM

ア．【地震】安全確認・保守点検が必要な場合は無理に再稼働させず、保守会社の確認を受ける。 ／ 【POG・FM】保守契約があれば老朽化更新は不要になる。

イ．【地震】異常音があっても利用者を乗せて試運転する。 ／ 【POG・FM】契約方式により部品交換費用等の範囲が異なるため、点検内容・部品費・緊急対応等の契約条件を確認する。

ウ．【地震】安全確認・保守点検が必要な場合は無理に再稼働させず、保守会社の確認を受ける。 ／ 【POG・FM】契約方式により部品交換費用等の範囲が異なるため、点検内容・部品費・緊急対応等の契約条件を確認する。

エ．【地震】地震後は点検不要と決めつける。 ／ 【POG・FM】保守契約は名称が違っても費用範囲は全て同じである。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。地震時管制運転等で停止している可能性があり、再稼働は安全確認が必要である。 一方Bは不適切。設備更新が必要になる場合がある。

イ：Aは不適切。危険である。 一方Bは適切。保守契約には契約範囲の違いがあるため、内容確認が必要である。

ウ：Aは適切。地震時管制運転等で停止している可能性があり、再稼働は安全確認が必要である。 Bも適切。保守契約には契約範囲の違いがあるため、内容確認が必要である。

エ：Aは不適切。損傷がある可能性がある。 Bも不適切。費用負担が異なり得る。

総合解説：Aについて：地震後は閉じ込めの有無と建物側の停電・損傷も併せて確認する。 Bについて：修繕計画では保守費と将来の主要部品更新費を分けて見込む。

問題 0108 ｜ 難易度：2

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：扉安全
B：履歴管理

ア．【扉安全】かごと乗場の位置がずれた状態で扉が開き、人が挟まれたり転落したりする危険があるため ／ 【履歴管理】故障履歴は次の点検には無関係なので毎回削除する。

イ．【扉安全】外壁が汚れるため ／ 【履歴管理】同一部品の故障頻度や停止時間を分析し、更新時期・修繕計画の判断材料にできる。

ウ．【扉安全】給水圧が低下するため ／ 【履歴管理】履歴が多いほど安全性が自動的に高まる。

エ．【扉安全】かごと乗場の位置がずれた状態で扉が開き、人が挟まれたり転落したりする危険があるため ／ 【履歴管理】同一部品の故障頻度や停止時間を分析し、更新時期・修繕計画の判断材料にできる。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。戸開走行は挟まれ・転落につながる重大事故要因である。 一方Bは不適切。再発分析ができなくなる。

イ：Aは不適切。美観の問題ではない。 一方Bは適切。履歴は予防保全と更新判断に役立つ。

ウ：Aは不適切。給水設備とは無関係である。 Bも不適切。記録だけで安全性は向上しない。

エ：Aは適切。戸開走行は挟まれ・転落につながる重大事故要因である。 Bも適切。履歴は予防保全と更新判断に役立つ。

総合解説：Aについて：扉や制御系の異常は直ちに使用停止を含めた安全措置を検討する。 Bについて：設備台帳に故障内容、交換部品、停止時間、費用を記録する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0109 ｜ 難易度：3

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：POG・FM
B：安全停止

ア．【POG・FM】契約方式により部品交換費用等の範囲が異なるため、点検内容・部品費・緊急対応等の契約条件を確認する。 ／ 【安全停止】着床異常として使用停止を含む安全措置をとり、保守会社に原因調査を依頼する。

イ．【POG・FM】契約方式により部品交換費用等の範囲が異なるため、点検内容・部品費・緊急対応等の契約条件を確認する。 ／ 【安全停止】段差をマットで隠して使用する。

ウ．【POG・FM】保守契約は名称が違っても費用範囲は全て同じである。 ／ 【安全停止】着床異常として使用停止を含む安全措置をとり、保守会社に原因調査を依頼する。

エ．【POG・FM】月額料金だけ確認すれば点検品質は確認不要である。 ／ 【安全停止】扉を開放したまま運転する。

答え・4肢解説　正答：ア

ア：Aは適切。保守契約には契約範囲の違いがあるため、内容確認が必要である。 Bも適切。着床段差は転倒・挟まれ等の危険につながる。

イ：Aは適切。保守契約には契約範囲の違いがあるため、内容確認が必要である。 一方Bは不適切。根本原因を隠すだけである。

ウ：Aは不適切。費用負担が異なり得る。 一方Bは適切。着床段差は転倒・挟まれ等の危険につながる。

エ：Aは不適切。品質・対応内容も重要である。 Bも不適切。非常に危険である。

総合解説：Aについて：修繕計画では保守費と将来の主要部品更新費を分けて見込む。 Bについて：昇降機では異常が再現しない場合もあるため、日時・階・症状を記録して保守へ伝える。

問題 0110 ｜ 難易度：3

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：安全停止
B：総合

ア．【安全停止】着床異常として使用停止を含む安全措置をとり、保守会社に原因調査を依頼する。 ／ 【総合】部品供給終了後も必ず同じ設備を使い続ける。

イ．【安全停止】着床異常として使用停止を含む安全措置をとり、保守会社に原因調査を依頼する。 ／ 【総合】法定検査・保守点検結果・故障履歴・部品供給状況・更新費用を総合し、中長期の更新計画を検討する。

ウ．【安全停止】段差をマットで隠して使用する。 ／ 【総合】法定検査・保守点検結果・故障履歴・部品供給状況・更新費用を総合し、中長期の更新計画を検討する。

エ．【安全停止】扉を開放したまま運転する。 ／ 【総合】故障のたびに応急修理だけ行い将来計画を持たない。

答え・4肢解説　正答：イ

ア：Aは適切。着床段差は転倒・挟まれ等の危険につながる。 一方Bは不適切。維持不能となる可能性がある。

イ：Aは適切。着床段差は転倒・挟まれ等の危険につながる。 Bも適切。老朽設備は安全性と保守性を含め計画更新する必要がある。

ウ：Aは不適切。根本原因を隠すだけである。 一方Bは適切。老朽設備は安全性と保守性を含め計画更新する必要がある。

エ：Aは不適切。非常に危険である。 Bも不適切。突発停止・高額修理が増える。

総合解説：Aについて：昇降機では異常が再現しない場合もあるため、日時・階・症状を記録して保守へ伝える。 Bについて：昇降機は建物の長期修繕計画に組み込むべき主要設備の一つである。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0111 ｜ 難易度：2

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：履歴管理
B：建築基準法12条

ア．【履歴管理】同一部品の故障頻度や停止時間を分析し、更新時期・修繕計画の判断材料にできる。／【建築基準法12条】入居者が自己判断で検査して終わる制度である。

イ．【履歴管理】故障履歴は入居者の賃料を決めるだけの資料である。／【建築基準法12条】対象となる昇降機は、資格者による定期検査を受け、その結果を特定行政庁へ報告する。

ウ．【履歴管理】同一部品の故障頻度や停止時間を分析し、更新時期・修繕計画の判断材料にできる。／【建築基準法12条】対象となる昇降機は、資格者による定期検査を受け、その結果を特定行政庁へ報告する。

エ．【履歴管理】故障履歴は次の点検には無関係なので毎回削除する。／【建築基準法12条】検査結果は国税庁へ報告する。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。履歴は予防保全と更新判断に役立つ。 一方Bは不適切。資格者による検査が必要である。

イ：Aは不適切。賃料決定だけの資料ではない。 一方Bは適切。エレベーター等は国が一律に定期報告対象とする昇降機に含まれる。

ウ：Aは適切。履歴は予防保全と更新判断に役立つ。 Bも適切。エレベーター等は国が一律に定期報告対象とする昇降機に含まれる。

エ：Aは不適切。再発分析ができなくなる。 Bも不適切。報告先が異なる。

総合解説：Aについて：設備台帳に故障内容、交換部品、停止時間、費用を記録する。 Bについて：保守点検と法定定期検査は目的・位置付けが異なるので両方を管理する。

問題 0112 ｜ 難易度：3

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：総合
B：保守

ア．【総合】法定検査・保守点検結果・故障履歴・部品供給状況・更新費用を総合し、中長期の更新計画を検討する。／【保守】保守会社へ委託すれば所有者・管理者は状態を確認しなくてよい。

イ．【総合】故障のたびに応急修理だけ行い将来計画を持たない。／【保守】常時安全な状態を保つため、適切な保守点検と法定の定期検査を実施する。

ウ．【総合】点検結果に異常があっても賃料収入があれば放置する。／【保守】昇降機には維持管理基準がない。

エ．【総合】法定検査・保守点検結果・故障履歴・部品供給状況・更新費用を総合し、中長期の更新計画を検討する。／【保守】常時安全な状態を保つため、適切な保守点検と法定の定期検査を実施する。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。老朽設備は安全性と保守性を含め計画更新する必要がある。 一方Bは不適切。委託後も管理責任は残る。

イ：Aは不適切。突発停止・高額修理が増える。 一方Bは適切。国土交通省は昇降機の安全確保に適切な維持管理を求めている。

ウ：Aは不適切。安全が優先される。 Bも不適切。法令・指針がある。

エ：Aは適切。老朽設備は安全性と保守性を含め計画更新する必要がある。 Bも適切。国土交通省は昇降機の安全確保に適切な維持管理を求めている。

総合解説：Aについて：昇降機は建物の長期修繕計画に組み込むべき主要設備の一つである。 Bについて：保守契約内容、点検結果、不具合是正を管理側でも確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0113 ｜ 難易度：1

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：人員確認
B：非常停止

ア．【人員確認】装置内や周囲に人・物が残っていないことを自ら確認してから操作する。 ／ 【非常停止】人や物の巻込み等の危険を認めたとき、装置の動作を速やかに停止させる。

イ．【人員確認】装置内や周囲に人・物が残っていないことを自ら確認してから操作する。 ／ 【非常停止】車両重量を自動的に減らす。

ウ．【人員確認】子どもが装置内にいてもゆっくり動かせばよい。 ／ 【非常停止】人や物の巻込み等の危険を認めたとき、装置の動作を速やかに停止させる。

エ．【人員確認】車両扉が開いたままでも作動させる。 ／ 【非常停止】通常運転の速度を上げる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。国交省ガイドラインはセンサー任せにせず人がいないことを確認するよう求めている。 Bも適切。緊急時に機械動作を停止する安全装置である。

イ：Aは適切。国交省ガイドラインはセンサー任せにせず人がいないことを確認するよう求めている。 一方Bは不適切。物理的にできない。

ウ：Aは不適切。重大事故につながる。 一方Bは適切。緊急時に機械動作を停止する安全装置である。

エ：Aは不適切。接触・挟まれの危険がある。 Bも不適切。安全機能と逆である。

総合解説：Aについて：操作盤から死角がある場合は特に確実な確認が必要である。 Bについて：利用者が非常停止ボタンの位置と使用方法を知っていることが重要である。

問題 0114 ｜ 難易度：2

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：立入禁止
B：保守

ア．【立入禁止】装置を作動させる前に安全な場所へ退避させ、装置内へ立ち入らせない。 ／ 【保守】異音がしても停止するまで使い続ける。

イ．【立入禁止】装置を作動させる前に安全な場所へ退避させ、装置内へ立ち入らせない。 ／ 【保守】メーカー等の基準に基づく定期保守を行い、安全装置・駆動部・チェーン等の状態を確認する。

ウ．【立入禁止】安全柵の中に入れて待たせる。 ／ 【保守】メーカー等の基準に基づく定期保守を行い、安全装置・駆動部・チェーン等の状態を確認する。

エ．【立入禁止】車内に幼児を残したまま装置を動かす。 ／ 【保守】安全装置を作動しないよう固定する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。機械式駐車場では子どもの巻込み・挟まれ事故防止が重要である。 一方Bは不適切。重大事故につながる。

イ：Aは適切。機械式駐車場では子どもの巻込み・挟まれ事故防止が重要である。 Bも適切。機械式装置は経年摩耗・故障を前提に予防保全が必要である。

ウ：Aは不適切。危険区域である。 一方Bは適切。機械式装置は経年摩耗・故障を前提に予防保全が必要である。

エ：Aは不適切。閉じ込め等の危険がある。 Bも不適切。危険である。

総合解説：Aについて：管理者は利用者へ具体的な安全ルールを周知する。 Bについて：点検指摘事項は優先度を付けて是正し、次回点検まで放置しない。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0115 ｜ 難易度：2

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：非常停止
B：視認性

ア．【非常停止】人や物の巻込み等の危険を認めたとき、装置の動作を速やかに停止させる。 ／ 【視認性】駐車装置の重量を減らすため

イ．【非常停止】通常運転の速度を上げる。 ／ 【視認性】装置内に人や障害物が残っていないか確認できる視認性を確保するため

ウ．【非常停止】人や物の巻込み等の危険を認めたとき、装置の動作を速やかに停止させる。 ／ 【視認性】装置内に人や障害物が残っていないか確認できる視認性を確保するため

エ．【非常停止】利用料金を計算する。 ／ 【視認性】給水管の凍結を防ぐため

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。緊急時に機械動作を停止する安全装置である。 一方Bは不適切。無関係である。

イ：Aは不適切。安全機能と逆である。 一方Bは適切。国交省ガイドラインは夜間や屋内・地下設置で視認性確保の照明を求めている。

ウ：Aは適切。緊急時に機械動作を停止する安全装置である。 Bも適切。国交省ガイドラインは夜間や屋内・地下設置で視認性確保の照明を求めている。

エ：Aは不適切。会計機能ではない。 Bも不適切。給水設備の話である。

総合解説：Aについて：利用者が非常停止ボタンの位置と使用方法を知っていることが重要である。 Bについて：照明切れは単なる利便性低下ではなく安全確認機能の低下として扱う。

問題 0116 ｜ 難易度：2

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：視認性
B：故障

ア．【視認性】装置内に人や障害物が残っていないか確認できる視認性を確保するため ／ 【故障】異音が止まったら点検せず使用再開する。

イ．【視認性】駐車装置の重量を減らすため ／ 【故障】利用を中止して周囲を立入禁止とし、保守会社へ点検・復旧を依頼する。

ウ．【視認性】給水管の凍結を防ぐため ／ 【故障】利用者全員で機械を押して動かす。

エ．【視認性】装置内に人や障害物が残っていないか確認できる視認性を確保するため ／ 【故障】利用を中止して周囲を立入禁止とし、保守会社へ点検・復旧を依頼する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。国交省ガイドラインは夜間や屋内・地下設置で視認性確保の照明を求めている。 一方Bは不適切。再発リスクが残る。

イ：Aは不適切。無関係である。 一方Bは適切。異音・異常停止は機械故障や安全装置作動の可能性がある。

ウ：Aは不適切。給水設備の話である。 Bも不適切。危険である。

エ：Aは適切。国交省ガイドラインは夜間や屋内・地下設置で視認性確保の照明を求めている。 Bも適切。異音・異常停止は機械故障や安全装置作動の可能性がある。

総合解説：Aについて：照明切れは単なる利便性低下ではなく安全確認機能の低下として扱う。 Bについて：故障時は人命安全と二次事故防止を優先する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0117 ｜ 難易度：2

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：保守
B：総合

ア．【保守】メーカー等の基準に基づく定期保守を行い、安全装置・駆動部・チェーン等の状態を確認する。 ／ 【総合】事故・故障履歴、保守点検、安全装置、部品供給、利用率、更新費を踏まえて修繕・更新を計画する。

イ．【保守】メーカー等の基準に基づく定期保守を行い、安全装置・駆動部・チェーン等の状態を確認する。 ／ 【総合】利用率が低ければ点検を全て中止する。

ウ．【保守】保守履歴を残さない。 ／ 【総合】事故・故障履歴、保守点検、安全装置、部品供給、利用率、更新費を踏まえて修繕・更新を計画する。

エ．【保守】異音がしても停止するまで使い続ける。 ／ 【総合】故障が増えても修理記録を削除する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。機械式装置は経年摩耗・故障を前提に予防保全が必要である。 Bも適切。安全性・保守性・経済性を総合して更新判断する必要がある。

イ：Aは適切。機械式装置は経年摩耗・故障を前提に予防保全が必要である。 一方Bは不適切。未使用時でも設備劣化は進む。

ウ：Aは不適切。更新判断ができない。 一方Bは適切。安全性・保守性・経済性を総合して更新判断する必要がある。

エ：Aは不適切。重大事故につながる。 Bも不適切。履歴は重要な判断材料である。

総合解説：Aについて：点検指摘事項は優先度を付けて是正し、次回点検まで放置しない。 Bについて：機械式駐車設備は長期修繕計画上の大型設備として費用を見込む。

問題 0118 ｜ 難易度：3

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：故障
B：車両制限

ア．【故障】利用を中止して周囲を立入禁止とし、保守会社へ点検・復旧を依頼する。 ／ 【車両制限】車高制限を超えてもゆっくり入れればよい。

イ．【故障】利用を中止して周囲を立入禁止とし、保守会社へ点検・復旧を依頼する。 ／ 【車両制限】車両の全長・全幅・全高・重量等が設備の利用可能範囲内か確認する。

ウ．【故障】利用者全員で機械を押して動かす。 ／ 【車両制限】車両の全長・全幅・全高・重量等が設備の利用可能範囲内か確認する。

エ．【故障】安全装置を解除して再稼働する。 ／ 【車両制限】設備仕様は利用者へ知らせる必要がない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。異音・異常停止は機械故障や安全装置作動の可能性がある。 一方Bは不適切。接触・破損のおそれがある。

イ：Aは適切。異音・異常停止は機械故障や安全装置作動の可能性がある。 Bも適切。車両寸法・重量超過は装置損傷や事故につながる。

ウ：Aは不適切。危険である。 一方Bは適切。車両寸法・重量超過は装置損傷や事故につながる。

エ：Aは不適切。保護機能を無効化する。 Bも不適切。適正利用のため周知が必要である。

総合解説：Aについて：故障時は人命安全と二次事故防止を優先する。 Bについて：車種大型化に伴い、契約時・車両変更時の適合確認が重要となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0119 ｜ 難易度：2

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：車両制限
B：人員確認

ア．【車両制限】車両の全長・全幅・全高・重量等が設備の利用可能範囲内か確認する。 ／ 【人員確認】車両扉が開いたままでも作動させる。

イ．【車両制限】車高制限を超えてもゆっくり入れればよい。 ／ 【人員確認】装置内や周囲に人・物が残っていないことを自ら確認してから操作する。

ウ．【車両制限】車両の全長・全幅・全高・重量等が設備の利用可能範囲内か確認する。 ／ 【人員確認】装置内や周囲に人・物が残っていないことを自ら確認してから操作する。

エ．【車両制限】設備仕様は利用者へ知らせる必要がない。 ／ 【人員確認】センサーがあるので目視確認は不要である。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。車両寸法・重量超過は装置損傷や事故につながる。 一方Bは不適切。接触・挟まれの危険がある。

イ：Aは不適切。接触・破損のおそれがある。 一方Bは適切。国交省ガイドラインはセンサー任せにせず人がいないことを確認するよう求めている。

ウ：Aは適切。車両寸法・重量超過は装置損傷や事故につながる。 Bも適切。国交省ガイドラインはセンサー任せにせず人がいないことを確認するよう求めている。

エ：Aは不適切。適正利用のため周知が必要である。 Bも不適切。センサーには検知限界がある。

総合解説：Aについて：車種大型化に伴い、契約時・車両変更時の適合確認が重要となる。 Bについて：操作盤から死角がある場合は特に確実な確認が必要である。

問題 0120 ｜ 難易度：3

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：総合
B：非常停止

ア．【総合】事故・故障履歴、保守点検、安全装置、部品供給、利用率、更新費を踏まえて修繕・更新を計画する。 ／ 【非常停止】通常運転の速度を上げる。

イ．【総合】安全設備より外観塗装だけを優先する。 ／ 【非常停止】人や物の巻込み等の危険を認めたとき、装置の動作を速やかに停止させる。

ウ．【総合】利用率が低ければ点検を全て中止する。 ／ 【非常停止】利用料金を計算する。

エ．【総合】事故・故障履歴、保守点検、安全装置、部品供給、利用率、更新費を踏まえて修繕・更新を計画する。 ／ 【非常停止】人や物の巻込み等の危険を認めたとき、装置の動作を速やかに停止させる。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。安全性・保守性・経済性を総合して更新判断する必要がある。 一方Bは不適切。安全機能と逆である。

イ：Aは不適切。安全機能が優先される。 一方Bは適切。緊急時に機械動作を停止する安全装置である。

ウ：Aは不適切。未使用時でも設備劣化は進む。 Bも不適切。会計機能ではない。

エ：Aは適切。安全性・保守性・経済性を総合して更新判断する必要がある。 Bも適切。緊急時に機械動作を停止する安全装置である。

総合解説：Aについて：機械式駐車設備は長期修繕計画上の大型設備として費用を見込む。 Bについて：利用者が非常停止ボタンの位置と使用方法を知っていることが重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0121 ｜ 難易度：1

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：制度区分
B：対象区分

ア．【制度区分】法定点検は法令に基づき対象・方法・報告等が定められ、自主点検は所有者・管理者が安全確保のため任意に行う。 ／ 【対象区分】建築物、建築設備、防火設備、昇降機等

イ．【制度区分】法定点検は法令に基づき対象・方法・報告等が定められ、自主点検は所有者・管理者が安全確保のため任意に行う。 ／ 【対象区分】所得税、住民税、相続税だけ

ウ．【制度区分】自主点検だけ実施すれば法定点検は全て不要になる。 ／ 【対象区分】建築物、建築設備、防火設備、昇降機等

エ．【制度区分】法定点検は管理会社が自由に省略できる。 ／ 【対象区分】家具、家電、衣類だけ

答え・4肢解説　正答：ア

ア：Aは適切。法令上の義務と、予防保全上の自主的な点検は別である。 Bも適切。国土交通省は定期報告制度をこれらの対象ごとに整理している。

イ：Aは適切。法令上の義務と、予防保全上の自主的な点検は別である。 一方Bは不適切。税務の分類である。

ウ：Aは不適切。法定義務は置き換えられない。 一方Bは適切。国土交通省は定期報告制度をこれらの対象ごとに整理している。

エ：Aは不適切。省略できない。 Bも不適切。建築基準法上の定期報告区分ではない。

総合解説：Aについて：適切な管理では法定点検を最低限として、日常・月次等の自主点検を組み合わせる。 Bについて：同一建物でも対象設備ごとに調査・検査資格や報告時期が異なる場合がある。

問題 0122 ｜ 難易度：2

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：対象区分
B：制度比較

ア．【対象区分】建築物、建築設備、防火設備、昇降機等 ／ 【制度比較】両方とも消防法だけを根拠とする。

イ．【対象区分】建築物、建築設備、防火設備、昇降機等 ／ 【制度比較】根拠法令・対象設備・報告先等が異なるため、別々の法定制度として管理する。

ウ．【対象区分】所得税、住民税、相続税だけ ／ 【制度比較】根拠法令・対象設備・報告先等が異なるため、別々の法定制度として管理する。

エ．【対象区分】家具、家電、衣類だけ ／ 【制度比較】名称が似ているのでどちらか一方だけ行えばよい。

答え・4肢解説　正答：イ

ア：Aは適切。国土交通省は定期報告制度をこれらの対象ごとに整理している。 一方Bは不適切。建築設備検査は建築基準法が根拠である。

イ：Aは適切。国土交通省は定期報告制度をこれらの対象ごとに整理している。 Bも適切。消防法と建築基準法の制度は別である。

ウ：Aは不適切。税務の分類である。 一方Bは適切。消防法と建築基準法の制度は別である。

エ：Aは不適切。建築基準法上の定期報告区分ではない。 Bも不適切。代替関係ではない。

総合解説：Aについて：同一建物でも対象設備ごとに調査・検査資格や報告時期が異なる場合がある。 Bについて：法定点検一覧表を作り、根拠法・対象・周期・報告先・資格者を整理すると事故を防げる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0123 ｜ 難易度：2

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：資格者
B：是正管理

ア．【資格者】法令に基づく資格者が調査・検査を行う。 ／ 【是正管理】報告書を保存した時点で対応完了とする。

イ．【資格者】専門資格は一切不要である。 ／ 【是正管理】危険度を確認し、是正方法・期限・担当者を定め、完了まで追跡する。

ウ．【資格者】法令に基づく資格者が調査・検査を行う。 ／ 【是正管理】危険度を確認し、是正方法・期限・担当者を定め、完了まで追跡する。

エ．【資格者】管理会社の新入社員なら資格に関係なく法定検査できる。 ／ 【是正管理】次回点検まで必ず放置する。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。定期報告制度では専門技術を有する資格者による調査・検査を求めている。 一方Bは不適切。不具合が残っている。

イ：Aは不適切。資格者制度がある。 一方Bは適切。点検は不具合発見後の是正まで管理して初めて安全確保につながる。

ウ：Aは適切。定期報告制度では専門技術を有する資格者による調査・検査を求めている。 Bも適切。点検は不具合発見後の是正まで管理して初めて安全確保につながる。

エ：Aは不適切。資格要件を満たす必要がある。 Bも不適切。緊急性によっては早期対応が必要である。

総合解説：Aについて：管理者は発注時に点検業者だけでなく担当資格者の要件も確認する。 Bについて：是正後は修理記録・写真・再確認結果を点検履歴と関連付ける。

問題 0124 ｜ 難易度：2

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：制度比較
B：期限管理

ア．【制度比較】根拠法令・対象設備・報告先等が異なるため、別々の法定制度として管理する。 ／ 【期限管理】期限を過ぎたら記録を削除する。

イ．【制度比較】名称が似ているのでどちらか一方だけ行えばよい。 ／ 【期限管理】設備台帳に前回実施日・次回期限・報告期限・委託先を登録し、事前にアラートを設定する。

ウ．【制度比較】両方とも国税庁へ報告する。 ／ 【期限管理】設備ごとの点検周期を全て同じ日に固定する。

エ．【制度比較】根拠法令・対象設備・報告先等が異なるため、別々の法定制度として管理する。 ／ 【期限管理】設備台帳に前回実施日・次回期限・報告期限・委託先を登録し、事前にアラートを設定する。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。消防法と建築基準法の制度は別である。 一方Bは不適切。違反状態を隠すだけである。

イ：Aは不適切。代替関係ではない。 一方Bは適切。点検漏れを防ぐには期限を可視化する必要がある。

ウ：Aは不適切。報告先が異なる。 Bも不適切。制度ごとに周期が異なる。

エ：Aは適切。消防法と建築基準法の制度は別である。 Bも適切。点検漏れを防ぐには期限を可視化する必要がある。

総合解説：Aについて：法定点検一覧表を作り、根拠法・対象・周期・報告先・資格者を整理すると事故を防げる。 Bについて：点検日だけでなく行政への報告期限も別項目で管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0125 ｜ 難易度：2

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：期限管理
B：予防保全

ア．【期限管理】設備台帳に前回実施日・次回期限・報告期限・委託先を登録し、事前にアラートを設定する。 ／ 【予防保全】次回法定点検まで待たず、漏水・異音・破損・閉塞等の異常を早期発見する。

イ．【期限管理】設備台帳に前回実施日・次回期限・報告期限・委託先を登録し、事前にアラートを設定する。 ／ 【予防保全】建物の所有権を確認するだけである。

ウ．【期限管理】期限を過ぎたら記録を削除する。 ／ 【予防保全】次回法定点検まで待たず、漏水・異音・破損・閉塞等の異常を早期発見する。

エ．【期限管理】設備ごとの点検周期を全て同じ日に固定する。 ／ 【予防保全】法定点検結果を無効にする。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。点検漏れを防ぐには期限を可視化する必要がある。 Bも適切。日常点検は異常の早期発見に有効である。

イ：Aは適切。点検漏れを防ぐには期限を可視化する必要がある。 一方Bは不適切。権利関係調査ではない。

ウ：Aは不適切。違反状態を隠すだけである。 一方Bは適切。日常点検は異常の早期発見に有効である。

エ：Aは不適切。制度ごとに周期が異なる。 Bも不適切。そのような効果はない。

総合解説：Aについて：点検日だけでなく行政への報告期限も別項目で管理する。 Bについて：巡回チェックリストを標準化すると担当者による見落とし差を減らせる。

問題 0126 ｜ 難易度：2

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：是正管理
B：適用確認

ア．【是正管理】危険度を確認し、是正方法・期限・担当者を定め、完了まで追跡する。 ／ 【適用確認】賃貸住宅なら全国どこでも法定点検は全く同じと決めつける。

イ．【是正管理】危険度を確認し、是正方法・期限・担当者を定め、完了まで追跡する。 ／ 【適用確認】用途・規模・所在地・設備種類等を確認し、国の指定と特定行政庁・消防機関の指定を調べる。

ウ．【是正管理】指摘内容を削除して正常扱いにする。 ／ 【適用確認】用途・規模・所在地・設備種類等を確認し、国の指定と特定行政庁・消防機関の指定を調べる。

エ．【是正管理】報告書を保存した時点で対応完了とする。 ／ 【適用確認】前管理会社が点検していなければ今後も不要と判断する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。点検は不具合発見後の是正まで管理して初めて安全確保につながる。 一方Bは不適切。地域条件が異なる。

イ：Aは適切。点検は不具合発見後の是正まで管理して初めて安全確保につながる。 Bも適切。定期報告対象は国指定に加え地域の指定がある場合がある。

ウ：Aは不適切。不適切な記録改変である。 一方Bは適切。定期報告対象は国指定に加え地域の指定がある場合がある。

エ：Aは不適切。不具合が残っている。 Bも不適切。過去の不実施は免除理由にならない。

総合解説：Aについて：是正後は修理記録・写真・再確認結果を点検履歴と関連付ける。 Bについて：管理開始時に法定点検台帳を作ることはコンプライアンス確認の基本である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0127 ｜ 難易度：1

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：予防保全
B：履歴

ア．【予防保全】次回法定点検まで待たず、漏水・異音・破損・閉塞等の異常を早期発見する。 ／ 【履歴】履歴を残すと設備寿命が自動的に延びる。

イ．【予防保全】法定点検結果を無効にする。 ／ 【履歴】劣化の進行や故障頻度を比較し、修繕・更新時期を判断できる。

ウ．【予防保全】次回法定点検まで待たず、漏水・異音・破損・閉塞等の異常を早期発見する。 ／ 【履歴】劣化の進行や故障頻度を比較し、修繕・更新時期を判断できる。

エ．【予防保全】専門業者を永久に不要にする。 ／ 【履歴】点検記録は賃料請求だけに使う。

答え・4肢解説　正答：ウ

ア：Aは適切。日常点検は異常の早期発見に有効である。 一方Bは不適切。記録だけでは改善しない。

イ：Aは不適切。そのような効果はない。 一方Bは適切。時系列データは予防保全・更新判断に有用である。

ウ：Aは適切。日常点検は異常の早期発見に有効である。 Bも適切。時系列データは予防保全・更新判断に有用である。

エ：Aは不適切。専門検査を代替しない。 Bも不適切。設備管理にも利用する。

総合解説：Aについて：巡回チェックリストを標準化すると担当者による見落とし差を減らせる。 Bについて：修理費や停止時間も併記するとライフサイクルコストの判断に役立つ。

問題 0128 ｜ 難易度：2

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：履歴
B：引継ぎ

ア．【履歴】劣化の進行や故障頻度を比較し、修繕・更新時期を判断できる。 ／ 【引継ぎ】未是正事項を隠す。

イ．【履歴】履歴を残すと設備寿命が自動的に延びる。 ／ 【引継ぎ】過去の点検報告書、不具合・修理履歴、設備仕様、次回期限等を新業者へ必要な範囲で共有する。

ウ．【履歴】点検記録は賃料請求だけに使う。 ／ 【引継ぎ】前業者の記録を全て廃棄する。

エ．【履歴】劣化の進行や故障頻度を比較し、修繕・更新時期を判断できる。 ／ 【引継ぎ】過去の点検報告書、不具合・修理履歴、設備仕様、次回期限等を新業者へ必要な範囲で共有する。

答え・4肢解説　正答：エ

ア：Aは適切。時系列データは予防保全・更新判断に有用である。 一方Bは不適切。安全上不適切である。

イ：Aは不適切。記録だけでは改善しない。 一方Bは適切。安全管理の継続性には過去履歴の引継ぎが重要である。

ウ：Aは不適切。設備管理にも利用する。 Bも不適切。再発・未是正を見落とす。

エ：Aは適切。時系列データは予防保全・更新判断に有用である。 Bも適切。安全管理の継続性には過去履歴の引継ぎが重要である。

総合解説：Aについて：修理費や停止時間も併記するとライフサイクルコストの判断に役立つ。 Bについて：委託先が変わっても設備台帳の正本は管理者側で継続保持する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0129 ｜ 難易度：3

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：適用確認
B：総合

ア．【適用確認】用途・規模・所在地・設備種類等を確認し、国の指定と特定行政庁・消防機関の指定を調べる。 ／ 【総合】法定点検、自主点検、保守契約点検を一覧化し、対象・周期・資格者・報告先・是正フローまで整理する。

イ．【適用確認】用途・規模・所在地・設備種類等を確認し、国の指定と特定行政庁・消防機関の指定を調べる。 ／ 【総合】法定点検だけ一覧化し日常点検は一切行わない。

ウ．【適用確認】建物名称だけで適用制度を決める。 ／ 【総合】法定点検、自主点検、保守契約点検を一覧化し、対象・周期・資格者・報告先・是正フローまで整理する。

エ．【適用確認】賃貸住宅なら全国どこでも法定点検は全く同じと決めつける。 ／ 【総合】全設備を同じ業者・同じ資格で点検できると仮定する。

答え・4肢解説　正答：ア

ア：Aは適切。定期報告対象は国指定に加え地域の指定がある場合がある。 Bも適切。複数の点検体系を重ねて管理する方法が実務的である。

イ：Aは適切。定期報告対象は国指定に加え地域の指定がある場合がある。 一方Bは不適切。予防保全が不足する。

ウ：Aは不適切。用途・規模等の確認が必要である。 一方Bは適切。複数の点検体系を重ねて管理する方法が実務的である。

エ：Aは不適切。地域条件が異なる。 Bも不適切。設備ごとに専門性が異なる。

総合解説：Aについて：管理開始時に法定点検台帳を作ることはコンプライアンス確認の基本である。 Bについて：年間計画を設備台帳と連動させると期限漏れと未是正の両方を管理できる。

問題 0130 ｜ 難易度：2

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：引継ぎ
B：臨時点検

ア．【引継ぎ】過去の点検報告書、不具合・修理履歴、設備仕様、次回期限等を新業者へ必要な範囲で共有する。 ／ 【臨時点検】外見上無傷なら全設備を安全と断定する。

イ．【引継ぎ】過去の点検報告書、不具合・修理履歴、設備仕様、次回期限等を新業者へ必要な範囲で共有する。 ／ 【臨時点検】法定周期だけに頼らず、建物・昇降機・消防設備等の被害状況に応じて臨時点検を行う。

ウ．【引継ぎ】前業者の記録を全て廃棄する。 ／ 【臨時点検】法定周期だけに頼らず、建物・昇降機・消防設備等の被害状況に応じて臨時点検を行う。

エ．【引継ぎ】設備図面を見せずゼロから推測させる。 ／ 【臨時点検】異常情報を記録しない。

答え・4肢解説　正答：イ

ア：Aは適切。安全管理の継続性には過去履歴の引継ぎが重要である。 一方Bは不適切。内部損傷等があり得る。

イ：Aは適切。安全管理の継続性には過去履歴の引継ぎが重要である。 Bも適切。災害後は通常周期外でも安全確認が必要となる。

ウ：Aは不適切。再発・未是正を見落とす。 一方Bは適切。災害後は通常周期外でも安全確認が必要となる。

エ：Aは不適切。点検品質が低下する。 Bも不適切。再発・判断の資料が必要である。

総合解説：Aについて：委託先が変わっても設備台帳の正本は管理者側で継続保持する。 Bについて：法定点検は最低限の周期であり、異常発生時の臨時点検を妨げない。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0131 ｜ 難易度：3

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：臨時点検
B：制度区分

ア．【臨時点検】法定周期だけに頼らず、建物・昇降機・消防設備等の被害状況に応じて臨時点検を行う。／【制度区分】両者は必ず同じ周期・同じ資格者で行う。

イ．【臨時点検】外見上無傷なら全設備を安全と断定する。／【制度区分】法定点検は法令に基づき対象・方法・報告等が定められ、自主点検は所有者・管理者が安全確保のため任意に行う。

ウ．【臨時点検】法定周期だけに頼らず、建物・昇降機・消防設備等の被害状況に応じて臨時点検を行う。／【制度区分】法定点検は法令に基づき対象・方法・報告等が定められ、自主点検は所有者・管理者が安全確保のため任意に行う。

エ．【臨時点検】異常情報を記録しない。／【制度区分】自主点検だけ実施すれば法定点検は全て不要になる。

答え・4肢解説 正答：ウ

ア：Aは適切。災害後は通常周期外でも安全確認が必要となる。 一方Bは不適切。制度ごとに異なる。

イ：Aは不適切。内部損傷等があり得る。 一方Bは適切。法令上の義務と、予防保全上の自主的な点検は別である。

ウ：Aは適切。災害後は通常周期外でも安全確認が必要となる。 Bも適切。法令上の義務と、予防保全上の自主的な点検は別である。

エ：Aは不適切。再発・判断の資料が必要である。 Bも不適切。法定義務は置き換えられない。

総合解説：Aについて：法定点検は最低限の周期であり、異常発生時の臨時点検を妨げない。 Bについて：適切な管理では法定点検を最低限として、日常・月次等の自主点検を組み合わせる。

問題 0132 ｜ 難易度：1

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：総合
B：資格者

ア．【総合】法定点検、自主点検、保守契約点検を一覧化し、対象・周期・資格者・報告先・是正フローまで整理する。／【資格者】管理会社の新入社員なら資格に関係なく法定検査できる。

イ．【総合】点検完了日だけ記録して指摘事項を管理しない。／【資格者】法令に基づく資格者が調査・検査を行う。

ウ．【総合】法定点検だけ一覧化し日常点検は一切行わない。／【資格者】入居者代表だけが実施できる。

エ．【総合】法定点検、自主点検、保守契約点検を一覧化し、対象・周期・資格者・報告先・是正フローまで整理する。／【資格者】法令に基づく資格者が調査・検査を行う。

答え・4肢解説 正答：エ

ア：Aは適切。複数の点検体系を重ねて管理する方法が実務的である。 一方Bは不適切。資格要件を満たす必要がある。

イ：Aは不適切。是正管理が必要である。 一方Bは適切。定期報告制度では専門技術を有する資格者による調査・検査を求めている。

ウ：Aは不適切。予防保全が不足する。 Bも不適切。その制度ではない。

エ：Aは適切。複数の点検体系を重ねて管理する方法が実務的である。 Bも適切。定期報告制度では専門技術を有する資格者による調査・検査を求めている。

総合解説：Aについて：年間計画を設備台帳と連動させると期限漏れと未是正の両方を管理できる。 Bについて：管理者は発注時に点検業者だけでなく担当資格者の要件も確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0133 ｜ 難易度：1

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：計画修繕
B：見直し

ア．【計画修繕】将来必要となる修繕工事の時期・内容・概算費用を見通し、計画的な維持保全につなげる。 ／ 【見直し】工事価格、物価、設備仕様、劣化状況等が変化するため、定期的に見直す。

イ．【計画修繕】将来必要となる修繕工事の時期・内容・概算費用を見通し、計画的な維持保全につなげる。 ／ 【見直し】実際の劣化が計画と違っても修正しない。

ウ．【計画修繕】故障が起きた後の応急修理だけを行うため ／ 【見直し】工事価格、物価、設備仕様、劣化状況等が変化するため、定期的に見直す。

エ．【計画修繕】入居者の個人情報だけを管理するため ／ 【見直し】修繕費が上昇しても予算だけ旧額を維持する。

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。長期修繕計画は計画修繕を適時・円滑に実施するための基礎となる。 Bも適切。国交省ガイドラインも定期的な見直しの必要性を示している。

イ：Aは適切。長期修繕計画は計画修繕を適時・円滑に実施するための基礎となる。 一方Bは不適切。現況反映が必要である。

ウ：Aは不適切。事後保全だけではない。 一方Bは適切。国交省ガイドラインも定期的な見直しの必要性を示している。

エ：Aは不適切。目的が異なる。 Bも不適切。資金不足につながる。

総合解説：Aについて：賃貸経営でも大規模な設備更新費を事前に見込むことが資金計画に有効である。 Bについて：点検・修繕実績を次回見直しへ反映する循環が重要である。

問題 0134 ｜ 難易度：2

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：見直し
B：保全方式

ア．【見直し】工事価格、物価、設備仕様、劣化状況等が変化するため、定期的に見直す。 ／ 【保全方式】不具合を記録しない。

イ．【見直し】工事価格、物価、設備仕様、劣化状況等が変化するため、定期的に見直す。 ／ 【保全方式】重大故障や漏水等が発生する前に、点検結果や劣化予測に基づいて計画的に補修・更新する。

ウ．【見直し】実際の劣化が計画と違っても修正しない。 ／ 【保全方式】重大故障や漏水等が発生する前に、点検結果や劣化予測に基づいて計画的に補修・更新する。

エ．【見直し】修繕費が上昇しても予算だけ旧額を維持する。 ／ 【保全方式】必ず壊れてから修理する。

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。国交省ガイドラインも定期的な見直しの必要性を示している。 一方Bは不適切。改善判断ができない。

イ：Aは適切。国交省ガイドラインも定期的な見直しの必要性を示している。 Bも適切。故障前の計画的対応により被害・停止時間を抑える。

ウ：Aは不適切。現況反映が必要である。 一方Bは適切。故障前の計画的対応により被害・停止時間を抑える。

エ：Aは不適切。資金不足につながる。 Bも不適切。事後保全の説明である。

総合解説：Aについて：点検・修繕実績を次回見直しへ反映する循環が重要である。 Bについて：設備の重要度や故障時影響に応じて予防保全と事後保全を使い分ける。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0135 ｜ 難易度：2

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：周期
B：概算費

ア．【周期】標準的な周期は参考値であり、材料・仕様・環境・点検結果等に応じて実際の時期を判断する。 ／ 【概算費】根拠なく前年予算と同額にする。

イ．【周期】全ての建物で同じ周期になる。 ／ 【概算費】数量・仕様・単価・仮設費等の前提を明確にし、物価変動も踏まえて見直す。

ウ．【周期】標準的な周期は参考値であり、材料・仕様・環境・点検結果等に応じて実際の時期を判断する。 ／ 【概算費】数量・仕様・単価・仮設費等の前提を明確にし、物価変動も踏まえて見直す。

エ．【周期】参考周期に達したら状態を見ず必ず全交換する。 ／ 【概算費】工事項目を一式だけとし内容を確認しない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。国交省も修繕周期は仕様等で異なるため参考値として扱うとしている。 一方Bは不適切。実態と乖離しやすい。

イ：Aは不適切。建物条件により異なる。 一方Bは適切。長期計画は概算でも算定根拠を持たせる必要がある。

ウ：Aは適切。国交省も修繕周期は仕様等で異なるため参考値として扱うとしている。 Bも適切。長期計画は概算でも算定根拠を持たせる必要がある。

エ：Aは不適切。現況診断が必要である。 Bも不適切。見直し不能になる。

総合解説：Aについて：周期管理と状態監視を組み合わせた保全が合理的である。 Bについて：実際の修繕工事実績を単価データとして蓄積すると次回計画の精度が上がる。

問題 0136 ｜ 難易度：2

次の二つの論点に関する説明の組合せとして、両方とも適切なものはどれか。
A：保全方式
B：優先順位

ア．【保全方式】重大故障や漏水等が発生する前に、点検結果や劣化予測に基づいて計画的に補修・更新する。 ／ 【優先順位】費用の安い工事だけを先にする。

イ．【保全方式】必ず壊れてから修理する。 ／ 【優先順位】人身・衛生・建物被害への影響が大きい②・③を優先する。

ウ．【保全方式】点検を行わず年数だけで全て交換する。 ／ 【優先順位】全て同じ緊急度として抽選で決める。

エ．【保全方式】重大故障や漏水等が発生する前に、点検結果や劣化予測に基づいて計画的に補修・更新する。 ／ 【優先順位】人身・衛生・建物被害への影響が大きい②・③を優先する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。故障前の計画的対応により被害・停止時間を抑える。 一方Bは不適切。費用だけでは判断しない。

イ：Aは不適切。事後保全の説明である。 一方Bは適切。安全性・緊急性・影響度を基準に優先順位を付ける。

ウ：Aは不適切。状態評価も重要である。 Bも不適切。リスク評価が必要である。

エ：Aは適切。故障前の計画的対応により被害・停止時間を抑える。 Bも適切。安全性・緊急性・影響度を基準に優先順位を付ける。

総合解説：Aについて：設備の重要度や故障時影響に応じて予防保全と事後保全を使い分ける。 Bについて：長期計画があっても緊急修繕は別枠で前倒しする。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0137 ｜ 難易度：2

実務研修で二つの事項を同時に確認する。A・Bがともに適切な組合せはどれか。
A：優先順位
B：改良保全

ア．【優先順位】人身・衛生・建物被害への影響が大きい②・③を優先する。 ／ 【改良保全】省エネ性、安全性、保守性、部品供給、将来の運用コスト等を比較する。

イ．【優先順位】人身・衛生・建物被害への影響が大きい②・③を優先する。 ／ 【改良保全】安全基準の変更は考慮しない。

ウ．【優先順位】費用の安い工事だけを先にする。 ／ 【改良保全】省エネ性、安全性、保守性、部品供給、将来の運用コスト等を比較する。

エ．【優先順位】全て同じ緊急度として抽選で決める。 ／ 【改良保全】既設と同一型番以外は検討禁止とする。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。安全性・緊急性・影響度を基準に優先順位を付ける。 Bも適切。更新は建物性能を改善する機会でもある。

イ：Aは適切。安全性・緊急性・影響度を基準に優先順位を付ける。 一方Bは不適切。現行安全性を確認する。

ウ：Aは不適切。費用だけでは判断しない。 一方Bは適切。更新は建物性能を改善する機会でもある。

エ：Aは不適切。リスク評価が必要である。 Bも不適切。同一品が製造終了している場合もある。

総合解説：Aについて：長期計画があっても緊急修繕は別枠で前倒しする。 Bについて：長期修繕計画では単なる修繕だけでなく、改良・省エネ更新も検討対象となり得る。

問題 0138 ｜ 難易度：2

管理担当者の確認事項として、次のA・Bの説明がともに正しいものはどれか。
A：概算費
B：資金計画

ア．【概算費】数量・仕様・単価・仮設費等の前提を明確にし、物価変動も踏まえて見直す。 ／ 【資金計画】修繕計画と資金計画は完全に無関係である。

イ．【概算費】数量・仕様・単価・仮設費等の前提を明確にし、物価変動も踏まえて見直す。 ／ 【資金計画】将来の修繕工事費を見積もり、必要な時期に資金不足が生じないよう収支を確認する。

ウ．【概算費】10年以上先の費用も物価変動がないと断定する。 ／ 【資金計画】将来の修繕工事費を見積もり、必要な時期に資金不足が生じないよう収支を確認する。

エ．【概算費】根拠なく前年予算と同額にする。 ／ 【資金計画】工事予定が決まっても費用は見積もらない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。長期計画は概算でも算定根拠を持たせる必要がある。 一方Bは不適切。強く関連する。

イ：Aは適切。長期計画は概算でも算定根拠を持たせる必要がある。 Bも適切。計画修繕の実行可能性には資金確保が必要である。

ウ：Aは不適切。将来価格には不確定性がある。 一方Bは適切。計画修繕の実行可能性には資金確保が必要である。

エ：Aは不適切。実態と乖離しやすい。 Bも不適切。費用見通しが必要である。

総合解説：Aについて：実際の修繕工事実績を単価データとして蓄積すると次回計画の精度が上がる。 Bについて：賃貸経営では修繕積立金制度が法定されるわけではなくても、オーナー側の資金準備が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0139 ｜ 難易度：1

二つの関連論点を比較する。誤りを含まない組合せはどれか。
A：改良保全
B：履歴更新

ア．【改良保全】省エネ性、安全性、保守性、部品供給、将来の運用コスト等を比較する。 ／ 【履歴更新】工事実績を記録しない。

イ．【改良保全】既設と同一型番以外は検討禁止とする。 ／ 【履歴更新】実施工事の時期・仕様・費用を記録し、次回修繕予定や資金計画を更新する。

ウ．【改良保全】省エネ性、安全性、保守性、部品供給、将来の運用コスト等を比較する。 ／ 【履歴更新】実施工事の時期・仕様・費用を記録し、次回修繕予定や資金計画を更新する。

エ．【改良保全】初期費用だけ見て電気代・保守費は無視する。 ／ 【履歴更新】支払額を別設備の費用へ付け替える。

答え・4肢解説 正答：ウ

ア：Aは適切。更新は建物性能を改善する機会でもある。 一方Bは不適切。次回予測に使えない。

イ：Aは不適切。同一品が製造終了している場合もある。 一方Bは適切。実績を反映して将来計画を現実に合わせる必要がある。

ウ：Aは適切。更新は建物性能を改善する機会でもある。 Bも適切。実績を反映して将来計画を現実に合わせる必要がある。

エ：Aは不適切。ライフサイクルコストが重要である。 Bも不適切。会計・計画を歪める。

総合解説：Aについて：長期修繕計画では単なる修繕だけでなく、改良・省エネ更新も検討対象となり得る。 Bについて：長期修繕計画は固定表ではなく、実績を反映する更新型の管理資料である。

問題 0140 ｜ 難易度：2

ケース検討の前提知識として、A・Bの双方が適切な組合せを選べ。
A：履歴更新
B：総合

ア．【履歴更新】実施工事の時期・仕様・費用を記録し、次回修繕予定や資金計画を更新する。 ／ 【総合】費用を考慮せず最も高額な工事から行う。

イ．【履歴更新】工事実績を記録しない。 ／ 【総合】点検診断・故障履歴・法定点検結果・費用・工事相互影響を整理し、優先順位と実施年度を組み直す。

ウ．【履歴更新】支払額を別設備の費用へ付け替える。 ／ 【総合】全設備を同日に停止して無計画に工事する。

エ．【履歴更新】実施工事の時期・仕様・費用を記録し、次回修繕予定や資金計画を更新する。 ／ 【総合】点検診断・故障履歴・法定点検結果・費用・工事相互影響を整理し、優先順位と実施年度を組み直す。

答え・4肢解説 正答：エ

ア：Aは適切。実績を反映して将来計画を現実に合わせる必要がある。 一方Bは不適切。優先順位は金額の大きさだけで決まらない。

イ：Aは不適切。次回予測に使えない。 一方Bは適切。複数工事の調整には現況と資金・入居者影響の総合判断が必要である。

ウ：Aは不適切。会計・計画を歪める。 Bも不適切。居住継続への影響が大きい。

エ：Aは適切。実績を反映して将来計画を現実に合わせる必要がある。 Bも適切。複数工事の調整には現況と資金・入居者影響の総合判断が必要である。

総合解説：Aについて：長期修繕計画は固定表ではなく、実績を反映する更新型の管理資料である。 Bについて：足場共用など工事をまとめる合理性と、故障リスクによる前倒しを両方検討する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0141 ｜ 難易度：1

次のA・Bを同時に判定した場合、両方とも適切なのはどれか。
A：資金計画
B：見直し

ア．【資金計画】将来の修繕工事費を見積もり、必要な時期に資金不足が生じないよう収支を確認する。 ／ 【見直し】工事価格、物価、設備仕様、劣化状況等が変化するため、定期的に見直す。

イ．【資金計画】将来の修繕工事費を見積もり、必要な時期に資金不足が生じないよう収支を確認する。 ／ 【見直し】新築時に一度作れば永久に変更しない。

ウ．【資金計画】資金不足は工事当日に初めて確認すればよい。 ／ 【見直し】工事価格、物価、設備仕様、劣化状況等が変化するため、定期的に見直す。

エ．【資金計画】修繕計画と資金計画は完全に無関係である。 ／ 【見直し】実際の劣化が計画と違っても修正しない。

答え・4肢解説 正答：ア

ア：Aは適切。計画修繕の実行可能性には資金確保が必要である。 Bも適切。国交省ガイドラインも定期的な見直しの必要性を示している。

イ：Aは適切。計画修繕の実行可能性には資金確保が必要である。 一方Bは不適切。長期予測には不確定要素がある。

ウ：Aは不適切。事前確認が必要である。 一方Bは適切。国交省ガイドラインも定期的な見直しの必要性を示している。

エ：Aは不適切。強く関連する。 Bも不適切。現況反映が必要である。

総合解説：Aについて：賃貸経営では修繕積立金制度が法定されるわけではなくても、オーナー側の資金準備が重要である。 Bについて：点検・修繕実績を次回見直しへ反映する循環が重要である。

問題 0142 ｜ 難易度：1

新人教育用の資料を作成する。A・Bについて正しい記述の組合せはどれか。
A：総合
B：計画修繕

ア．【総合】点検診断・故障履歴・法定点検結果・費用・工事相互影響を整理し、優先順位と実施年度を組み直す。 ／ 【計画修繕】入居者の個人情報だけを管理するため

イ．【総合】点検診断・故障履歴・法定点検結果・費用・工事相互影響を整理し、優先順位と実施年度を組み直す。 ／ 【計画修繕】将来必要となる修繕工事の時期・内容・概算費用を見通し、計画的な維持保全につなげる。

ウ．【総合】全設備を同日に停止して無計画に工事する。 ／ 【計画修繕】将来必要となる修繕工事の時期・内容・概算費用を見通し、計画的な維持保全につなげる。

エ．【総合】古い長期修繕計画の予定年だけを絶対視する。 ／ 【計画修繕】建物の所有権を変更するため

答え・4肢解説 正答：イ

ア：Aは適切。複数工事の調整には現況と資金・入居者影響の総合判断が必要である。 一方Bは不適切。目的が異なる。

イ：Aは適切。複数工事の調整には現況と資金・入居者影響の総合判断が必要である。 Bも適切。長期修繕計画は計画修繕を適時・円滑に実施するための基礎となる。

ウ：Aは不適切。居住継続への影響が大きい。 一方Bは適切。長期修繕計画は計画修繕を適時・円滑に実施するための基礎となる。

エ：Aは不適切。計画は見直しが必要である。 Bも不適切。権利移転の制度ではない。

総合解説：Aについて：足場共用など工事をまとめる合理性と、故障リスクによる前倒しを両方検討する。 Bについて：賃貸経営でも大規模な設備更新費を事前に見込むことが資金計画に有効である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0143 ｜ 難易度：1

オーナー又は入居者へ説明する前提として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：止水
B：露点

ア．【止水】安全に可能な範囲で止水し、電気設備への水濡れに注意しながら被害拡大を防ぐ。 ／ 【露点】ガス管の腐食

イ．【止水】濡れたコンセントを素手で操作する。 ／ 【露点】室内の湿った空気が冷えた壁面で露点温度以下となることによる表面結露

ウ．【止水】安全に可能な範囲で止水し、電気設備への水濡れに注意しながら被害拡大を防ぐ。 ／ 【露点】室内の湿った空気が冷えた壁面で露点温度以下となることによる表面結露

エ．【止水】下階への連絡をしない。 ／ 【露点】給水管のクロスコネクション

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：Aは適切。漏水は止水と二次災害防止が最優先である。 一方Bは不適切。ガス設備の問題である。

イ：Aは不適切。感電危険がある。 一方Bは適切。低温面と高湿度の組合せで表面結露が生じる。

ウ：Aは適切。漏水は止水と二次災害防止が最優先である。 Bも適切。低温面と高湿度の組合せで表面結露が生じる。

エ：Aは不適切。下階被害確認が必要である。 Bも不適切。給水衛生の問題である。

総合解説：Aについて：緊急連絡先と止水位置を設備台帳・管理マニュアルに整理しておく。 Bについて：換気・除湿・断熱・家具配置など複数の要因を確認する。

問題 0144 ｜ 難易度：2

管理実務の二つの場面を確認する。A・Bの両方に誤りがない組合せはどれか。
A：発生条件
B：切り分け

ア．【発生条件】屋根・外壁・サッシ・防水層等からの雨水浸入 ／ 【切り分け】全住戸の蛇口だけを交換する。

イ．【発生条件】分電盤の過電流だけ ／ 【切り分け】共用給湯方式なら熱源機・燃料・電源等の共通設備を確認し、個別方式なら広域インフラ障害等も含めて方式に応じ切り分ける。

ウ．【発生条件】給湯器使用時だけの漏水 ／ 【切り分け】排水管詰まりと断定する。

エ．【発生条件】屋根・外壁・サッシ・防水層等からの雨水浸入 ／ 【切り分け】共用給湯方式なら熱源機・燃料・電源等の共通設備を確認し、個別方式なら広域インフラ障害等も含めて方式に応じ切り分ける。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：Aは適切。降雨との相関が強いため外部からの雨水浸入が疑われる。 一方Bは不適切。給水自体は正常である。

イ：Aは不適切。電気設備の問題である。 一方Bは適切。複数住戸同時故障では共通原因の確認が効率的である。

ウ：Aは不適切。発生条件と一致しにくい。 Bも不適切。症状が異なる。

エ：Aは適切。降雨との相関が強いため外部からの雨水浸入が疑われる。 Bも適切。複数住戸同時故障では共通原因の確認が効率的である。

総合解説：Aについて：漏水診断では『いつ・どの条件で発生するか』を時系列で記録する。 Bについて：トラブル初動では『単独か複数か』『共用か専有か』を確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0145 ｜ 難易度：1

法令・契約・実務の整理として、A・Bの説明がともに妥当な組合せはどれか。
A：露点
B：高湿度

ア．【露点】室内の湿った空気が冷えた壁面で露点温度以下となることによる表面結露 ／ 【高湿度】漏水の有無を確認した上で、換気・湿度・温度・家具配置等を改善し、発生原因を抑える。

イ．【露点】室内の湿った空気が冷えた壁面で露点温度以下となることによる表面結露 ／ 【高湿度】換気口を塞いで湿気を室内に保持する。

ウ．【露点】給水管のクロスコネクション ／ 【高湿度】漏水の有無を確認した上で、換気・湿度・温度・家具配置等を改善し、発生原因を抑える。

エ．【露点】エレベーターの戸開走行 ／ 【高湿度】壁面を常に濡らして乾燥を防ぐ。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。低温面と高湿度の組合せで表面結露が生じる。 Bも適切。カビは高湿度・結露等の環境が続くと再発しやすい。

イ：Aは適切。低温面と高湿度の組合せで表面結露が生じる。 一方Bは不適切。湿度を高める。

ウ：Aは不適切。給水衛生の問題である。 一方Bは適切。カビは高湿度・結露等の環境が続くと再発しやすい。

エ：Aは不適切。昇降機事故の問題である。 Bも不適切。悪化させる。

総合解説：Aについて：換気・除湿・断熱・家具配置など複数の要因を確認する。 Bについて：漏水由来か生活湿気由来かで対策が異なるため、原因を切り分ける。

問題 0146 ｜ 難易度：1

次の二事項を一体として検討する。A・Bがともに正しいものを選べ。
A：高湿度
B：応急措置

ア．【高湿度】漏水の有無を確認した上で、換気・湿度・温度・家具配置等を改善し、発生原因を抑える。 ／ 【応急措置】漏水記録を削除する。

イ．【高湿度】漏水の有無を確認した上で、換気・湿度・温度・家具配置等を改善し、発生原因を抑える。 ／ 【応急措置】応急措置で終了せず、原因箇所を特定して恒久的な防水・外壁補修を計画する。

ウ．【高湿度】換気口を塞いで湿気を室内に保持する。 ／ 【応急措置】応急措置で終了せず、原因箇所を特定して恒久的な防水・外壁補修を計画する。

エ．【高湿度】壁面を常に濡らして乾燥を防ぐ。 ／ 【応急措置】雨が止んだので原因調査は不要とする。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。カビは高湿度・結露等の環境が続くと再発しやすい。 一方Bは不適切。履歴が必要である。

イ：Aは適切。カビは高湿度・結露等の環境が続くと再発しやすい。 Bも適切。応急措置は被害拡大防止であり、原因除去とは別である。

ウ：Aは不適切。湿度を高める。 一方Bは適切。応急措置は被害拡大防止であり、原因除去とは別である。

エ：Aは不適切。悪化させる。 Bも不適切。再発する可能性がある。

総合解説：Aについて：漏水由来か生活湿気由来かで対策が異なるため、原因を切り分ける。 Bについて：緊急対応後に恒久修繕へ確実に引き継ぐ管理フローが重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0147 ｜ 難易度：1

担当者が二つの論点を説明した。内容が双方とも適切な組合せはどれか。
A：切り分け
B：総合

ア．【切り分け】共用給湯方式なら熱源機・燃料・電源等の共通設備を確認し、個別方式なら広域インフラ障害等も含めて方式に応じ切り分ける。 ／ 【総合】全症状を一つの原因と決めつける。

イ．【切り分け】設備方式を確認せず同じ修理を全戸へ行う。 ／ 【総合】人身・漏電・衛生等の緊急リスクを先に抑え、発生条件と設備系統を整理して原因ごとに恒久対策を行う。

ウ．【切り分け】共用給湯方式なら熱源機・燃料・電源等の共通設備を確認し、個別方式なら広域インフラ障害等も含めて方式に応じ切り分ける。 ／ 【総合】人身・漏電・衛生等の緊急リスクを先に抑え、発生条件と設備系統を整理して原因ごとに恒久対策を行う。

エ．【切り分け】全住戸の蛇口だけを交換する。 ／ 【総合】見た目の汚れだけを補修して設備異常を放置する。

答え・4肢解説 正答：ウ

ア：Aは適切。複数住戸同時故障では共通原因の確認が効率的である。 一方Bは不適切。複数原因があり得る。

イ：Aは不適切。方式によって原因が異なる。 一方Bは適切。複合不具合では安全確保と原因の切り分けが重要である。

ウ：Aは適切。複数住戸同時故障では共通原因の確認が効率的である。 Bも適切。複合不具合では安全確保と原因の切り分けが重要である。

エ：Aは不適切。給水自体は正常である。 Bも不適切。再発・事故につながる。

総合解説：Aについて：トラブル初動では『単独か複数か』『共用か専有か』を確認する。 Bについて：対応後は修繕履歴を長期修繕計画へ反映し、同様事故の予防につなげる。

問題 0148 ｜ 難易度：1

実務チェックリストに載せる説明として、A・Bがともに適切なものはどれか。
A：応急措置
B：受付記録

ア．【応急措置】応急措置で終了せず、原因箇所を特定して恒久的な防水・外壁補修を計画する。 ／ 【受付記録】担当者の感想だけを記録する。

イ．【応急措置】雨が止んだので原因調査は不要とする。 ／ 【受付記録】発生日時、場所、症状、発生条件、影響範囲、写真・動画、応急対応等

ウ．【応急措置】養生材を永久的な防水層として扱う。 ／ 【受付記録】修理完了後に受付記録を削除する。

エ．【応急措置】応急措置で終了せず、原因箇所を特定して恒久的な防水・外壁補修を計画する。 ／ 【受付記録】発生日時、場所、症状、発生条件、影響範囲、写真・動画、応急対応等

答え・4肢解説 正答：エ

ア：Aは適切。応急措置は被害拡大防止であり、原因除去とは別である。 一方Bは不適切。客観性がない。

イ：Aは不適切。再発する可能性がある。 一方Bは適切。故障原因の切り分けと再発分析に具体的な情報が必要である。

ウ：Aは不適切。恒久工法とは限らない。 Bも不適切。履歴として残すべきである。

エ：Aは適切。応急措置は被害拡大防止であり、原因除去とは別である。 Bも適切。故障原因の切り分けと再発分析に具体的な情報が必要である。

総合解説：Aについて：緊急対応後に恒久修繕へ確実に引き継ぐ管理フローが重要である。 Bについて：同一設備で同じ故障が繰り返されていないか設備台帳と照合する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0149 ｜ 難易度：1

二つの判断ポイントを関連付けて考える。A・Bの双方が正しい組合せはどれか。
A：受付記録
B：止水

ア．【受付記録】発生日時、場所、症状、発生条件、影響範囲、写真・動画、応急対応等 ／ 【止水】安全に可能な範囲で止水し、電気設備への水濡れに注意しながら被害拡大を防ぐ。

イ．【受付記録】発生日時、場所、症状、発生条件、影響範囲、写真・動画、応急対応等 ／ 【止水】下階への連絡をしない。

ウ．【受付記録】担当者の感想だけを記録する。 ／ 【止水】安全に可能な範囲で止水し、電気設備への水濡れに注意しながら被害拡大を防ぐ。

エ．【受付記録】修理完了後に受付記録を削除する。 ／ 【止水】水が止まるまで放置する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：Aは適切。故障原因の切り分けと再発分析に具体的な情報が必要である。 Bも適切。漏水は止水と二次災害防止が最優先である。

イ：Aは適切。故障原因の切り分けと再発分析に具体的な情報が必要である。 一方Bは不適切。下階被害確認が必要である。

ウ：Aは不適切。客観性がない。 一方Bは適切。漏水は止水と二次災害防止が最優先である。

エ：Aは不適切。履歴として残すべきである。 Bも不適切。被害が拡大する。

総合解説：Aについて：同一設備で同じ故障が繰り返されていないか設備台帳と照合する。 Bについて：緊急連絡先と止水位置を設備台帳・管理マニュアルに整理しておく。

問題 0150 ｜ 難易度：1

次のA・Bの説明を検証する。両方とも適切なものはどれか。
A：総合
B：露点

ア．【総合】人身・漏電・衛生等の緊急リスクを先に抑え、発生条件と設備系統を整理して原因ごとに恒久対策を行う。 ／ 【露点】給水管のクロスコネクション

イ．【総合】人身・漏電・衛生等の緊急リスクを先に抑え、発生条件と設備系統を整理して原因ごとに恒久対策を行う。 ／ 【露点】室内の湿った空気が冷えた壁面で露点温度以下となることによる表面結露

ウ．【総合】苦情件数が少なければ安全確認をしない。 ／ 【露点】室内の湿った空気が冷えた壁面で露点温度以下となることによる表面結露

エ．【総合】全症状を一つの原因と決めつける。 ／ 【露点】エレベーターの戸開走行

答え・4肢解説

正答：イ

ア：Aは適切。複合不具合では安全確保と原因の切り分けが重要である。 一方Bは不適切。給水衛生の問題である。

イ：Aは適切。複合不具合では安全確保と原因の切り分けが重要である。 Bも適切。低温面と高湿度の組合せで表面結露が生じる。

ウ：Aは不適切。件数と危険度は別である。 一方Bは適切。低温面と高湿度の組合せで表面結露が生じる。

エ：Aは不適切。複数原因があり得る。 Bも不適切。昇降機事故の問題である。

総合解説：Aについて：対応後は修繕履歴を長期修繕計画へ反映し、同様事故の予防につなげる。 Bについて：換気・除湿・断熱・家具配置など複数の要因を確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/